

31-637



1200501246513

21

7



始



IT 34-8



31  
637

THE MARINE ALMANAC

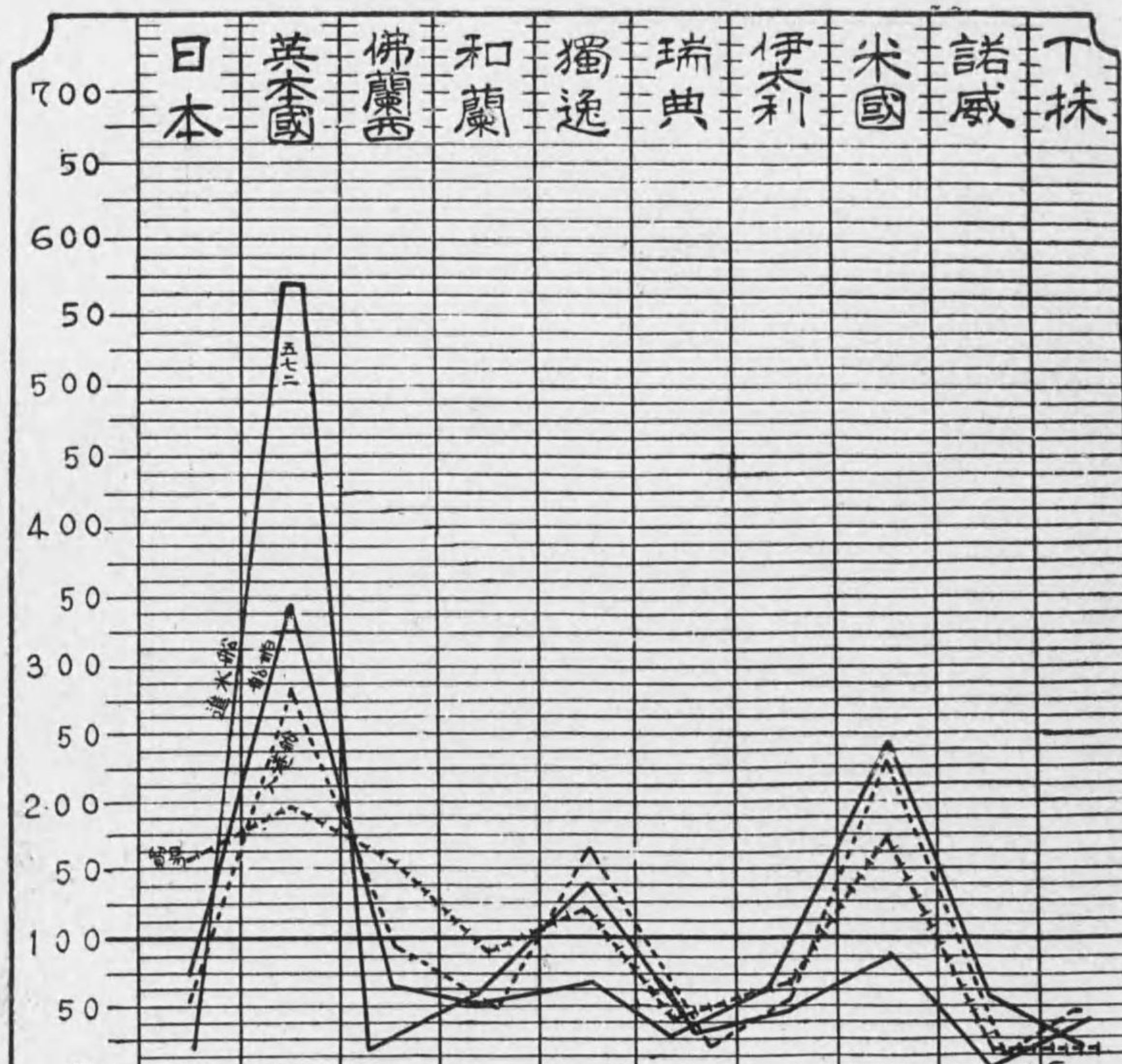
1929—30

海 事 年 鑑

昭和四年・五版

海 事 彙 報 社 發 行

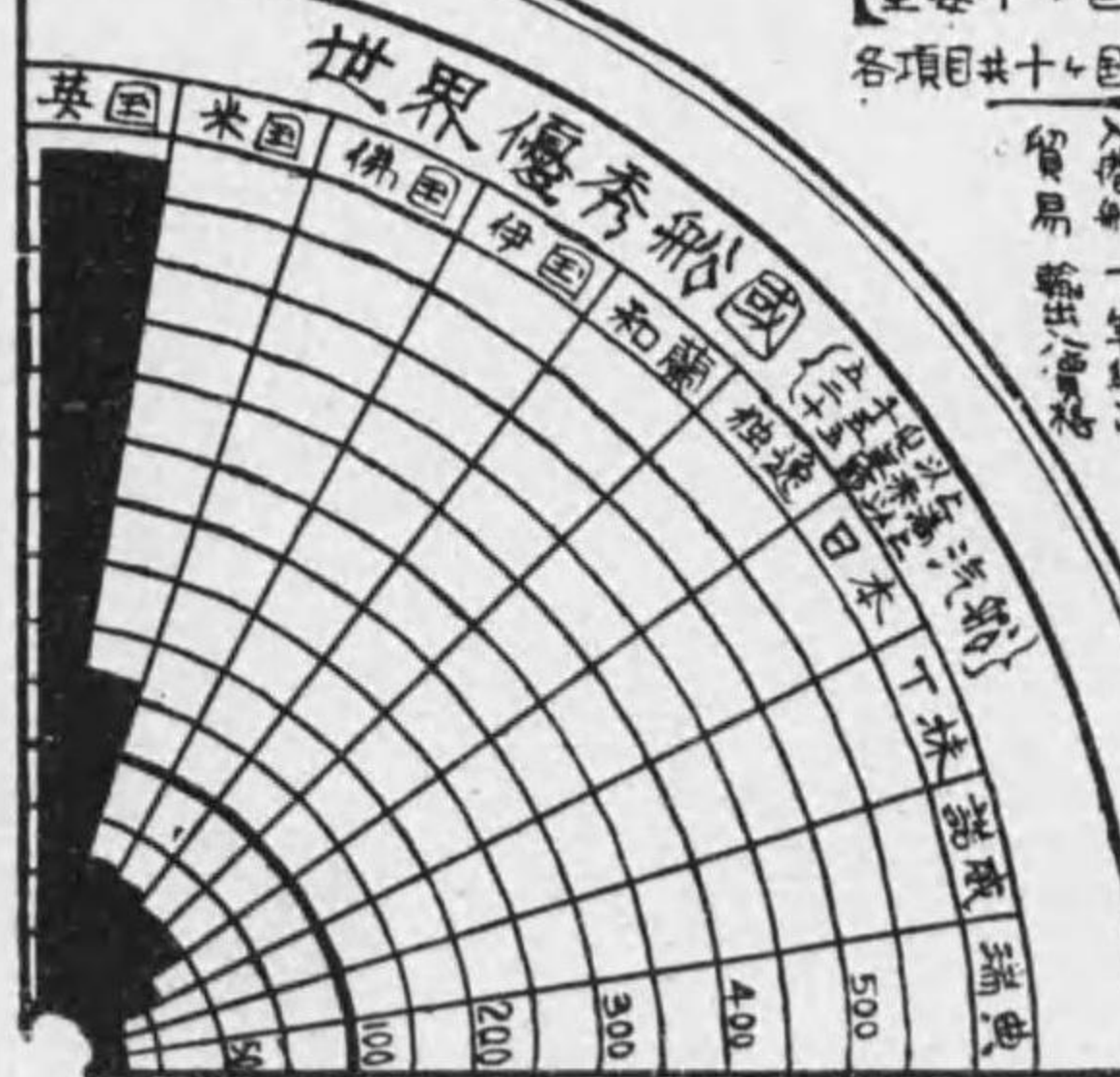




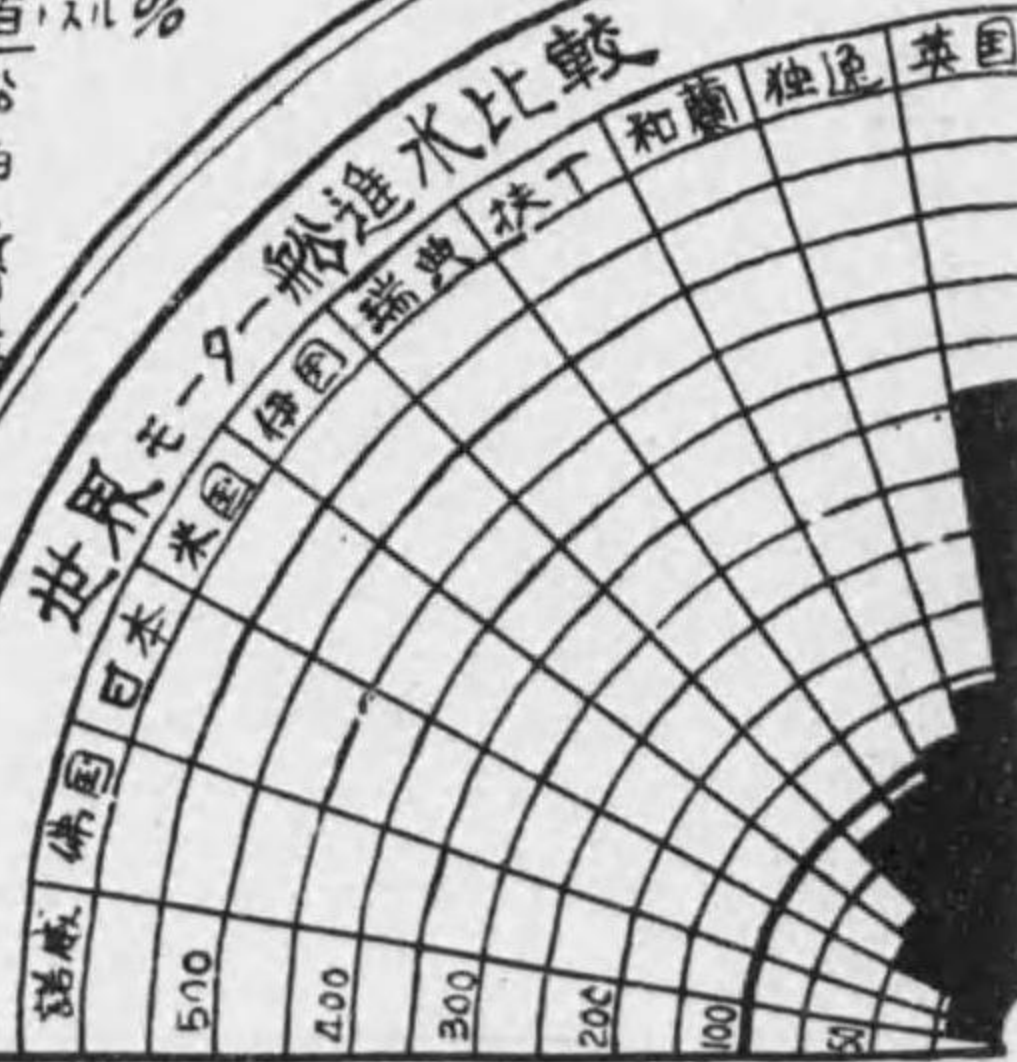
### 世界海運國之實力

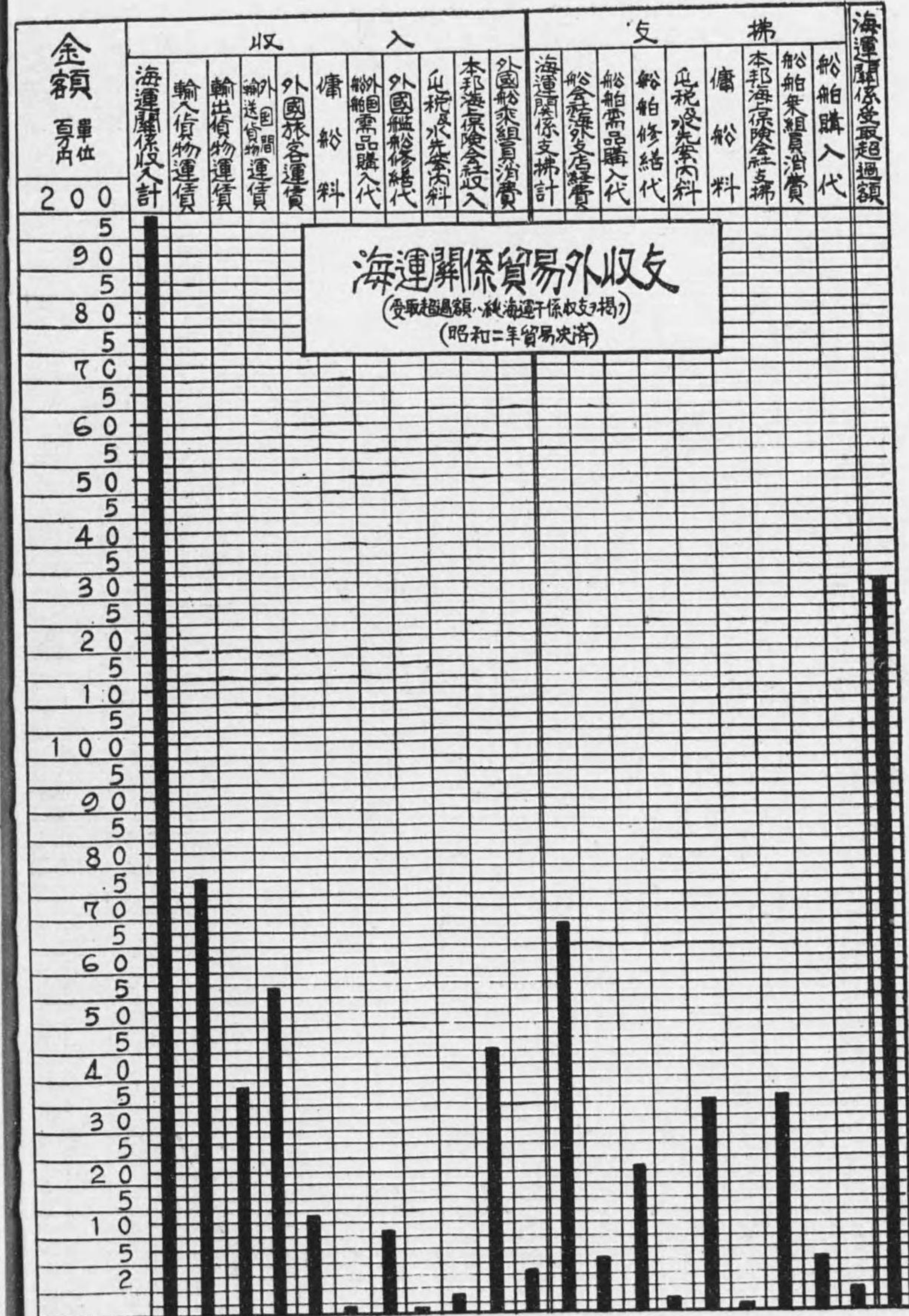
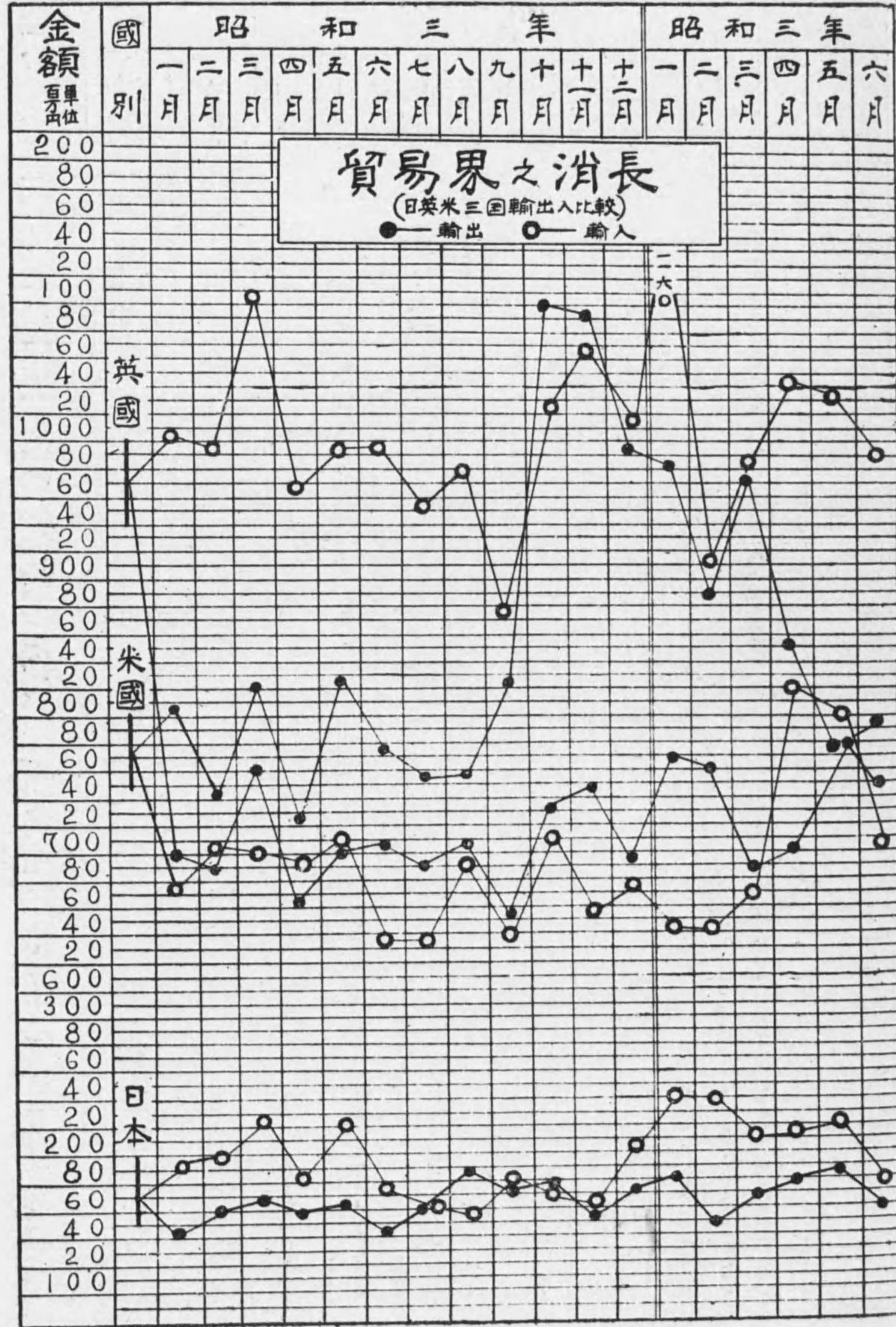
【主要十國，實力內容比較】

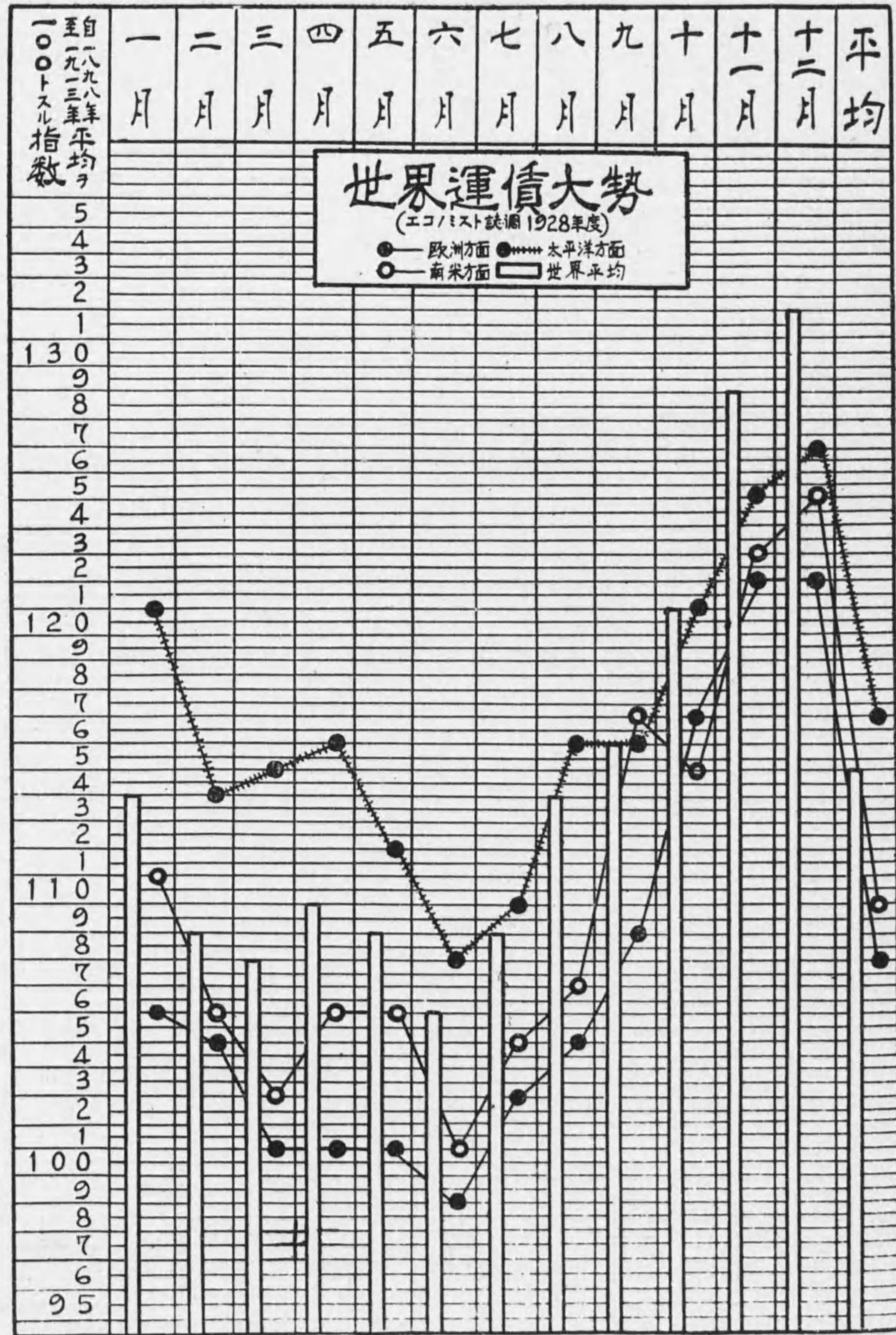
各項目共十國平均為百，其%。



造船  
船隻  
船隻  
船隻  
船隻











# 海事年鑑目次

## 卷 頭

- 一 我國運の發展趨勢……………一
- 二 世界列國の大勢……………二
- 三 世界の主な海洋……………三
- 三 世界の主な海峡……………三
- 四 世界主要運河……………四
- 五 世界主要島嶼……………五
- 六 船舶所有者分布表……………六
- 七 我國の國富……………七
- 七 世界物價趨勢……………七
- 八 内外貨幣換算表……………八
- 九 各國度量衡換算表……………九
- 一〇 世界標準時表……………一〇

## 海事累年記錄

- 海事年譜……………一一
- 海事通覽……………五四

## 海事法令拔萃

- 一 船舶法……………五九
- 一 同 施行細則……………六一
- 一 船舶積量測定法……………六六
- 一 同 規程……………六八
- 一 船舶滿載吃水線法……………六九
- 一 同 施行規則……………七一
- 一 船舶檢查法……………七二
- 一 同 施行細則……………七三
- 一 船舶法……………八三
- 一 同 施行細則……………八八
- 一 船舶最低年齡法……………八八
- 一 船舶職員法……………八九
- 一 同 施行細則……………九〇
- 一 船舶職員試驗規程……………九五
- 一 船舶職業紹介法……………九六

## 貿易及荷動

- 一 同 施行規則……………九七
- 一 海事協同會規約……………九九
- 一 水先法……………一〇一
- 一 同 施行細則……………一〇一
- 一 海員懲戒法……………一〇五
- 一 海上衝突豫防法……………一〇六
- 一 船舶通報規則……………一〇〇
- 一 開港港則……………一一二
- 一 船舶法(第五編)……………一一二
- 一 船舶無線電信施行法……………一一四
- 一 重要品輸出入番附……………一一五
- 一 輸出入重要品累年表……………一一六
- 一 對外國別貿易表……………一一七
- 一 輸出入貿易船國別表……………一一九
- 一 五港入港船舶……………一二一
- 一 主要港貿易順位比較……………一二二
- 一 日英米外國貿易月表……………一二三







### 我國運的發展趨勢

(註) 單位千、物價は指數百、十一、二年人口は不明

年	人口	歲出	貿易	正貨	公債	物價	汽船	進水船
大正三年	五、二一三	六、八四〇	入 四、六三三	三、四〇〇	二、五〇、七八	一〇〇	一、五三八	八五
同 四年	五、九四四	五、八三、三六	出 一七五、八五七	五、六〇〇	二、五二、六四	九	一、五五七	四九
同 五年	五、六三七	五、九〇、七九五	出 三、七〇、四一	七、四〇〇	二、四八二、三七	一一	一、八四七	一五四
同 六年	五、三三五	七、五〇、〇四	出 五、七、一九三	一、一〇四、〇〇	二、五〇五、五六	一三	一、九三二	三五〇
同 七年	五、六六七	一、〇七、〇三五	出 二九三、九五七	一、五八八、〇〇	二、五三、七五四	一七	二、三九七	四八九
同 八年	五、七、二三	一、一七、三三八	入 七、四、五八五	二、〇四五、五〇	二、七九三、一五	二九	二、七九〇	六一
同 九年	五、七、九八	一、三五、九七六	入 三、七、七八〇	二、一七、〇〇	三、一五、〇三八	三三	二、九五二	四五六
同 十年	五、六、九七	一、四八、八三六	入 三、六、二二七	二、〇八〇、〇〇	三、五、一、六九三	三〇	三、一六七	三三七
同 十一年	五、六、九七	一、四三、六八九	入 三、五、八五七	一、八三〇、〇〇	三、七、三、一三	二二	三、二五五	八三
同 十二年	五、九、三六	一、五二、〇五〇	入 五、四、四七九	一、六五三、〇〇	三、八、〇、五四八	三三	三、三三二	七三
同 十三年	五、九、三六	一、六五、〇三四	入 六、四、一五七	一、四六七、〇〇	四、三〇八、八九四	三四	三、五八	七一
同 十四年	五、九、七六	一、五、四、九八八	入 二、六、〇六八	一、四一三、〇〇	五、〇、六、二四	三〇	三、四九六	五七
昭和元年	(總計) 八、三、四五五	一、六、六、七五	入 三、三、七五四	一、三、五七、〇〇	五、一、六、二五六	一七	三、六〇二	五一
同 二年	—	一、七、五、八九〇	入 一、八、八、三六	一、二、七三、〇〇	五、三、六、二〇〇	一七	三、六七〇	五八
同 三年	—	一、七、九、〇〇〇	入 二、〇、一、一六八	一、一、七八、〇〇	五、八、三、二六一	一八	三、七五	一〇九

### 保險

- 一 海上保險契約趨勢……………二八三
- 一 海上保險成績……………二八三
- 一 世界主要海上保險成績……………二八五
- 一 世界海難喪失船統計……………二八六
- 一 本邦喪失船舶……………二八八
- 一 本邦海難船及海難者累年表二八八
- 一 本邦汽船遭難明細……………二八九

### 事業成績

- 一 世界石炭埋藏量……………二九三
- 一 世界石炭產額……………二九三
- 一 本邦炭界趨勢……………二九四
- 一 內地消費炭內容……………二九五
- 一 筑豐炭成績……………二九六
- 一 世界焚料炭標準價……………二九八
- 一 昭和二年度炭價……………二九八
- 一 世界石油產額……………二九九
- 一 世界重油供給港……………三〇〇
- 一 本邦關係會社成績……………三〇三
- 一 關係會社株價……………三〇五
- 一 本邦汽船會社累年營業成績三〇五
- 一 外國汽船會社成績……………三〇六
- 一 新設會社……………三〇八

### 附錄

- 一 歷代遞信大臣……………一
- 一 歷代遞信次官……………二
- 一 歷代管船局長……………二
- △職員錄
- 一 官公署團體……………三
- 一 汽船會社……………二〇
- 一 造船會社……………五五
- 一 海上保險會社……………六八
- 一 運輸及倉庫會社……………八二
- 一 船舶用品會社……………八四
- △住所錄
- 一 船主……………八七
- 一 海運業者……………九四
- 一 造船業者……………一〇
- 一 海上保險業者……………一三
- 一 船用品業者……………一七
- 一 倉庫業者……………一九
- 一 辯護士補佐人代願人……………二三

### 世界列國の大勢

本調査は千九百廿五年の發行に係る英國ステーツマンズ、エイヤリーブツク金準備及紙幣一九二五年ウオールド年鑑に據るものなり、面積人口は殖民地加算他は本國のみ亦日、英、米貿易は千九百二十七年年度なり

國名	面積 (方哩)	人口 (千人)	歳入 (千鎊)	歳出 (千鎊)	輸入 (千鎊)	輸出 (千鎊)	國債 (千鎊)	金準備 (千鎊)	紙幣 (千鎊)
日本	377,170	73,456	175,896	158,897	27,733	199,208	574,875	250,009	854,216
支那	4,277,170	377,673	61,970	61,970	258,847	183,928	233,833	—	67,382
英吉利	8,511,197	439,300	81,066	79,400	1,293,387	831,268	7,634,000	42,618	2,604,950
佛蘭西	3,780,409	92,000	224,693	224,598	376,603	366,632	2,060,000	39,795	7,350,000
獨逸	1,851,885	62,568	27,951	27,951	290,093	188,101	63,199	2,378	8,372,713
伊太利	1,088,781	40,330	76,083	77,983	634,485	322,253	141,700	50,918	4,246,174
白耳義	92,398	33,474	27,452	27,452	137,450	91,974	776,823	17,424	1,181,200
和蘭	1,538,090	56,398	56,755	56,755	136,033	93,845	208,522	48,138	456,205
露西亞	8,273,130	131,123	357,018	257,033	—	—	—	9,254	28,433
西班牙	355,233	13,091	70,595	91,099	50,455	33,497	478,533	100,277	834,200
葡萄牙	971,714	14,870	26,933	52,822	52,110	24,874	33,831	200	200
希臘	41,933	5,526	51,950	51,950	66,494	33,679	46,893	6,940	266
丁抹	57,408	3,358	24,666	27,703	62,266	51,250	116,900	2,560	149,196
瑞典	170,035	5,900	38,627	38,627	64,020	60,798	79,081	14,996	206,647
挪威	144,960	2,607	29,000	29,000	167,833	65,722	67,811	8,324	129,340
米國	3,141,492	27,705	78,200	7,653,480	838,637	973,352	4,795,250	784,074	4,674,839
亞爾然丁	1,153,219	8,658	52,799	56,056	25,005	201,350	262,285	7,880	624,030
伯刺西爾	3,275,500	30,635	48,030	42,813	38,952	54,955	276,573	800	955,280

### 世界の主な海洋

(「理科」に據る)

海洋名	面積 (平方哩)	平均深度 (米)	表面均温 (攝氏)	表面鹽分 (千分率)
太平洋	165,725,490	4,097	3.73	34.91
大西洋	81,657,800	3,850	4.02	35.37
印度洋	73,411,960	3,929	3.82	34.81
北極海	30,815,250	3,997	—	35.00
オーストラリア海	14,352,300	1,170	0.66	33.50
アメリカ海(カリブ)	8,255,060	1,089	6.90	33.87
アメリカ海(カリブ)	4,584,570	2,090	6.60	35.95
地中海(ヨーロッパ)	2,967,570	1,431	13.35	34.85
アドソン灣	1,233,610	218	1.02	7.8
紅海	458,480	488	3.69	38.8
バルト海	406,720	55	3.91	26.0
ベルンツ海	233,850	25	2.00	36.7
地中海(大陸間)	33,350,200	1,233	—	30.7
ベーリಂಗ海	2,274,800	1,444	2.00	30.3
オホーツク海	1,507,610	1,270	1.50	30.9
東支那海	1,242,480	177	9.29	33.1

### 世界の主な海峡

(「理科」に據る)

名種(所在地)	長 (基米)	幅 (基米)	最深所 (米)	最淺所 (米)
日本海	1,043,820	—	0.90	34.1
アングマン海	790,550	—	7.79	100.9
イギリス海	571,900	—	9.4	34.2
カリフォルニア灣	229,300	—	2.8	9.4
ローレンシア灣	223,380	—	6.2	2.8
北海	166,790	—	9.87	7.73
タスマン海	83,170	—	7.2	35.5
沿海	8,133,820	—	9.71	3.66
近海(地中海)	4,464,020	—	1.80	30.8
近海(大洋十)	3,279,260	—	3.61	34.9
北半球	—	—	—	—
南半球	—	—	—	—
各種(所在地)	—	—	—	—
ベーリಂಗ(アジア、北アメリカ)	60	35	5.7	7.7
ズエーデン(デンマルク、スウェーデン)	110	4	3.8	3.3
大ベルト(デンマルク)	120	1.6	5.5	3.3
小ベルト(デンマルク)	180	0.6	8.0	7.7
ドレーヴァー(イギリス、フランス)	55	33	6.3	2.4

シアラタル(イスバニア、アフリカ)	九〇	一四	九八〇	二〇〇
ベル・アイル(ニューファウンランド、ラブラドル)	一三〇	三	一四六	四
カボット(ニューファウンランドの南)	九〇	五〇	五九	三六〇
モナパツセーシ(アンチル諸島の中央)	二〇〇	一〇五	一五七〇	六〇
朝鮮(九州、朝鮮)	二二〇	一四〇	二二五	一七〇
臺灣(臺灣、支那)	三〇〇	二〇〇	一三七	四〇
シンガポール(シンガポール、マライ半島)	五〇	一六五	五七	六
マライ(マライ半島、スマトラ)	七六〇	三	七	三
バルク(インド、セイロン)	一六〇	五	三	七
ホルムス(アラビヤ、ペルシヤ)	八五	一五	一四	三
バベル・マンデブ(アフリカ、アラビヤ)	五〇	一七五	三〇	六
ボスボラス(トルコ)	三〇	〇・七	三〇	二七
ダーダネルス(トルコ、ギリシヤ)	七	一・三	一〇五	四
カトラトンド(イタリー、ギリシヤ)	一三〇	七五	九七六	一五
メツシナ(イタリー、シシリー)	四三	三・五	二五八	八五

ウインドワード(キューバ、ハイチ)	二二〇	八五	一五〇	二九〇
フロリダ(北米キューバ)	二〇〇	八〇	一八三〇	一一〇
ニカタン(中米キューバ)	二七〇	三〇	二〇〇〇	九〇
◎南 半 球				
カツク(南北ニューシラランド)	二〇	八五	三〇	一四〇
バス(オーストラリア、タスマニア)	三三〇	一〇	一五	六五
トーレス(オーストラリア、ニューギニー)	四〇〇	八五	三	九
スンダ(スマトラ、ジャバ)	一〇〇	五〇	一〇六	三
マジエラン(南アフリカ)	六〇	四三	三〇	二〇

(理科)に據る)

名 稱 (所在地)	長サ(幅)基米	開通年
スエス(エジプト)	一六八(八一三〇)	一八六九
キール(ドイツ)	九(二〇)	一八九五
パナマ(中米)	九三(六七)	一九一五
エルベ及トラップ(獨逸)	六四(三)	一九〇〇
マンチエスター(英)	五七(三六・六)	一八九四
ウエラント(カナダ)	四三(三〇)	一八八七
スケル(インド)	三(一)	開鑿中

世界主要島嶼

北 海(和 蘭)	二六・五(二六)	一八七
グリーンランド(丁)	二五・七(六七)	一八九
名 種 (所屬)	(面積一萬平方哩以上)	(面積(平方哩))
グリーンランド(英、和)	北氷洋	八七、三〇〇
ニュー・ギニー(英、和)	太平洋	三〇〇、〇〇〇
ホルネオ(英、和)	同	二八〇、〇〇〇
バフィンランド(英)	北氷洋	二二六、〇〇〇
マダガスカー(佛)	印度洋	三二八、〇〇〇
スマトラ(和)	印度洋	一六〇、〇〇〇
大不列顛	大西洋	八八、六〇三
本 州 (日)	太平洋	八七、五〇〇
セレベス(和)	印度洋	七三、〇〇〇
プリス・アルバート(英)	北氷洋	六〇、〇〇〇
ニューシラランド南島(英)	太平洋	五八、五〇〇
瓜 哇 (和)	印度洋	四八、四〇〇
ニューシラランド北島(英)	太平洋	四四、五〇〇
玖 馬	太平洋	四四、〇〇〇
呂 宋 (米)	太平洋	四〇、〇〇〇
ニューファウンランド(英)	大西洋	四〇、二〇〇
アイスランド	同	四〇、〇〇〇
エレスミリア(英)	北氷洋	四〇、〇〇〇

ミンダナオ(米)	太平洋	三七、〇〇〇
北 海 道 (日)	同	三六、五〇〇
愛 蘭 (英)	大西洋	三三、六〇〇
ノヴァヤ・ジエムリア(露)	北氷洋	三〇、〇〇〇
樺 太 (日、露)	太平洋	二九、一〇〇
ハイチ	太平洋	二八、二〇〇
タスマニア(英)	太平洋	二六、二五
錫 蘭 (英)	印度洋	二五、四〇〇
バンクス(英)	北氷洋	二五、〇〇〇
ノース・デヴォン(英)	同	二四、〇〇〇
晚 香 坡 (英)	太平洋	二〇、〇〇〇
メルウイルランド(英)	北氷洋	二〇、〇〇〇
チエラ・デル・フェゴ(アルゼンチン)	大西洋	一八、五〇〇
チャムプトン(英)	北氷洋	一七、八〇〇
西スピッツベルゲン(諾)	同	一五、二六〇
プリンス・オヴウェールス(英)	北氷洋	一五、〇〇〇
臺 灣 (日)	太平洋	一三、五〇〇
北ソマーセット(英)	北氷洋	一三、〇〇〇
シシリー(伊)	地中海	一〇、〇〇〇
コルシカ(佛)	地中海	三、三六七
新 嘉 坡 (英)	南支那海	二七
セント・ヘレン(英)	太平洋	四
香 港 (英)	南支那海	三

船舶所有者分布表

(昭和四年六月現在)

汽噸數五百噸以上  
船舶所有者

港名	會社數	總隻數	總噸數
東京	三六社	二七隻	一、三七、六七噸
橫濱	五	八	九、三、七噸
大阪	五	八	九、三、七噸
神戶	七	一〇	一〇、〇、五噸
小樽	七	一〇	一〇、〇、五噸
函館	三	七	三、八、六噸
大室	一	三	四、六、九噸
青森	一	三	三、九、〇噸
鹽釜	一	二	一、二、五噸
新船	一	一	一、八、五噸
直津	一	一	九、九、四噸
伏見	一	一	七、五、三噸
七尾	一	一	一、五、五噸
敦賀	一	一	二、八、四噸
宮津	一	一	二、三、四噸
境津	一	一	二、三、四噸
桑名	一	一	一、八、三噸
和歌山	二	四	三、四、七噸
歌山	二	四	一、六、九噸
大連	三	六	一、九、五噸

我國の國富 (大正十三年現在)

項目	大正十三年末	戰後(大正八年)	戰前(大正二年)
國富總額	一〇、三、三、四九	一、六、三、六、四二	七、〇、〇、〇、三六
人口一人當	一、七、三、三圓	二〇、一圓	一、二、五、五圓
國富內譯(主要項目)			
土地	三、三、四、七圓		
礦山	三、三、三、三圓		
海湖川及港灣	五、五、八、六〇		
樹木	一、七、四、六、七		
建物	一、六、三、三、七		
家具及家材	九、六、四、〇		
製造工業機械	一、九、七、七〇		
鐵道及軌道	三、五、四、四二		
農産品	三、三、一、〇、四二		
工業産品	三、三、一、二、六		
貨幣及金銀地金	二、八、二、三、六二		
各省財產	六、四、八、三、八		

世界物價趨勢

年	東京	倫敦	紐育	巴里
三年七月	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
開戰後第一年平均	九二	一〇六	一〇八	一〇四
開戰後第二年平均	一一三	一四九	一四九	一四九
開戰後第三年平均	一一九	一六九	一六九	一六九
開戰後第四年平均	一二八	一八八	一八八	一八八
開戰後第五年平均	一三三	二〇九	二〇九	二〇九
構和後第一年平均	一三二	一八八	一八八	一八八
十年平均	一三二	一八八	一八八	一八八
十一年平均	一三二	一八八	一八八	一八八
十二年平均	一三二	一八八	一八八	一八八
十三年平均	一三二	一八八	一八八	一八八
十四年平均	一三二	一八八	一八八	一八八
十五年平均	一三二	一八八	一八八	一八八
同二年	一七六	一五八	一五八	一五八
同三年	一七六	一五八	一五八	一五八
同四年	一七六	一五八	一五八	一五八
同五年	一七六	一五八	一五八	一五八
同六年	一七六	一五八	一五八	一五八
同七年	一七六	一五八	一五八	一五八
同八年	一七六	一五八	一五八	一五八
同九年	一七六	一五八	一五八	一五八
同十年	一七六	一五八	一五八	一五八

海キメセン  
ロチメ  
メートトル  
トトル  
里トル  
一六五  
米本米

ヘア平方  
ク方キ  
ターキ  
ールメ  
トル

百百基  
ア平方  
ール方  
米本

キ立方  
ロツメ  
リツト  
トル

千立方  
立米  
基本

カトキ  
カララ  
ララム  
ム

二千基  
百基  
底底本

(長)  
百分の一  
米本

(面)  
平方メートル  
平方キロメートル

(積)  
立方メートル  
立方デシメートル  
立方センチメートル

(容)  
立方メートル  
立方デシメートル  
立方センチメートル

(重)  
百萬分の一  
米本

日本施行メートル法(要項)

表算換衡量度國各

支那		伊獨佛		英米		暹羅		印度		支那	
寸	尺	丈	里	糈	糧	米	基	吋	呎	碼	鎖
0.0175	0.033	0.109	0.393	0.00033	0.00033	0.00033	0.00033	0.0254	0.3048	0.9144	0.00033
分	分	瓦	基	封	本	輕	重	衡	量	ソ	ン
0.000175	0.00033	0.00033	0.00033	0.00033	0.00033	0.00033	0.00033	0.00033	0.00033	0.00033	0.00033
擔	斤	兩	斤	兩	斤	兩	斤	兩	斤	兩	斤
0.00033	0.00033	0.00033	0.00033	0.00033	0.00033	0.00033	0.00033	0.00033	0.00033	0.00033	0.00033

表算換幣貨外内

純分比價ノ部		英吉利		北米		合衆國		獨逸		佛蘭西		瑞耳西		伊太利		葡萄牙		西班牙	
磅	二十志	凡我	九四七	三	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
「クローン」	同	「ギルド」	同	「ピアストル」	同	「クローネ」	同	「フラン」	同	「マルカ」	同	「フラン」	同	「リラ」	同	「ベセタ」	同	「ミルリ」	同
五三・八〇	同	八〇・六〇	同	八・八〇	同	四〇・七〇	同	一〇・三〇	同	一〇・三〇	同	一〇・三〇	同	一〇・三〇	同	一〇・三〇	同	一〇・三〇	同
「コンドル」	同	「セクタボス」	同	「ミルレイス」	同	「レイス」	同	「ドル」	同	「ドル」	同	「ドル」	同	「ドル」	同	「ドル」	同	「ドル」	同
一四・六四	同	七三・三	同	一〇・九六	同	一〇・九六	同	一〇・九六	同	一〇・九六	同	一〇・九六	同	一〇・九六	同	一〇・九六	同	一〇・九六	同









【海事年譜】

延元	六	一三四	足利直義天龍寺船二隻を以て元と貿易を始む
正平	五	一三五〇	倭寇始めて起る
	三	一三六〇	元使倭寇の難を訴ふ
文中	二	一三七三	明王修好使を日本に遣はし書を足利義満に致す
天授	五	一三九〇	〔佛人ド・ウイック時計製造に成功す〕
應永	元	一三九四	〔葡萄牙の航海獎勵王子ヘンリー・ザ・ナビゲーター生る〕
	八	一四〇一	八幡船起る。倭寇滋し
	九	一四〇二	足利義満明使を引見す
	九	一四〇三	南蠻使若狹に来る
	六	一四〇〇	〔葡萄牙マデイラ、カナリーの二島をさる〕
文明	同	一四〇七	〔平面海圖及羅針盤始めて航海に用ひらる〕
明應	元	一四九二	〔バートロミユド・チアツ喜望峯を發見す〕
	六	一四九七	〔クリストフア・コロムブス亞米利加を發見す(八月三日サンタマリア號、ヒンタ號ニナ號の三隻西班牙ボロス港を解纜す)〕
	同	一四九七	〔ザアスコ・ダ・ガーマ喜望峯を迂回して印度カルカッタに至り印度航路を開拓す〕
	八	一四九九	〔伊太利人ジョン・カボット英王ヘンリー八世の命により北米探検に上り加奈陀東端ブレトン岬を發見す〕
			〔西班牙人アメリカ・ヴェスパッチ米大陸沿岸を航し亞米利加の名を生ず〕

【海事年譜】

永正	三	一五〇〇	〔西班牙人ヴァインセント・ヤーネーツ・ピンツオン伯刺西爾を發見す〕
	四	一五〇五	〔葡人錫蘭島を侵す〕
	六	一五〇九	〔英王ヘンリー八世即位永久的英艦隊を建設す〕
	同	一五一〇	〔葡人孟買に至り更にスマトラ島アチンに至る〕
	二	一五一一	〔葡人マラツカに植民地を開く〕
	二	一五二二	〔英人セバスチアン・カボト加奈陀ハドソン灣に至る〕
	三	一五二三	〔西班牙人ヴァスコ・ヌネーツ・バルホア巴奈馬ダリエン地峽を過りて太平洋を發見す〕
	三	一五二六	足利幕府遣明船の勘合符を大内義興に專管せしむ
	四	一五二七	〔西班牙軍人フェルナンド・ヘルナンデス・コルドヴァ墨西哥を發見す〕
	六	一五二九	〔葡人フェルナンド・マガリエンス世界最初の周航をなし南米南端の海峽をマゼラン海峽と名く〕
天文	二	一五三三	〔西班牙人フランシスコ・ピツアロ秘露を攻略してリマ市を建つ〕
	三	一五三四	〔西班牙人北米カリフォルニアを發見す〕
	四	一五三五	〔西班牙人シエダ・フルタード・ド・メンドーツア亞爾然丁ベノスアイレッツ港を建つ〕
	五	一五三六	〔西班牙人シゴゴ・ド・アルマゴロ智利を發見し翌年同國人シユアン・サーベドレイはヴァルパライソ港を建つ〕
	三	一五四三	葡萄牙人ピント種子島に來り鐵砲を傳ふ

【海事年譜】

弘治	永祿	元龜	天正	文祿
一八	三	元	五	同
一九	四	元	八	元
二〇	一	元	九	同
二一	一	元	〇	同
二二	一	元	一	同
二三	一	元	二	同
二四	一	元	三	同
二五	一	元	四	同
二六	一	元	五	同
二七	一	元	六	同
二八	一	元	七	同
二九	一	元	八	同
三〇	一	元	九	同
三一	一	元	〇	同
三二	一	元	一	同
三三	一	元	二	同
三四	一	元	三	同
三五	一	元	四	同
三六	一	元	五	同
三七	一	元	六	同
三八	一	元	七	同
三九	一	元	八	同
四〇	一	元	九	同
四一	一	元	〇	同
四二	一	元	一	同
四三	一	元	二	同
四四	一	元	三	同
四五	一	元	四	同
四六	一	元	五	同
四七	一	元	六	同
四八	一	元	七	同
四九	一	元	八	同
五〇	一	元	九	同
五一	一	元	〇	同
五二	一	元	一	同
五三	一	元	二	同
五四	一	元	三	同
五五	一	元	四	同
五六	一	元	五	同
五七	一	元	六	同
五八	一	元	七	同
五九	一	元	八	同
六〇	一	元	九	同
六一	一	元	〇	同
六二	一	元	一	同
六三	一	元	二	同
六四	一	元	三	同
六五	一	元	四	同
六六	一	元	五	同
六七	一	元	六	同
六八	一	元	七	同
六九	一	元	八	同
七〇	一	元	九	同
七一	一	元	〇	同
七二	一	元	一	同
七三	一	元	二	同
七四	一	元	三	同
七五	一	元	四	同
七六	一	元	五	同
七七	一	元	六	同
七八	一	元	七	同
七九	一	元	八	同
八〇	一	元	九	同
八一	一	元	〇	同
八二	一	元	一	同
八三	一	元	二	同
八四	一	元	三	同
八五	一	元	四	同
八六	一	元	五	同
八七	一	元	六	同
八八	一	元	七	同
八九	一	元	八	同
九〇	一	元	九	同
九一	一	元	〇	同
九二	一	元	一	同
九三	一	元	二	同
九四	一	元	三	同
九五	一	元	四	同
九六	一	元	五	同
九七	一	元	六	同
九八	一	元	七	同
九九	一	元	八	同
一〇〇	一	元	九	同

一五九 一五九〇 フランソア・ザビエー鹿兒島に來り布教を始む

一五〇 一五〇〇 「丁抹の星學者タイチヨ・ブラーへ獨立アウグスブルクに於て六分儀を發見す」

一五一 一五一〇 「フランダース(今の白耳義)地理學者セラール・ド・マーケーター漸増緯度海圖を創立す」

一五二 一五二〇 「エリサベス女皇即位、頻りに西班牙と戰爭して領土を爭奪す」

一五三 一五三〇 天主教徒初めて京都に入る

一五四 一五四〇 「英人ブールン初めてログ・ラインを航海に用ふ」

一五五 一五五〇 「英海將サー・フランシス・ドレーク第二回目の世界周航を遂ぐ」

一五六 一五六〇 英國船始めて平戸に來る

一五七 一五七〇 西班牙船始めて平戸に來る

一五八 一五八〇 大友宗麟、有馬晴信、大村純忠の諸大名使をローマに遣はす。日本人印度洋通航の最初なり

一五九 一五九〇 「英人ジョン・ダビス、ダビス海峡を發見す」

一六〇 一六〇〇 「サー・ウォルター・ラレー北米ヴァージニア州に英國植民地を開く」

一六一 一六一〇 「葡國マ那澳門を獲得す」

一六二 一六二〇 「英將サー・フランシス・ドレーキ西班牙船を拿捕し印度通商の有利を知る」

一六三 一六三〇 「英將ワード卿英佛海峡に百二十九隻の西班牙無敵艦隊と戦ひて之を全滅す」

一六四 一六四〇 御未印船始めて許さる

一六五 一六五〇 豐臣秀吉朝鮮征伐の帥を起し兵船七百艘を熾す

慶長

慶長	元和	寛永
三	二	五
四	三	六
一五八	八	一六六
一五九	九	一六七
一六〇	〇	一六八
一六一	一	一六九
一六二	二	一七〇
一六三	三	一七一
一六四	四	一七二
一六五	五	一七三
一六六	六	一七四
一六七	七	一七五
一六八	八	一七六
一六九	九	一七七
一七〇	〇	一七八
一七一	一	一七九
一七二	二	一八〇
一七三	三	一八一
一七四	四	一八二
一七五	五	一八三
一七六	六	一八四
一七七	七	一八五
一七八	八	一八六
一七九	九	一八七
一八〇	〇	一八八
一八一	一	一八九
一八二	二	一九〇
一八三	三	一九一
一八四	四	一九二
一八五	五	一九三
一八六	六	一九四
一八七	七	一九五
一八八	八	一九六
一八九	九	一九七
一九〇	〇	一九八
一九一	一	一九九
一九二	二	二〇〇
一九三	三	二〇一
一九四	四	二〇二
一九五	五	二〇三
一九六	六	二〇四
一九七	七	二〇五
一九八	八	二〇六
一九九	九	二〇七
二〇〇	〇	二〇八
二〇一	一	二〇九
二〇二	二	二一〇
二〇三	三	二一一
二〇四	四	二一二
二〇五	五	二一三
二〇六	六	二一四
二〇七	七	二一五
二〇八	八	二一六
二〇九	九	二一七
二一〇	〇	二一八
二一一	一	二一九
二一二	二	二二〇
二一三	三	二二一
二一四	四	二二二
二一五	五	二二三
二一六	六	二二四
二一七	七	二二五
二一八	八	二二六
二一九	九	二二七
二二〇	〇	二二八
二二一	一	二二九
二二二	二	二三〇
二二三	三	二三一
二二四	四	二三二
二二五	五	二三三
二二六	六	二三四
二二七	七	二三五
二二八	八	二三六
二二九	九	二三七
二三〇	〇	二三八
二三一	一	二三九
二三二	二	二四〇
二三三	三	二四一
二三四	四	二四二
二三五	五	二四三
二三六	六	二四四
二三七	七	二四五
二三八	八	二四六
二三九	九	二四七
二四〇	〇	二四八
二四一	一	二四九
二四二	二	二五〇
二四三	三	二五一
二四四	四	二五二
二四五	五	二五三
二四六	六	二五四
二四七	七	二五五
二四八	八	二五六
二四九	九	二五七
二五〇	〇	二五八
二五一	一	二五九
二五二	二	二六〇
二五三	三	二六一
二五四	四	二六二
二五五	五	二六三
二五六	六	二六四
二五七	七	二六五
二五八	八	二六六
二五九	九	二六七
二六〇	〇	二六八
二六一	一	二六九
二六二	二	二七〇
二六三	三	二七一
二六四	四	二七二
二六五	五	二七三
二六六	六	二七四
二六七	七	二七五
二六八	八	二七六
二六九	九	二七七
二七〇	〇	二七八
二七一	一	二七九
二七二	二	二八〇
二七三	三	二八一
二七四	四	二八二
二七五	五	二八三
二七六	六	二八四
二七七	七	二八五
二七八	八	二八六
二七九	九	二八七
二八〇	〇	二八八
二八一	一	二八九
二八二	二	二九〇
二八三	三	二九一
二八四	四	二九二
二八五	五	二九三
二八六	六	二九四
二八七	七	二九五
二八八	八	二九六
二八九	九	二九七
二九〇	〇	二九八
二九一	一	二九九
二九二	二	三〇〇
二九三	三	三〇一
二九四	四	三〇二
二九五	五	三〇三
二九六	六	三〇四
二九七	七	三〇五
二九八	八	三〇六
二九九	九	三〇七
三〇〇	〇	三〇八
三〇一	一	三〇九
三〇二	二	三一〇
三〇三	三	三一〇
三〇四	四	三一〇
三〇五	五	三一〇
三〇六	六	三一〇
三〇七	七	三一〇
三〇八	八	三一〇
三〇九	九	三一〇
三一〇	〇	三一〇

和蘭船始めて豊後に漂着す

〔獨星學者ヨハン・ケプラー潮汐の理法を發見す〕

〔英國東印度會社設立せらる〕

英人三浦按針、蘭人耶揚子等平戸に來り家康之を重用して西洋形船を造らしむ

〔蘭人濠洲發見を主張す〕

〔和蘭東印度會社設立さる〕

〔サー・ウォルター・ラレー海上貿易論を著はし蘭船壓迫を論ず〕

始めて蠶糸貿易の制を定め京都、堺、長崎に布く

〔英人ウキリアム・バローウエ船用羅針盤を完成す〕

〔佛人サムエル・ド・シヤムプレーン加奈陀クエベック市を建つ〕

〔英人ヘンリー・ハドソン加奈陀ハドソン灣に至る〕

〔蘭人瓜哇の統治を創む〕

徳川家康葡、西兩國船の來泊を禁す

伊達政宗家臣支倉六右衛門常長を羅馬に遣はす

〔蘭人ニウ・アムステルダム市(今の紐育)を建つ〕

徳川幕府外國商船條例を制定す

〔英人エドモンド・ガンター對數表を航海術に應用す〕

〔中分緯度航海法發明さる〕

濱田彌兵衛臺灣和蘭總督公館を襲ひ總督の子を人質とす

【海事年譜】



【海 事 年 譜】

五	一七六	〔英人キヤプテン・シエームス・クック第一次世界周航の途に就く(第二次一七七二年第三次一七七五年)〕
六	一七九	〔ジエームス・ワット蒸気機開発の特許を受く〕
二	一七三	〔ロイツ組合事務所をローヤル・エクスチェンシに移す〕
三	一七四	〔英國印度統治中心をマドラス甲谷陀に移す〕
四	一七五	〔米國獨立戦争起る(一七八三年巴里に講和條約調印)〕
同	〃	〔米國議會は海軍法を可決し米國商船は砲一門を備ふべき事を命令す米國海軍の萌芽なり〕
五	一七六	〔西班牙人初めて桑港に至リエルバ・プエナを呼ぶ〕
七	一七七	〔蘇克蘭の富豪ホトリック・ミラー蒸気機關を備へたる遊船を作る〕
八	一七八	幕府長崎奉行に令して拔荷禁令を布く
三	一七九	漂着外國船處分令を發す
四	一七九	林子平海國兵談十六卷を著はし罪に處せらる
同	〃	露國船我漂流民を送りて函館に入る
五	一七九	〔奈翁戦争起り英佛宣戰す〕
〇	一七八	〔佛人ニコラス・ジャック・コンテ無水晴雨計を發明す〕
同	〃	〔ネルソン提督ナイル海戦に佛國艦隊を撃破す〕
同	〃	近藤重藏蝦夷を巡視す
三	一八〇	高田屋嘉兵衛提督近海を試航す

享和

元	一八一	間宮倫宗樺太韃靼探檢の途に就く
二	一八〇	〔英人ウキリアム・シミンガトン七十噸積の蒸気船シャロット・ダングスを作りクライド河を航行せしむ汽船の初めなり〕
三	一八〇	米船初めて長崎に入る

文化

二	一八〇	〔ネルソン提督トラファルガーに佛國聯合艦隊を撃破し戦死す〕
三	一八〇	〔奈翁大陸條例を宣し大に通商航海を妨ぐ〕
四	一八〇	〔米人ロバート・フルトン外車汽船クラーモント號を作りハドソン河を航行せしめ紐育オールバニー間の旅客を運送す〕
五	一八〇	間宮倫宗樺太奥地に入る
九	一八〇	〔英人ヘンリー・ベル外車汽船コメット號を作りクライド河上グラスコーミグリノック間二十二哩を航行せしむ〕

文政

元	一八二	伊能忠敬沿海實測地圖を完成す
一	一八二	〔英國に於て外車汽船シテイー・オブ・コー號(五十噸)を作り倫敦李浦間を定期航海せしむ(汽船航洋の始)〕
三	一八二	〔紐育にブラックホール・ライン會社成り帆船を以て紐育李浦間の定期航海に従事す之太西洋定期航海の最初なり〕
二	一八二	〔英國モンクランドにて鐵製船を製造す鐵船の最初也〕
元	一八二	〔グラスゴー港にアラン・ライン會社設立せられ帆船英國加奈陀間定期航路を創始し一八五六年より全部暗車汽船を用ふ〕

【海 事 年 譜】

【海 事 年 譜】

四 一八二二 〔世界最初の鐵製汽船アーロン・マンビー號英國ホースレーにて進水す〕  
 六 一八三三 〔米國スワロー・テール・ライン會社の紐育倫敦定期航路開始さる〕  
 七 一八三四 〔英國アバージーン會社設立され英濠航路開始さる〕  
 八 一八三五 外國船打拂令を發す  
 同 一八三六 〔西班牙人ミトロウキツチ南米航路を開き太平洋上汽船航走の先驅をなす〕  
 同 一八三七 〔英國汽船エンタプライズ號を建造し英印間汽船航路を開く〕  
 九 一八三六 〔英國航海條例を廢す〕  
 〃 一八三六 〔佛國政府其の沿岸航路に對して世界最初の郵便航送契約を結ぶ〕  
 〃 一八三七 〔英國汽船キュラソー號(三五〇噸)和蘭西印度間を航する事數次に及ぶ〕  
 〃 一八三九 〔英政府李浦、ハリフアクス、紐育間二週一回定期郵便航路を開く〕  
 〃 一八四〇 〔加奈陀汽船ローヤル・ウキリアム號加奈陀英國間を航す〕  
 〃 一八四一 〔オーストリア・ロイド會社設立、地中海南米間、地中海極東間航路を開く〕  
 〃 一八四二 〔英人技師(歸化瑞典人) シヨン・エリクソン始めて暗車を英國軍艦に應用して成功す〕  
 〃 一八四三 〔英國レアード造船所はゼネラル汽船會社の注文による鐵製汽船レインボー號(六〇〇噸)を進水す鐵製航洋汽船の最初とす〕  
 〃 一八四四 〔英船シリウス號(七〇〇噸)倫敦紐育間を十八日間にて航す〕  
 〃 一八四五 〔英船グレート・ウエスタン號(一、三四〇噸)太平洋航路に従事す。此頃より漸く速方競争初まる〕

〇 一八三九 〔最初の暗車汽船アーキメデス號(二三七噸)成る〕  
 〃 一八四〇 〔英國ローヤル・メール會社設立、三年後には年額十四萬磅の補助を受けて英國西印度航路を開く。最初の所有汽船十四隻〕  
 〃 一八四一 〔英人キャピテン・エリオット香港を取る(一八四一年南京條約にて領有確定)英國キユナード汽船會社設立。年額一萬一千磅の補助を受け李浦ハリフアクス間郵便航路を開始す〕  
 〃 一八四二 〔英國バシフィック汽船航業會社設立され(資本金二十五萬磅)英國南米西岸航路を開く〕  
 〃 一八四三 〔彼阿會社東印度會社と對立して蘇士甲谷陀航路を開く〕  
 〃 一八四四 〔ローヤル・メール會社英國南阿航路を開く〕  
 〃 一八四五 〔世界最初の鐵製暗車汽船グレート・ブリテン號(二、九八四噸)進水間もなく愛蘭沿岸に擱坐し一冬其儘に放置翌年修繕し充分使用し得たるより鐵船の有利を實證したるにより有名なり〕  
 〃 一八四六 佛國船碇球に来る  
 〃 一八四七 〔米國郵便補助法制定〕  
 〃 一八四八 米國軍艦浦賀に入る  
 〃 一八四九 〔漢堡亞米利加汽船會社成る當時の所有船は帆船九隻なり〕  
 〃 一八五〇 〔米國政府紐育にコリンズライン會社を興さしめ毎航一萬九千餘弗を補助してキユナード汽船會社に對抗せしむ〕  
 〃 一八五一 〔米國にバシフィック・メール會社設立資本金四十萬弗、マセラン經由紐育桑港

【海 事 年 譜】

二 一八三九 〔最初の暗車汽船アーキメデス號(二三七噸)成る〕  
 〃 一八四〇 〔英國ローヤル・メール會社設立、三年後には年額十四萬磅の補助を受けて英國西印度航路を開く。最初の所有汽船十四隻〕  
 〃 一八四一 〔英人キャピテン・エリオット香港を取る(一八四一年南京條約にて領有確定)英國キユナード汽船會社設立。年額一萬一千磅の補助を受け李浦ハリフアクス間郵便航路を開始す〕  
 〃 一八四二 〔英國バシフィック汽船航業會社設立され(資本金二十五萬磅)英國南米西岸航路を開く〕  
 〃 一八四三 〔彼阿會社東印度會社と對立して蘇士甲谷陀航路を開く〕  
 〃 一八四四 〔ローヤル・メール會社英國南阿航路を開く〕  
 〃 一八四五 〔世界最初の鐵製暗車汽船グレート・ブリテン號(二、九八四噸)進水間もなく愛蘭沿岸に擱坐し一冬其儘に放置翌年修繕し充分使用し得たるより鐵船の有利を實證したるにより有名なり〕  
 〃 一八四六 佛國船碇球に来る  
 〃 一八四七 〔米國郵便補助法制定〕  
 〃 一八四八 米國軍艦浦賀に入る  
 〃 一八四九 〔漢堡亞米利加汽船會社成る當時の所有船は帆船九隻なり〕  
 〃 一八五〇 〔米國政府紐育にコリンズライン會社を興さしめ毎航一萬九千餘弗を補助してキユナード汽船會社に對抗せしむ〕  
 〃 一八五一 〔米國にバシフィック・メール會社設立資本金四十萬弗、マセラン經由紐育桑港

【海 事 年 譜】

二	一八四九	〔英國航海條例を全廢し全く自由貿易政策を取る〕
同	〃	〔英國ホルダー・ライン會社設立、英國南米間、英國東亞間航路を開く〕
三	一八五〇	〔英國李浦にインマールライン（リパープール・ニウヨーク・フキラデルフィア汽船會社）設立、全部鐵製暗車汽船にして當時太西洋上のブルー・リボンを獲得す〕
四	一八五一	〔佛國エム・エム會社設立、政府補助の下に地中海沿岸航路を開く〕
六	一八五三	米艦浦賀入津、ベルリ提督來朝
同	〃	幕府大船製造の解禁令を發す
元	一八五四	ベルリ提督再渡來神奈川假條約、下田假條約を締結す
同	〃	西洋形船を始めて建造す
同	〃	幕府白地日の丸を以て日本船の旗章とするの令を布告す
同	〃	〔英國沿岸貿易を全く解放す〕
同	〃	〔英國パシフィック會社汽船ブランドン號成り聯成汽機の有利實證さる〕
同	〃	〔英國官營郵便航路を全廢す〕
同	〃	〔英佛對露クリミヤ戰爭起り彼阿會社輸送役務に服す〕
二	一八五五	和蘭國王汽船一船を幕府に贈る、軍艦觀光丸にして本邦最初の所有汽船なり
同	〃	〔英印汽船會社設立、英濠間、英國東洋間航路を開く〕
同	〃	〔北獨ロイド會社設立、ブレイメン起點、北米南米西印度航路を開く〕
同	一八五七	幕府咸陽及朝陽の二汽船を購入す

同	同	〃	汽船蟠龍を購入す
同	同	〃	幕府大阪、兵庫、江戸、新潟四港の開港を豫約す
同	同	〃	幕府外國奉行を設置す
五	一八五六	横濱、長崎、函館の三港を假開港す	
六	一八五九	〔英國技師二萬噸の外車汽船グレート・イースタン號を作る（四回太西洋を往復せるも暴風に會ひ大破す）〕	
同	〃	〔佛國大西洋汽船會社設立馬耳塞伯刺西爾間郵便契約を結ぶ〕	
七	一八六〇	遣米使搭乘の軍艦成臨初めて太平洋を横斷す	
元	〃	幕府鎖國令の一部を撤廢し庶民大船所有許可の布告を發す	
同	〃	長崎製鐵所落成す幕府が船舶製造修繕の目的を以て安政二年起工せるものなり	
同	〃	〔米國南北戰爭起る、水雷初めて實戦に用ひらる〕	
同	〃	幕府海外渡航解禁、鎖國令撤廢を布告す	
同	〃	〔佛國セネラル・トランスアトランチック汽船會社設立、ハーブル紐育航路を開く〕	
三	一八六三	幕府神戸造船所を設立す	
元	一八六四	幕府横須賀造船所を設立す	
二	一八六六	〔丁抹聯合汽船會社（デト・フォレノード）設立さる〕	
同	〃	〔英國ギオン汽船會社設立され太西洋速力競争盛さなる〕	
三	一八六七	〔米國パシフィック・メール汽船會社桑港支那線を開き年額五十一萬弗の補助を受く第一船は木造汽船グレート・レバリック號（三、三八一噸）なり〕	

【海 事 年 譜】

同	同	〃	汽船蟠龍を購入す
同	同	〃	幕府大阪、兵庫、江戸、新潟四港の開港を豫約す
同	同	〃	幕府外國奉行を設置す
五	一八五六	横濱、長崎、函館の三港を假開港す	
六	一八五九	〔英國技師二萬噸の外車汽船グレート・イースタン號を作る（四回太西洋を往復せるも暴風に會ひ大破す）〕	
同	〃	〔佛國大西洋汽船會社設立馬耳塞伯刺西爾間郵便契約を結ぶ〕	
七	一八六〇	遣米使搭乘の軍艦成臨初めて太平洋を横斷す	
元	〃	幕府鎖國令の一部を撤廢し庶民大船所有許可の布告を發す	
同	〃	長崎製鐵所落成す幕府が船舶製造修繕の目的を以て安政二年起工せるものなり	
同	〃	〔米國南北戰爭起る、水雷初めて實戦に用ひらる〕	
同	〃	幕府海外渡航解禁、鎖國令撤廢を布告す	
同	〃	〔佛國セネラル・トランスアトランチック汽船會社設立、ハーブル紐育航路を開く〕	
三	一八六三	幕府神戸造船所を設立す	
元	一八六四	幕府横須賀造船所を設立す	
二	一八六六	〔丁抹聯合汽船會社（デト・フォレノード）設立さる〕	
同	〃	〔英國ギオン汽船會社設立され太西洋速力競争盛さなる〕	
三	一八六七	〔米國パシフィック・メール汽船會社桑港支那線を開き年額五十一萬弗の補助を受く第一船は木造汽船グレート・レバリック號（三、三八一噸）なり〕	







【海 事 年 譜】

同	四	〃	函館商船學校を公立とす
同	〃	〃	〔瑞典人デ・ラバル、英人パーソン同時にステイーム・タービンを發明す〕
同	〃	〃	長崎に松尾鐵工所設立さる
同	四	一八八四	船舶積量測度規則制定
同	五	〃	〔キユナード社最初の鋼汽船ウンブリア號（八、〇〇〇噸）進水す〕
同	五	〃	大阪商船會社設立、資本金百二十萬圓、船舶九十五隻（其の總噸數一萬餘噸を以て瀬戸内海の航海に従事す）
同	七	〃	大阪に藤永田造船所設立さる
同	七	一八八五	大型和船の建造を禁止す
同	九	〃	日本郵船會社設立さる、郵便汽船三菱會社と共同運輸會社を合併せるもの資本金一千一百万圓（所有汽船五十八隻、六萬八千噸）にして政府は年八歩配當を保證した
同	九	〃	遞信省新設管船局設置
同	三	〃	日本郵船會社長崎天津航路を開始す政府の補助金あり
同	二	一八八六	政府兵庫造船所を川崎正藏に貸下ぐ
同	二	〃	淺野總一郎資本金二十萬圓の淺野廻漕部を設立す
同	二	〃	政府は大阪商船會社に大阪以西各港間の定期航海を命じ船舶改良費、郵便航送助成金を下附す
同	二	〃	政府は日本郵船會社補助方法を改定す
同	二	〃	三菱長崎造船所設立

【海 事 年 譜】

三	四	一八八八	函館及大阪兩商船學校を官立とす
同	〃	〃	〔和蘭ケー・ヒー・エム會社設立、東印度沿岸郵便航送契約を結ぶ〕
同	〃	〃	横濱築港に着手す
同	二	〃	航路標識條例制定
同	九	〃	日本郵船會社小樽増毛線冬期航海開始（北海道廳補給命令航路）
同	三	一八八九	日本郵船會社上海浦鹽航路開始
同	三	〃	同社長崎天津航路、長崎浦鹽航路、長崎仁川航路を何れも神戸まで延長す
同	三	〃	同社小樽伯州境航路を神戸まで延長す
同	九	一八九〇	株式會社石川島造船所設立資本金二十五萬圓
同	二	〃	帝國水難救濟會設立
同	〃	〃	日本郵船會社神戸高知航路廢止
同	〃	〃	同社は外車汽船を全廢す
同	〃	〃	遞信省は大阪函館二商船學校を東京商船學校の分校とす
同	五	一八九一	〔加奈陀太平洋鐵道會社初めてエムプレス型汽船三隻を作る〕
同	〃	〃	横濱船渠會社設立さる資本金三百萬圓なり
同	〃	〃	日本郵船會社帆船全廢
同	六	〃	海上衝突豫防法發布
同	六	一八九三	日本郵船會社は資本金を八百八十萬圓に減す
同	〃	〃	〔世界船舶統計に於て汽船初めて帆船を凌駕す
同	〃	〃	大阪海上保險會社設立さる







【海 事 年 譜】

同	二	〃	日本郵船會社は米國大北鐵道會社と連絡契約を結ぶ
〽	三	一九〇九	船舶獎勵法改正公布さる
同	〃	〃	遠洋航海補助法公布さる
同	〃	〃	日本郵船會社は横濱四日市間航路を廢止す
同	〃	〃	大阪商船會社は北米航路を開始す政府補助航路なり
同	〃	〃	大阪商船會社は内地樺太航路を開始す
同	〃	〃	大阪商船會社は米國シカゴ・ミルオーキー・アンド・セントポール鐵道會社と貨客接續契約を締結す
同	四	〃	東洋汽船會社は政府の補助を得て南米航路を再開す
〽	一	一九一〇	大阪商船會社は香港タコマ線を受命開航す
同	一	〃	東洋汽船會社は横濱コロネル間航路を開始す
同	七	〃	東洋汽船會社は米國太平洋郵船及南太平洋鐵道會社との連絡を廢止す
〽	一	一九一〇	東洋汽船會社は米國西太平洋鐵道會社と連絡契約を結ぶ
同	〃	〃	大阪鐵工所は廣島縣、因島船渠會社を買収して分工場となす
同	〃	〃	大阪商船會社は打狗上海線、香港福州線を開始す
同	〃	〃	日本郵船會社は横濱甲谷陀間自由航路を開始す
同	〃	〃	日清火災海上保險會社設立さる
〽	三	一九一三	朝鮮郵船會社設立さる資本金三百萬圓なり
同	〃	〃	朝鮮總督府の朝鮮沿岸命令航路を朝鮮郵船會社受命す
同	〃	〃	〔丁抹の東亞會社航洋双暗車内然機關船セラレンジア號(五、〇〇〇噸)を作る〕

大 正

同	七	〃	大阪商船會社は臺灣總督府の命令を受けて淡水香港間及打狗大連間航路を開く
同	〃	〃	明治天皇崩御
元	一〇	一九一三	南洋郵船組成立、神戸スラバヤ間航路に對して政府は補助金を交付す
二	一	一九一三	大阪商船會社は四日市孟買航路を開く
同	四	〃	運河法制定さる
同	〃	〃	福岡縣若松市に枋木造船所設立さる
同	〃	〃	〔西濠洲政府官營沿岸航路を開き現在濠洲政府線の先驅をなす〕
〽	一	一九一四	日本郵船會社は阪神青島間航路を開始す
〽	三	〃	船舶積量測定法改正さる
同	〃	〃	大阪商船會社は資本金を二千四百七十五萬圓に増額す
同	〃	〃	〔巴]奈馬運河開通す〕
同	〃	〃	三菱合資會社船舶部設置さる
同	〃	〃	北日本汽船會社設立さる資本金三百萬圓
同	〃	〃	大阪鐵工所はその組織を變更して資本金千二百萬圓の株式會社となす
同	〃	〃	日本郵船會社は東京府の命令による小笠原島航路を辭退廢航す
同	〃	〃	歐洲大戰役起る
同	〃	〃	戰時海上保險補償法制定さる
同	〃	〃	南洋郵船組は組織を變更して資本金百五十萬圓の株式會社となす
同	〃	〃	内田汽船會社設立さる

【海 事 年 譜】

















【海事通覽】

海事通覽

昭和三年七月以降昭和四年六月迄に於ける海事出來事中共主要事項を左に摘録す

七月

- 一、海員最低標準給料制の實施に就いて一部船主の不誠意を忖度した爭議が續出
- 一、大連汽船は安田新社長を迎へて積極主義を採り内地航路開始は社外船界の打撃
- 一、遞信省は三ヶ年計畫で金華山、鹽屋崎、鮎崎の三ヶ所に電波霧信號設置に決定
- 一、船主協會保險部に於て海難並に職務に基因する船員傷害保險開始
- 一、約一ヶ月に迷り紛争を續けた村尾船渠勞動爭議圓滿解決す
- 一、八百萬圓の資本を投じて新設中の三井物産の川崎埠頭完成

八月

- 一、内務省の船員保險法案は肝腎の船主船員間双方に反對の聲揚る
- 一、支那全國排日會は經濟絶交を徹底する爲め對日經濟絶交大綱を決定
- 一、近來海難續出と過積問題が喧しくなつたのに鑑み今回遞信省令を以て船舶滿載吃水線關係法規の一部改正を内定
- 一、大阪商船は内地比律賓間直通定期航路を開始

十月

- 一、大藏省は經濟審議會に參考資料として貿易外收支勘定の細目内容を發表したが就中海運關係收入が注目さる
- 一、灣糖積取の協定は今回國際川崎兩社の復活に依り六社協定は結構
- 一、各地船主會に於て唱導された船體保險料無事割戻制度開始方に對し保險協同會側は世界に實例なく倫敦再保市場に於ける諒解不能を理由として拒絶言明
- 一、海上船舶無線と陸上有線電話の接續通話は阪神に於て先鞭實施

【海事通覽】

- 一、一ヶ年餘に亘て整理更生に努めた川崎造船所は兵庫葺合兩工場の獨立と資金調達の成立に依り職制の上にも大改革を成して茲に甦る
- 一、内務省は多年の懸案たる港灣法を立案中漸く原案を得
- 一、海事勞動組合聯盟は政黨方面との合同に關し意見を交換の結果、社會民衆黨と合同することに議決
- 一、北洋材積取最盛時に及び所謂押石紛議續出す
- 一、栗林商船對海員組合との爭議は雇止申請等深刻な極めたが管海官廳の調停に依り繫争問題は海事協同會に一任することに、して解決

九月

- 一、海員協會より提出した「高等船員待遇改善案」は去る六月以來海事協同會に於て審議中の處互に諒解ある協議の結果圓滿に成案を得「高給船員標準給料最低月額表」を滿場一致可決す
- 一、全國海運業組合聯盟計畫につき神戸海運業組合委員會に於て協議の結果十一月神戸に於て創立總會を開催の事に決定

十一月

- 一、本邦最大優秀船たる日本郵船の淺間丸進水す
- 一、神戸製鋼所は鈴木商店の破綻に依り甚大なる影響を蒙つたが今回債券者の諒解を得て整理の完成を告げた
- 一、聖上陛下には十一月十日の佳辰を卜して御即位の大典を平安の皇宮に擧げ給ふ
- 一、恩赦令に依り全國審判所に於て審理中の懲戒事件八百餘件が免除された
- 一、藤永田造船所は唯一の金融銀行十五の破綻以來金融難に陥り建艦工事續行不能を曝露し爲めに海軍省で右建造を引續ぐ事に決定曩に川崎あり今又この事あり我造船界の暗雲未だ去らざるか
- 一、全國海運業組合聯盟創立總會は神戸に於て成立引續き第一回聯盟總會を開催會長に佐藤勇太郎氏を推し數件の議案を可決

十二月

- 一、海運界の先輩現日電社長山岡順太郎翁逝去す

【海 事 通 覽】

一、船體保險料の引下運動に苦心中皮肉にも先月來海難續發し海保會社の神經を刺戟遂に倫敦再保市場より手數料半減を強制される始末では到底料率引下は不可能

一、大連汽船は資本金を二千五百萬圓に増額し五萬噸の造船計畫と數隻購入を決定着々實現して積極政策の銳鋒を現し内地船主の恐慌を來す

一、大藏省は船主協會の反對を排け船舶噸稅引上を斷行に決定

一、長崎縣崎戸島沖合に於て八島氏所有豐富丸低氣壓の中心に捲込れ沈没船長以下三十名行衛不明の悲惨事突發

一 月

一、大連汽船の積極經營に對して民業の壓迫を爲すものとして内地船主會は相呼應して反對決議を爲し政府に陳情

一、日本海員組合は最近頻々として起る老齡船の海難續出に鑑み老齡船輸入禁止の決議陳情

一、船體保險共同會は海難事故統計を發表それに依る

は對策を極秘裡に進め險惡の兆

三 月

一、日本郵船はフアンネルマークを上部白色として社旗を表すことに意匠變更

一、海事研究會は經濟審議會に海事行政統一案に基く海務省新設の具體案を建議

一、横濱船渠職工は賃銀値上外四ヶ條を要求し會社の拒絕に依り總罷業を斷行す

一、政府は議會に國際汽船整理案、船舶職員法案を提出衆議院を通過

一、倫敦に開催の海上に於ける生命安全條約改訂會議に出席の管船局關係委員出發す

一、海運都市神戸に於ける商工會議所議員選舉に於て海運業組合公認の五候補全部當選は同慶

一、大阪市が工費十五萬圓を投じて建設中の海員ホーム竣成

一、英國キユーナード汽船と日本郵船は船客業務相互總代理店契約を締結す

四 月

【海 事 通 覽】

と三隻に付き二隻は一年一回の事故割合となり世界第一の海難國の名を裏書す

一、大藏省の噸稅改正案愈々議會に提出

二 月

一、海運界の古老として堅實なる經營を以て名ありし廣海、大家兩氏相踵いで長逝さる

一、内海航行整理上の特別規則たる内海水道航行規則は遞信省令として公布さる

一、遞信省は海運不況對策として海事金融に關し再び立案に着手

一、我造船界は大正九年以來の活況を呈し就中デーセル船建造は各船會社の優秀船新造熱に因りその中心を成す

一、大連汽船内地進出反對に對しては曩に各地船主會の反對決議あり更に問題は發展して遂に日本船主協會の陳情と沸騰す

一、滿鐵積極策は撫順炭礦一千萬噸増産計畫を樹つ

一、大連汽船は所有船舶乗組日本船員を全部解雇して之に代ふるに支那船員を以てせんとし日本海員組合

一、衆議院を通過した國際汽船整理案は貴族院に於て振瀆の運命に陥る

一、横濱船渠爭議圓滿解決す

一、樺太廳は同島森林保護濫伐防止の目的より十ヶ年間に實行する大制限計畫を發表は海運界の大恐慌

一、陸軍省は山東撤兵御用船の引合を發し海運界潤ふ

一、議會を通過した船舶職員法は二日官報を以て公布さる

一、起工以來三十三ヶ年の日子を費した二里餘の防波堤、水面百九十八萬坪、埋立地百三十二萬坪の大大阪築港完成す

一、遞信省は本年度より三ヶ年事業として五ヶ所の燈臺築設に決定

五 月

一、船長以下十一名と漁夫六十餘名の犠牲を出した豊國丸遭難事件に種々不祥事が傳へらる、は遺憾

一、日本海員組合總會は老朽船淘汰に關する件以下十六件の議案を可決

一、三菱のブルツァー、三井のバーマイスター、川崎

【海 事 通 覽】

のカメルレアード、横濱船渠のMAN式、神戸製鋼のヘッセルマン等の特許権買収に依り世界優秀のデゼルパテントは全部輸入斯く多種多用は未だ研究の過渡期か

一、日魯漁業の漁區權爭奪の醜態を曝露す是非は別として之れが解決遲速が海運界に及ぼす影響相當甚大  
一、最初の海上メーデーとして多大の興味に迎へられた神戸の海員團體海上メーデーは一日十數隻のランチに分乗盛觀を呈す

一、議會の協賛を経た遞信省補助の新航路たる近東地方寄港及玖馬のハバナ寄港は受命會社を日本郵船に命令さる

一、日本海員救濟會は創立五十年記念祝典を舉行

一、日本郵船社長白仁氏辭任し各務謙吉氏社長に就任

一、商船スマトラ丸にペスト患者發生 聖上陛下阪神行幸御延期となる

六 月

一、宮内省は三菱合資の懇請に依り所有株式中二十萬千三百七十五株を譲渡す

一、政府は新に九十六港を指定港灣とするに決し現在六十四港と合せ總數百六十港を算す

一、畏くも 聖上陛下には關西行幸旬日餘に亘らせられ八日御召艦長門に召され神戸港を御發航一路東京に還幸遊さる

一、遞信省は船燈信號器救命具取締規則を改正八日官報を以て公布す

一、問題を惹起した神奈川縣船舶課稅問題は結局登錄主義に緩和して落着

一、今秋開催の國際勞動總會代表者は濱田國太郎氏に顧問米窪滿亮氏鈴木仁一氏に決定

一、尙用人代表の推薦は日本船主協會に於て選定中の處代表上谷續氏顧問浦田格介丸山直次の兩氏隨員友貞甚輔氏と決定

法 例



## 索引

船舶法	五
同 施行細則	六
船舶積量測定法	六
同 規程	六
船舶滿載吃水線法	六
同 施行細則	七
船舶検査法	七
同 施行細則	七
船員法	三
同 施行細則	六
船員最低年齢法	六
船舶職員法	九
同 施行細則	九

船舶職員試験規程	九
船舶職業紹介法	六
同 施行規則	七
海員協同會規約	九
水先法	一〇
同 施行細則	一〇
海員懲戒法	一〇
海上衝突豫防法	一〇
船舶通報規則	一〇
開港港則	一三
海商法(第五編)	一三
船舶無線電信施設法	一四

## 法例拔萃

### 船舶法

- 第一條 左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス
- 一 日本ノ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶
  - 二 日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶
  - 三 日本ニ本店ヲ有スル商會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民ナルモノ、所有ニ屬スル船舶
  - 四 日本ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ全員ガ日本臣民ナルモノ、所有ニ屬スル船舶
- 舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合資會社ニ在リテハ業務擔當社員ノ全員カ日本臣民ナルモノ、所有ニ屬スル船舶ヲ以テ日本船舶トス
- 第二條 日本船舶ニ非サレハ日本國旗ヲ掲グルコトヲ得ス

### 【法例拔萃】

- 第三條 日本船舶ニ非サレハ不開港場ニ寄港シ又ハ日本各港ノ間ニ於テ物品又ハ旅客運送ヲ爲スコトヲ得ス但法律若クハ條約ニ別段ノ定アルトキ、海難若クハ捕獲ヲ避ケントスルトキ又ハ主務大臣ノ特許ヲ得タルトキハ此限ニ非ラス
- 第四條 日本船舶ノ所有者ハ日本ニ船籍港ヲ定メ其船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測定ヲ申請スルコトヲ要ス
- 船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ他ノ管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測定ヲ囑託スルコトヲ得
- 外國ニ於テ取得シタル船舶ヲ外國各港ノ間ニ於テ航行セシムルトキハ船舶所有者ハ日本ノ領事又ハ貿易事務官ニ其船舶ノ積量ノ測定ヲ申請スルコトヲ得
- 第五條 日本船舶ノ所有者ハ登記ヲ爲シタル後船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ備ヘタル船舶原簿ニ登録ヲ爲スコトヲ要ス
- 前項ニ定メタル登録ヲナシタルトキハ管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ交付スルコトヲ要ス
- 第七條 日本船舶ハ法令ノ定ムル所ニ從ヒ日本ノ國旗ヲ掲ケ且其名稱、船籍港、番號、積量、吃水ノ尺度

【法 例 拔 萃】

其他ノ事項ヲ標示スルコトヲ得ス

第八條 日本船舶ノ名稱ハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條 船舶所有者カ其船舶ヲ修繕シタル場合ニ於テ其積量ニ變更ヲ生シタルモノト認ムルトキハ遲滞ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ其船舶ノ改測ヲ申請スルコトヲ要ス

第四條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條 登録シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ變更ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ其書換ヲ申請スルコトヲ要ス船舶國籍證書カ毀損シタルトキ亦同シ

第十二條 船舶國籍證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ更ニ之ヲ請受クルコトヲ要ス

第十三條 日本船舶カ外國ノ港ニ碇泊スル間ニ於テ船

舶國籍證書カ滅失若クハ毀損シ又ハ之ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ其地ニ於テ假船國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

日本船舶カ外國ニ航行スル途中ニ於テ前項ノ事由カ生シタルトキハ船長ハ最初ニ到着シタル地ニ於テ假船國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十四條 日本船舶カ滅失若クハ沈没シタルトキ、解撤セラレタルトキ又ハ日本ノ國籍ヲ喪失シ若クハ第二十條ニ掲ケル船舶トナリタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ抹消ノ登録ヲ爲シ且遲滞ナク船舶國籍證書ヲ返還スルコトヲ要ス船舶ノ存否カ六ヶ月間分明ナラサルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ船舶所有者カ抹消ノ登録ヲ爲ササルトキハ管海官廳ハ一ヶ月内ニ之ヲ爲スヘキコトヲ催告シ正當ノ理由ナクシテ尙其手續ヲ爲サ、ルトキハ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲スコトヲ得

第十五條 日本ニ於テ船舶ヲ取得シタル者カ其取得地ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域内ニ船籍港ヲ定メサルトキハ其管海官廳ノ所在地ニ於テ假船國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十七條 外國ニ於テ交付スル假船國籍證書ノ有効期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

日本ニ於テ交付スル假船國籍證書ノ有効期間ハ六箇月ヲ超ユルコトヲ得ス

前二項ノ期間ヲ超ユルトキト雖モ已ムヲ得サル事由アルトキハ船長ハ更ニ假船國籍證書ヲ請受ケルコトヲ得

第二十條 前十六條ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶及ヒ端舟其他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス

第二十二條 日本船舶ニアラスシテ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ船長ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キトキハ其船舶ヲ沒收ス但シ捕獲ヲ避ケントスル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハコノ限リニアラス日本船舶カ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ニアラサル旗章ヲ掲ケタルトキ又前項ニ同シ

第二十三條 第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長二百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キトキハ其

【法 例 拔 萃】

船舶ヲ沒收ス(以下罰則規定ハ省略)

第三十二條 管海官廳ノ事務ハ外國ニアリテハ日本ノ領事又ハ貿易事務官之ヲ行フ

船舶法施行細則

第一章 總 則

第一條 本則ニ於テ船舶ノ種類ト稱スルハ汽船、帆船ノ別ヲ謂フ

機械力ヲ以テ運航スル裝置ヲ有スル船舶ハ蒸氣ヲ用ユルト否トニ拘ハラズ之ヲ汽船ト看做ス

主トシテ帆ヲ以テ運航スル裝置ヲ有スル船舶ハ機關ヲ有スルモノト雖モ之ヲ帆船ト看做ス

第二條 淺濶船ハ推進器ヲ有セサレハ之ヲ船舶ト看做サス

第二條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ハ噸數ヲ以テ積量ヲ表示スヘシ

- 一 肋骨ヲ有スル船舶
- 二 機械力ヲ以テ運航スル裝置ヲ有スル船舶
- 三 日本型ニアラサル帆裝ヲ有スル船舶

【法例拔萃】

前項ノ規定ニ該當セサル船舶ハ石數ヲ以テ積量ヲ表  
示スヘシ

第三條 船籍港ハ市町村ノ名稱ニ依ル但シ市制町村制  
ヲ施行セサル地方ニアリテハ市町村ニ準スヘキ區畫  
ノ名稱ニ依ル

船籍港トナスヘキ市町村及之ニ準スヘキ區畫ハ船舶  
ノ航行シ得ヘキ水面ニ接シタルモノニ限ル

第四條 左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書ノ受有前ト雖  
モ最寄管海官廳ノ認可ヲ受ケ船舶ヲ航行セシムルコ  
トヲ得

- 一 試運轉ノトキ
- 二 積量ノ測度ヲ受ケントスルトキ
- 三 正當ノ事由アルトキ

第二章 積量ノ測度

第八條 船舶法第四條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測度  
ヲ申請セントスル者ハ附錄第一號書式ノ申請書ヲ管  
海官廳ニ提出スヘシ

管海官廳ニ於テ必要アリト認メタルトキハ前項ノ申  
請書ノ外造船地、造船者、進水ノ年月及船舶ノ原名  
ヲ證スル書面ヲ差出サシムルコトヲ得

總噸數約五百噸以上ニシテ旅客ヲ搭載セントスル船  
舶ニ付テハ管海官廳ハ前項ノ書面ノ外向船體中心線  
縱截面圖及各甲板平面圖ヲ差出サシムルコトヲ得

第八條ノ二 船舶法第九條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ  
改測ヲ申請セントスル者ハ申請書ニ改測ヲ受ケント  
スル部分及改測ノ爲メ検査官吏ノ臨檢ヲ受ケントス  
ル場所ヲ記載シ管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

前條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條 積量ノ測度又ハ改測ハ船舶検査施行地ニ於テ  
之ヲ行フ但シ船舶ノ構造、航路ノ狀況又ハ其他ノ事  
由ニ依リ船舶ヲ検査施行地マデ航行セシムルコト能  
ハサル場合ニ於テ管海官廳ノ認可ヲ受ケタルトキハ  
此限リニ在ラス

外國ニ於テ積量ノ測度又ハ改測ヲ行フ場所ハ當該官  
廳ニ之ヲ指定ス

第十三條 外國ニ於テ船舶ノ積量ノ測度又ハ改測ヲ行  
ヒタル場合ニアリテハ當該官廳ハ遲滞ナク船籍港ヲ  
管轄スル管海官廳ニ關係書類ヲ送付スヘシ

第十六條 國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ内國ニ於テ製造  
スル船舶ニ付テハ其竣工前ト雖モ最寄管海官廳ニ積

量ノ部分測度ヲ申請スルコトヲ得

第十條第十二條及第十二條ノ二第一項ノ規定ハ前項  
ノ場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ船舶件名書ノ謄本ヲ申請者ニ交付  
スルトキハ同時ニ船舶積量測度表ノ謄本ヲ交付スヘ  
シ

前二項ノ規定ニ依リ船舶件名書及船舶積量測度表ノ  
謄本ヲ受ケタル者第八條ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ  
該謄本ヲ申請書ニ添付スヘシ

第三章 船舶ノ登録

第十七條 船舶法第五條第一項ノ規定ニ依リ船舶ノ登  
録ヲ爲スニハ申請書ニ登録ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ管海官  
廳ニ差出スヘシ

第十七條ノ二 管海官廳ハ前條ノ申請書ヲ受ケタルト  
キハ關係書類ヲ調査シ總噸數百噸以上ノ汽船及總噸  
數百噸以上ノ機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ左ノ事項  
ヲ船舶原簿ニ登録ス

- 一 番號
- 二 信號符字
- 三 種類

【法例拔萃】

四 船名

五 籍港

六 甲板ノ層數

七 船質

八 帆船ノ帆裝

九 量噸甲板上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後  
面ニ至ル長

十 船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル幅  
長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ舷側ニ於ケル上  
甲板梁ノ上面ニ至ル深

十一

十二 總噸數

上甲板下ノ噸數

上甲板上蔽圍シタル場所ノ噸數

船首樓ノ噸數

船橋樓ノ噸數

船尾樓ノ噸數

甲板室ノ噸數

艙口ノ超過噸數

機關室ノ噸數

其他ノ場所ノ噸數

【法例拔萃】

十三 控除噸數

- 船員常用室ノ噸數
- 荷足水艙ノ噸數
- 機關室ノ噸數
- 帆船ノ帆庫ノ噸數
- 其他ノ場所ノ噸數

十四 登簿噸數

- 十五 汽機ノ種類及數
- 十六 推進器ノ種類及數
- 十七 造船地
- 十八 造船者
- 十九 進水ノ年月
- 二十 原名

二十一 所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及共有ナルトキハ各共有者ノ特分

總噸數百噸未滿ノ汽船及前項ノ帆船以外ノ帆船ニシテ噸數ヲ以テ積量ヲ表示スルモノニ在リテハ前項第一號乃至第十一號第十四號乃至第十七號第十九號乃至第二十一號ノ事項及左ノ事項ヲ登錄ス

一 總噸數

三 所有者ニ於テ船舶ノ名稱ノ爲ニ著シキ不便ヲ受クルトキ

第二十條 甲管海官廳ノ管轄區域内ニ船籍港ヲ定メタル船舶ノ船籍港ヲ乙管海官廳ノ管轄區域内ニ變更スル場合ニハ甲管海官廳ニ變更ヲ申請スヘシ  
前項ノ場合ニ於テ甲管海官廳ハ其船舶ニ關スル船舶原簿ノ謄本及其附屬書類ヲ乙管海官廳ニ移送シ該船舶原簿ヲ閉鎖ス

船舶原簿ノ謄本ニハ現存セル登錄ノミヲ謄寫ス  
乙管海官廳ハ第二項ノ規定ニ依リ移送ヲ受ケタル謄本ニ依リ其船舶原簿ニ登錄ヲ移ス

第二十五條 船舶所有者ノ變更アリタルトキハ新所有者ハ申請書ニ變更ノ事實ヲ證スル登記ノ謄本、抄本又ハ登記濟證ヲ添付シテ變更ノ登錄ヲ申請スヘシ  
前項ノ規定ハ船舶所有者ノ氏名若クハ名稱、住所又ハ共有者ノ持分ノ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條 船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ抹削ノ登錄ヲ爲サントスル者ハ申請書ニ其事由ヲ記載シ抹消ノ登記ヲ爲シタルコトヲ證スル登記ノ謄本、抄本又ハ登記濟證ヲ添ヘ船籍港管轄スル管海官廳ニ之

【法例拔萃】

上甲板下ノ噸數

上甲板上蔽圍シタル場所ノ噸數

- 二 控除噸數
- 船員常用室ノ噸數
- 機關室ノ噸數
- 其他ノ場所ノ噸數

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ第一項第一號第三號乃至第五號第十七號第十九號乃至第二十一號ノ事項及左ノ事項ヲ登錄ス

- 一 船首ノ内面ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底水平ノ長
- 二 船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面ニ至ル幅
- 三 腰當梁ノ中央ニ於テ其上面ヨリ航ノ上面ニ至ル深

四 積石數

第十九條 管海官廳ニ於テ船舶ノ名稱ノ變更ヲ許可スルハ左ノ場合ニ限ル

- 一 前所有者ノ氏名、名稱又ハ之ト同一ト認ムヘキ名稱ヲ有スル船舶ヲ取得シタルトキ
- 二 船舶ノ名稱ニ番號ヲ冠附シ又ハ冠附シタル番號ヲ變更若シクハ削除スルトキ

ヲ差出スヘシ

第二十九條 何人ト雖モ手数料ヲ納付シテ船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ申請シ又利害ノ關係アル部分ニ限リ船舶原簿ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

第四章 船舶國籍證書

第三十條 管海官廳ニ於テ第十七條ノ二ニ依リ船舶ノ登錄ヲ爲シタルトキハ附錄第三號書式ノ船舶國籍證書ヲ申請者ニ交付ス

第五章 國旗及船舶ノ表示

第四十三條 船舶ハ左ノ場合ニ於テ國旗ヲ後部ニ掲グヘシ

- 一 帝國軍艦ヨリ要求セラレタルトキ
  - 二 帝國ノ燈臺又ハ海岸望樓ヨリ要求セラレタルトキ
  - 三 外國ノ港ヲ出入スルトキ
  - 四 外國貿易船帝國ノ港ヲ出入スルトキ
  - 五 法例ニ別段ノ定メアルトキ
- 第四十四條 噸數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ表示スヘキ事項及其標示方法ハ左ノ如シ
- 一 船首兩舷ノ外部ニ船名、船尾外部ノ見易キ所ニ

【法 例 拔 萃】

- 船名及船籍港名ヲ四吋以上ノ國字ヲ以テ記スル事
  - 二 中央ノ船梁ニ船梁ノ番號、總噸數及登簿噸數ヲ彫刻シ又ハ其番號及噸數ヲ彫刻シタル板ヲ釘着スルコト
  - 三 船首及船尾ノ外部兩側面ニ於テ喫水ヲ示ス爲メ船底ヨリ最大喫水線以上ニ至ルマテ一呎毎ニ六吋ノ羅馬數字又ハ亞刺比亞數字ヲ以テ其尺度ヲ記シ數字ノ下端ハ其數字ノ表示セル喫水線ト一致セシムルコト
  - 四 登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除シタル室及場所ニハ見易キ所ニ室名又ハ使用ノ目的ニ相當スル名稱ヲ記スコト
- 特殊ノ構造ヲ有スル爲メ前項ノ規定ニ依リ難キ船舶ニ付テハ検査官吏ノ相當ト認ムル方法ニ依リ前項ノ事項ヲ表スルコトヲ得
- (第四十五條以下略ス)

第六章 登 簿 稅

第四十八條 登錄稅法ノ規定ニ從ヒ登錄稅ヲ納付スルニハ左ノ區別ニ依リ相當ノ收入印紙ヲ貼用シタル登錄稅納付書ヲ登錄ノ申請書ニ添ヘテ差出スヘシ

- 一 第十七條ノ場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第一號
  - 二 船籍港以外ノ登錄事項ノ變更ニ依リ登錄ヲ爲ス場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第四號
  - 三 第二十七條ノ場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第三號
  - 四 船籍港變更ノ場合ニ於テハ登錄稅法第四條第一項第二號
- (第四十八條以下略ス)

船舶積量測度法

- 第一條 船舶ノ積量ハ百立方「フット」ヲ以テ一噸トシ之ヲ測度ス
- 第二條 甲板一層又ハ二層ヲ備フル船舶ニ在リテハ上甲板ヲ、三層以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ最下層甲板ヨリ第二層ニ在ル甲板ヲ量噸甲板トス
- 第三條 甲板一層又ハ二層ヲ備フル船舶ニ在リテハ量噸甲板下ノ噸數ニ量噸甲板上各甲板間ノ噸數及上甲板上蔽圍シタル場所ノ噸數ヲ加ヘタルモノヲ總噸數トス

トス但シ左ニ掲グル場所ニシテ上甲板上ニ在ルモノ、噸數ハ之ヲ總噸數ニ算入セス

- 一 操舵機具、繫船機具、揚錨機具及主機關ト連結セサル副汽罐副汽機ニ供用セラル、場所
  - 二 機關室、操舵室、賄室及出入口室
  - 三 採光通風ニ要スル場所及便所
  - 四 主務大臣ニ於テ船舶ノ安全、衛生又ハ利用上前各號ニ掲グルモノニ準スヘキモノト認ムル場所
- 前項ニ掲グル機關室ノ噸數ハ船舶所有者ノ申請アリタル場合ニ於テ主務大臣之ヲ相當ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ總噸數ニ算入スルコトヲ得
- 甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷端以下ノ噸數ニ舷端以上蔽圍シタル場所ノ噸數ヲ加ヘタルモノヲ總噸數トス
- 第四條 總噸數ヨリ左ニ掲グル場所ノ噸數ヲ控除シタルモノヲ登簿噸數トス但シ總噸數ニ算入セサル場所ノ噸數ハ之ヲ控除セス
- 一 船員常用室及海圖室
  - 二 荷足水艙
  - 三 機關室

【法 例 拔 萃】

四 操舵機具、繫船機具、揚錨機具及主唧筒ト連結シタル副汽罐副汽機ニ供用セラル、場所

- 五 水夫長倉庫
  - 六 帆船ノ帆庫
  - 七 主務大臣ニ於テ船舶ノ安全、衛生又ハ利用上前各號ニ掲グルモノニ準スヘキモノト認ムル所
- 第六條 登簿噸數ノ算定ニ付機關室ノ噸數トシテ總噸數ヨリ控除スベキ噸數ハ左ノ割合ニ依リ之ヲ定ム
- 一 螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ噸數カ總噸數ノ百分ノ十三ヲ超エ百分ノ二十未滿ナルトキハ總噸數ノ百分ノ三十二、外車ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ噸數カ總噸數ノ百分ノ二十ヲ超エ百分ノ三十未滿ナルトキハ總噸數ノ百分ノ三十七
  - 二 前號ニ該當セサル場合ニ於テハ螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ噸數ニ其ノ四分ノ三外車ヲ備フル船舶ニ在リテハ機關室ノ噸數ニ其ノ二分ノ一ヲ加ヘタルモノ但シ船舶所有者ノ申請アリタル場合ニ於テ主務大臣之ヲ相當ト認ムルトキハ前號ノ割合ニ依ルコトヲ得

【法例 拔萃】

前項ノ規定ニ依リ算定シタル噸數カ登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除スベキ機關室以外ノ場所ノ噸數ヲ總噸數ヨリ減シタル噸數ノ百分ノ五十五ヲ超ユルトキハ之ヲ百分ノ五十五ニ止ム

第七條 登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除スベキ帆庫ノ噸數カ總噸數ノ百分ノ二十五ヲ超ユルトキハ之ヲ百分ノ二十五ニ止ム

第八條 石數ヲ以テ積量ヲ表示スヘキ船舶ノ積量ハ十立方尺ヲ以テ一石トシ之ヲ測度シ回漕船ニ在リテハ船梁上下船艙ノ石數、其ノ他ノモノニ在リテハ舷端以下ノ船艙ノ積石數トス

第九條 積量測度ノ方法ハ主務大臣之ヲ定ム

(參考) 船舶積量測度法互認國(英、米、丁、獨、瑞、露、蘭の諸國)

船舶積量測度規程

第一條 長、幅、深、高及厚ヲ測定スルニハ噸數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ呎ヲ以テ單位トシ石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ尺ヲ以テ

量噸甲板ノ長

等分數

五十呎以下

四

五十呎ヲ超エ百二十呎以下

六

百二十呎ヲ超エ百八十呎以下

八

百八十呎ヲ超エ二百二十呎以下

十

二百二十五呎ヲ超ユルモノ

十二

第四條 分長點ノ深ト稱スルハ左ノ各號ニ掲クルモノヲ謂フ

一 甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ中心線ニ於テ量噸甲板ノ下面ヨリ二重底内底板、肋板又ハ肋根材ノ上面迄ノ深ヲ測リ之ヨリ船底内張板ノ平均ノ厚及梁矢ノ三分ノ一ヲ減シタルモノ

二 前號ノ船舶ノ二重底内底板カ凸面ナルトキハ中心線ニ於テ量噸甲板ノ下面ヨリ内底板迄ト縁板ノ上面迄トノ平均ノ深ヲ測リ之ヨリ船底内張板ノ平均ノ厚及梁矢ノ三分ノ一ヲ減シタルモノ

三 甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷側外板ノ上面ヨリ肋板又ハ肋根材ノ上面迄ノ深ヲ測リ之ヨリ船底内張板ノ平均ノ厚ヲ減シタルモノ

第五條 分深點ト稱スルハ量噸甲板ノ長ノ中央ニ於ケ

【法例 拔萃】

單位トシ單位以下ハ二位ニ止メ三位以下ハ四捨五入スヘシ但分長點及分深點ノ間隔ヲ算定スルニハ單位下ハ三位ニ止メ四位以下ハ四捨五入スヘシ

面積、容積及噸數ヲ算定スルニハ單位下ハ二位ニ止メ三位以下ハ四捨五入シ石數ハ算定スルニハ單位ニ止メ單位下ハ四捨五入スヘシ

第二條 量噸甲板ノ長ト稱スルハ左ノ各號ニ掲クルモノヲ謂フ

一 甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ中心線ニ於テ量噸甲板上ニ沿ヒ船首内張板ノ内面ヨリ船尾内張板ノ内面ニ至ル距離ヲ測リ之ヨリ船首ニ於テハ甲板ノ厚ニ從ヒ船首材ノ傾斜ニ對スル甲板ノ長ヲ減シ、船尾ニ於テハ甲板ノ厚ニ終尾船梁矢ノ三分ノ一ヲ加ヘタルモノニ從ヒ船尾肋骨ノ傾斜ニ對スル甲板ノ長ヲ減シタルモノ

二 甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷側外板ノ上面ニ於テ中心線ニテ船首内張板ノ内面ヨリ船尾内張板ノ内面ニ至ル距離

第三條 分長點ト稱スルハ量噸甲板ノ長ヲ左表ニ依リ等分シタル點及首尾兩端ノ點ヲ謂フ

ル分長點ノ深ニ應ジ左表ニ依リ各分長點ノ深ヲ等分シタル點及上下兩端ノ點ヲ謂フ

量噸甲板ノ長

等分數

ノ中央ニ於ケ

二重底内底板カ 其他ノ場合

ル分長點ノ深

凹面ナルトキ

十六呎以下

五

十六呎ヲ超ユルモノ

七

副分深點ト稱スルハ二重底内底板カ凹面ナル場合ニ於テ最下ノ分深點間隔ヲ四等分シタル點ヲ謂フ

第六條 分深點及副分深點ノ幅ト稱スルハ各點ニ於ケル船側内張板ノ内面ヨリ内面ニ至ル水平距離ヲ謂フ船側内張板ノ厚ニ差異アルトキハ其ノ平均ノ厚ノ所ヲ船側内張板ノ内面ト見做ス

第七條 遮浪甲板ト稱スルハ常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル甲板口ヲ有スル全通船樓甲板ヲ謂フ  
遮浪甲板ハ船舶積量測度法第二條ニ掲クル甲板ノ層數ニ加ヘス (八條以下省略)

船舶滿載吃水線法

第一條 日本船舶ハ左ニ掲クルモノヲ除クノ外本法ニ

【法 例 拔 萃】

- 依リ滿載吃水線ノ指定ヲ受ケテ之ヲ標示スヘシ
- 一 船舶検査法第一條各號ニ掲クル船舶
- 二 沿海航路又ハ平水航路ヲ航路限定トスル船舶
- 三 總噸數百噸未滿ニシテ近海航路ヲ航路限定トスル帆船
- 四 漁獵、曳船、海難救助、浚渫又ハ測量ニノミ從事スル船舶其他主務大臣ニ於テ特ニ滿載吃水線ヲ標示スル必要ナシト認メタル船舶
- 第二條 滿載吃水線ノ指定ハ主務大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶ヲ滿載吃水線ノ標示ヲ要スル船舶トシテ初メテ航行ノ用ニ供スルトキ之ヲ受クヘシ
- 本法施行地ニ於テ製造スル船舶ハ製造中ト雖モ滿載吃水線ノ指定ヲ受クルコトヲ得
- 第三條 滿載吃水線ハ主務大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳之ヲ指定ス
- 第四條 滿載吃水線ノ指定ヲ受ケテ之ヲ標示シタル船舶ニハ船舶滿載吃水線證書ヲ交付ス
- 第五條 本法ニ依リ滿載吃水線ヲ表示シタル船舶ハ主務大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ超ユル吃水ヲ以テ航行スルコトヲ得ス

- 第六條 滿載吃水線ノ標示ハ捕獲ヲ避ケントスル場合其他正當ノ事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ隱蔽、變更又ハ抹消スルコトヲ得ス
- 第七條 検査官吏ハ本法ニ違反スル行爲アリト認メタルトキハ何時ニテモ船舶ニ臨視シ又ハ其ノ航行ノ停止ヲ命スルコトヲ得
- 第八條 滿載吃水線ノ指定、標示及指定手数料ニ關シ必要ナル規程ハ主務大臣之ヲ定ム
- 第九條 主務大臣ノ認定シタル船級協會ニ於テ本法及本法ニ基ク規程ニ準據シ滿載吃水線ヲ指定シ船舶滿載吃水線證書ヲ發給シタルトキハ其ノ證書及之ニ相當スル滿載吃水線ノ標示ハ之ヲ本法ニ依リタルモノト看做ス
- 第十條 本法ハ本法施行地内ノ港ニ出入スル日本船舶ニ非ル船舶ニ之ヲ準用ス
- 第十一條 主務大臣ニ於テ前條ノ船舶ノ所屬地ノ滿載吃水線ニ關スル法令ヲ相當ト認メタルトキハ之ニ依リテ受ケタル船舶滿載吃水線證書及之ニ相當スル滿載吃水ノ標示ハ之ヲ本法ニ依リタルモノト看做ス
- 前項ノ規定ハ本法ニ依リ發給シタル船舶滿載吃水線

- 證書及之ニ相當スル滿載吃水線ノ標示効力ヲ認メサル外國ニ屬スル船舶ニハ之ヲ適用セス
- 第十二條 主務大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶滿載吃水線證書ヲ受ケサル船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ滿載吃水線ヲ超ユル吃水ヲ以テ航行シ若シクハ航行セントスルトキハ船長又ハ之ニ代リテ其職務ヲ行フ者ヲ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第六條ノ規定ニ違反シ滿載吃水線ノ標示ヲ隱蔽、變更又ハ抹消シタル者ノ罰亦前項ニ同シ
- 第十三條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ船舶滿載吃水線證書ヲ受ケタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 前項ノ規定ハ帝國外ニ於テ前項ノ罰ヲ犯シタル者ニ亦之ヲ適用ス
- 第十四條 検査官吏ノ臨視ヲ拒ミ若ハ妨ケ又ハ航行停止ノ命ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

船舶滿載吃水線法施行細則

第一條 水先案内船及石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶

【法 例 拔 萃】

- ハ滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ要セス
- 第二條 滿載吃水線ヲ標示シタル船舶力修繕、自然衰耗其他ノ事由ニ依リ滿載吃水線ヲ變更スヘキ必要ヲ生シタルトキハ再指定ヲ受クヘシ
- 第三條 船舶滿載吃水線規程ニ掲グル冬期季節ノ航海又ハ熱帶若ハ冬期北大西洋ノ航路ノ航海ヲ爲ス船舶ハ淡水中ニ於テハ同規程ニ依ル限度迄當該季節又ハ航路ノ海水ニ對スル滿載吃水線ヲ超ユル吃水ヲ以テ航行スルコトヲ得
- 第四條 汽船ハ河川又ハ内海ニ於テハ滿載吃水線ノ標示又ハ前條ノ限度ニ相當スル吃水線ヲ超エ外海ニ達スル迄ニ消費スヘキ燃料ト同一重量ノ旅客又ハ貨物ヲ積載シタル吃水ヲ以テ航行スルコトヲ得
- 前項ノ内海ハ日本ニ於テハ船舶検査法施行細則ニ定ムル沿海航路ノ區域内トス
- 第五條 左ニ掲グル場合ニ於テハ船舶滿載吃水線證書ヲ受ケサル船舶ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得
- 一 船舶検査法施行細則第三十二條第一項第二號乃至第四號第七號及第八號並第三十三條ニ該當スルトキ

【法例拔萃】

- 二 船舶滿載吃水線法第一條各號ノ船舶カ船舶検査施行地外ニ於テ滿載吃水線ノ指定ヲ受クヘキモノト爲リタル場合ニ於テ指定ヲ受クル爲之ヲ検査執行地迄回航セシムルトキ
- 三 滿載吃水線ノ一部ノ指定ヲ受ケタル船舶ヲ殘餘ノ指定ヲ受クル爲工場所在地又ハ検査執行地迄回航セシムルトキ
- 四 第十八條ノ規定ニ依リ指定ノ引繼又ハ囑託ヲ爲ス場合ニ於テ他ノ管海官廳ノ管轄區域内迄船舶ヲ回航セシメ且囑託ノ場合ニ於テハ囑託ヲ爲シタル管轄區域内迄更ニ回航セシムルトキ
- 五 第二十八條ノ規定ニ依リ船舶滿載吃水線證書ノ再交付ヲ申請シ未タ其ノ交付ヲ受サル時
- 六 正當ノ事由ニ依リ管海官廳ノ許可ヲ受ケタル片

〔参考〕

船級協會(帝國海事協會、ロイド船級協會)  
滿載吃水線互認國(蘭、英、濠、白、獨、佛)

船舶検査法

ルコトヲ得

- 第六條 検査官吏船舶ヲ検査シ遞信大臣ノ定ムル検査規定ニ適合スルモノト認ムルトキハ本船ノ航路定限旅客定員、汽壓制限及航行期間ヲ定メ管轄官廳ヨリ船舶検査證書ヲ交付スヘシ
- 第七條 検査ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ船長ニ於テ船舶検査證書ノ受有前ニ船舶ヲ航行ノ用ニ供セムトスルトキハ検査官吏ハ其ノ申請ニ依リ假證書ヲ交付シテ之ヲ許可スルコトヲ得
- 第八條 検査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨視シ若特ニ検査ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ其ノ航行ヲ停止スルコトヲ得

(第九條以下略ス)

船舶検査法施行細則

- 第一條 本則ノ規定ハ特ニ明文アル場合ヲ除ク外外國船舶検査規則ノ規定ニ依リ検査ヲ行フヘキ外國船舶ニモ亦之ヲ適用ス
- 第二條 本則ニ於テ船舶ト稱スルハ前條ニ掲ケタル外國船舶ヲモ包含ス

【法例拔萃】

- 第一條 日本船舶ハ左ニ記載スルモノヲ除クノ外此ノ法律ノ規定ニ依リ検査ヲ受クヘシ
  - 一 總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ帆船
  - 二 端舟其ノ他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟
  - 三 倉庫船、繫留船
  - 四 平水航路ノミヲ航行スル帆船
- 第二條 (削除)
- 第三條 船舶ノ検査ハ船舶ヲ日本船舶トシテ初メテ航行ノ用ニ供スルトキ、其ノ航行期間滿了ノトキ及航行期間内特ニ必要アルトキ之ヲ行フ
- 日本ノ國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ日本ニ於テ製造スル船舶ノ所有者ハ其ノ製造中ト雖モ一部ノ検査ヲ申請スルコトヲ得
- 第四條 船舶ノ航行期間ハ汽船ニ在テハ三箇月以上一箇年以内、帆船ニ在テハ六箇月以上三箇年以内トス
- 第五條 船舶ノ検査ハ其ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳之ヲ行フ
- 遞信大臣ハ必要ト認ムル場合ニ限り前項ノ規定ニ依ラス特ニ検査官吏ヲ指定シテ船舶ノ検査ヲ行ハシム

本則ニ於テ旅客船ト稱スルハ十二人ヲ超ユル旅客定員ヲ有スル船舶ヲ謂フ

本則ニ於テ漁船ト稱スルハ漁獵ノミニニ從事スル船舶及ヒ専ラ漁獵場ヨリ漁獲物又ハ其他製品ヲ運搬スル船舶ヲ謂フ

- 本則ニ於テ移民船ト稱スルハ日本ノ港ニ於テ移住民若ハ三等旅客五十人以上又ハ移住民及三等旅客ヲ併セ五十人以上ヲ搭載シ近海航路外ノ港又ハ別ニ定ムル地方ニ運送セントスル船舶ヲ謂フ
- 外國船舶検査規則第一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第二條ノ二 關東州船舶特殊検査規則ノ規定ニ依リ検査ヲ受ケタル船舶ハ船舶検査法ニ定ムル検査ヲ受ケタルモノト看做ス
- 關東州船舶特殊検査規則ノ規定ニ依リ交付セラレタル證書ヲ有スル船舶ハ其ノ證書ノ有効期間内ニ限り船舶検査法及本則ニ定ムル證書ヲ受有セスシテ之ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得
- 第三條 船舶ノ検査ヲ分チテ左ノ四種トス
  - 一 特別検査



【法 例 抜 萃】

- 二 定期検査
- 三 臨時検査
- 四 移民船検査噸數三十噸未滿又ハ積石數三百石未滿ノ帆船及淺濶船ニ對シテハ前項第一號ノ検査ヲ行ハス
- 第四條 初メテ特別検査ヲ行フヘキ場合ハ左ノ如シ
  - 一 日本船舶ヲ初メテ航行ノ用ニ供セントスルトキ
  - 二 船舶検査法第十七條第一號若ハ二號ニ掲ケタル外國船舶ヲ同號ノ航路ニ使用シタルトキ
  - 三 船舶検査法第一條各號ノ船舶カ同法ノ規定ニ依リ検査ヲ受クヘキモノト爲リタルトキ
  - 四 前條第二項ニ掲ケタル船舶カ特別検査ヲ受クヘキモノト爲リタルトキ船舶検査法第三條第二項ノ申請アリタルトキ
- 前項第一號ノ場合ニ於ケル特別検査ノ一部ヲ行フ
- 第五條 管海官廳ハ進水後二年ヲ經過セサル船舶ノ特別検査ヲ第一回定期検査ニ於テ定メラレタル航行期間滿了マテ猶豫スルコトヲ得
- 第三條第二項ニ掲ケタル船舶カ特別検査ヲ受クヘキモノト爲リタルトキハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認

- 當ト認ムル船級協會ノ特別検査ヲ受ケタルモノハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限リ其ノ有効期間滿了マテ特別検査ヲ猶豫スルコトヲ得
- 第七條 特別検査ハ其ノ有効期間内ト雖モ船舶所有者船舶管理人又ハ船舶借入人ヨリ申請アルトキハ其ノ期間ヲ繰上ケ之ヲ行フコトヲ得
- 第八條 定期検査ハ船舶ノ航行期間ヲ定メントスルトキ之ヲ行フ
- 前項ノ規定ハ船舶カ其航行期間内ニ定期検査ヲ受ケントスル場合ニ之ヲ準用ス
- 前項ノ規定ニ依リ定期検査ノ繰上ヲ認許シタルトキハ船舶ノ航行期間ハ其滿了前ト雖モ滿了シタルモノト看做ス
- 第九條 臨時検査ヲ行フヘキ場合ハ左ノ如シ
  - 一 船舶検査法第三條第一項ノ規定ニ依リ検査官吏ニ於テ検査ヲ爲スノ必要アリト認メタルトキ
  - 二 第三十四條、第五十六條、第六十三條、第六十四條若ハ第七十一條第三項ノ規定ニ依リ申請、第六十六條ノ二第一項ノ規定ニ依リ請求又ハ第七十五條ノ規定ニ依リ届出アリタル場合ニ於テ管海官

【法 例 抜 萃】

- ムル場合ニ限リ該船舶ノ現ニ有スル航行期間滿了マテ特別検査ヲ猶豫スルコトヲ得
- 第五條ノ二 船舶検査法ノ規定ニ依リ特別検査ヲ受ケタル船舶カ検査ヲ受ケルコトヲ要セサルモノト爲リタル後再ヒ検査ヲ受クヘキモノト爲リタルトキハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限リ前ニ受ケタル特別検査ノ有効期間滿了マテ特別検査ヲ猶豫スルコトヲ得
- 特別検査ヲ受ケタル船舶第三條第二項ニ掲ケタル船舶トナリタル後再ヒ特別検査ヲ受クヘキモノト爲リタルトキ又ハ特別検査ヲ受ケタル船舶カ國籍ヲ變更シタルモ引續キ船舶検査法ノ適用ヲ受クヘキトキ亦前項ニ同シ
- 第五條ノ三 旅客船ニ非サル船舶ニシテ遞信大臣ノ認可シタル船級協會ニ於テ船舶検査法ノ規定ニ依リ特別検査ト同一程度ノ検査ヲ受ケタルモノハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限リ其ノ有効期間滿了マテ特別検査ヲ猶豫スルコトヲ得
- 船舶検査法第十七條第一號ニ掲ケタル外國船舶ニシテ其ノ所屬國政府ノ特別検査又ハ遞信大臣ニ於テ相



- 應力検査ヲ爲スノ必要アリト認メタルトキ
- 第十四條 船舶検査申請書ニハ本則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外左ニ掲ケル事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スヘシ
  - 一 船舶ノ種類、名稱及ヒ總噸數若クハ積石數
  - 二 所有者ノ住所氏名若クハ名稱
  - 三 船籍港
  - 四 船長ノ氏名及ヒ其ノ海技免狀ノ種類
  - 五 航行セントスル航路
  - 六 業務種類(漁船ニアリテハ)
  - 七 検査ヲ受ケントスル期日及ヒ場所
  - 八 検査ノ種類及其ノ申請ノ事由
- 第十五條 船舶検査法第三條第二項ノ規定ニ依リ製造中ノ船舶ノ検査ヲ申請セントスルトキハ船舶所有者ハ申請書、製造仕様書及ヒ圖面ヲ製造地ヲ管轄スル管海官廳ニ差出スヘシ但シ石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ハ圖面ヲ差出スヲ要セス
- 前項ノ申請書ニハ左ニ掲ケル事項ヲ記載シ申請人署名捺印シ船舶所有者ト製造者ト異ナル場合ニ於テハ之ヲ連署スヘシ

【法 例 拔 萃】

- 一 船舶ノ種類及ヒ豫定ノ資格
  - 二 外板及ヒ船骨ノ材料
  - 三 計畫積量
  - 四 計畫汽壓
  - 五 計畫實馬力
  - 六 汽機ノ種類及ヒ數
  - 七 汽罐ノ種類及ヒ數
  - 八 推進器ノ種類及ヒ數
  - 九 使用ノ目的
  - 十 使用ノ航路
  - 十一 製造所ノ名稱及ヒ所在地
  - 十二 擔任技師ノ氏名
  - 十三 起工ノ年月
- 圖面ハ左ノ七種ニ分チ寸法ヲ附記スヘシ
- 一 船體中央線縱截面圖
  - 二 船體中心線縱截面圖
  - 三 甲板平面圖
  - 四 汽機橫截面圖
  - 五 汽機縱截面圖
  - 六 汽罐橫截面圖

七 汽罐縱截面圖

第十七條 船舶ノ検査ハ船舶検査執行地ニ於テ之ヲ行フ但シ申請人検査執行地ニ於テ検査ヲ受クルコト能ハサル事由ヲ説明シタルトキハ検査執行地外ニ於テ検査ヲ受クルコトヲ得

第二十一條 検査官吏検査ノ爲メ船舶ニ臨檢シタルトキハ船長ハ船舶國籍證書若ハ假船舶國籍證書、登簿船免狀、船鑑札又ハ船舶検査證書、假證書、船舶職員ノ海技免狀、海員名簿、屬具目錄、航海日誌、旅客名簿其ノ他検査ニ必要ナル書類ヲ其ノ檢閱ニ供スヘシ

第二十四條 検査官吏検査ヲ行フニ當リ必要ナリト認ムルトキハ検査ヲ結了スルマテ船舶検査證書、假證書、適航證書、回航認可證書又ハ臨時旅客定員證書ヲ領置スルコトヲ得

第二十六條 船舶検査證書ヲ分チテ甲乙ノ二種トス

甲種船舶検査證書ハ定期検査ヲ行ヒタル時又ハ該證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキ之ヲ交付シ乙種船舶検査證書ハ移民船検査ヲ行ヒタルトキ之ヲ交付ス

漁船ニハ甲種船舶検査證書ニ代ヘテ漁船検査證書ヲ交付ス

第三十二條 左ニ掲クル場合ニ於テハ船舶検査證書又ハ假證書ヲ受有セスシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得

- 一 船舶カ第二十九條第一項ノ規定ニ依リ適航證書ヲ受有スルトキ
- 二 船舶検査執行地外ニ於テ製造セラレ若ハ國籍ヲ取得シ其ノ他検査ヲ受クヘキモノト爲リタル船舶ヲ船籍港マテ回航セシメ又ハ検査ヲ受クル爲メ該船舶ヲ最寄管海官廳所在地若ハ検査執行地マテ回航セシムルトキ
- 三 船舶法施行細則第四條各號ニ該當スルトキ
- 四 内地ニ船籍港ヲ有スル船舶ニシテ臺灣汽船検査規則ニ依リ検査ヲ受ケタルモノカ其ノ検査證書有効期間内ニ於テ内地ノ目的港マテ回航スルトキ
- 五 内地ニ船籍港ヲ有スル船舶ニシテ本則ノ規定ニ依リ特別検査ヲ受ケ且臺灣汽船検査規則ニ依リ検査ヲ受ケタルモノカ其ノ検査證書ノ有効期間内ニ於テ内地各港間、内地ト臺灣トノ間又ハ内地ト外

【法 例 拔 萃】

國トノ間ヲ航行セントスルトキ

- 六 臺灣ニ船籍港ヲ有スル船舶ニシテ本則ノ規定ニ依リ特別検査ヲ受ケ且臺灣汽船検査規則ニ依リ検査ヲ受ケタルモノカ其ノ検査證書ノ有効期間内ニ於テ船舶検査法第十七條ノ場合ニ該當スルトキ
- 七 管海官廳ノ認可ヲ受ケ倉庫船又ハ繫留船ノ繫留地ヲ變更スル爲メ之ヲ回航セシムルトキ
- 八 管海官廳ノ認可ヲ受ケ朝鮮、臺灣、樺太又ハ外國ノ沿岸又ハ其ノ湖川港内ニ使用スル目的ヲ以テ船舶ヲ其ノ目的地マテ回航セシムルトキ
- 前項第二號、第三號、第七號又ハ第八號ノ場合ニハ船舶ニ旅客又ハ貨物ヲ搭載スルコトヲ得ス
- 第一項第五號又ハ第六號ノ船舶カ旅客船ナル場合ニ於テ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ旅客及ヒ旅客室ニ關スル設備ヲ検査シ本則及ヒ船舶検査規程ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得
- 第三十四條 左ニ掲クル場合ニ於テハ最寄管海官廳ニ申請シ其ノ認可ヲ受ケ船舶検査證書又ハ假證書ニ記載スル航路期限又ハ航行期間ヲ超エテ船舶ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得

【法例 拔萃】

- 一 日本船舶ヲ所有スルコトヲ得サル者ニ船舶ヲ讓渡スル目的ヲ以テ之ヲ朝鮮、臺灣、樺太又ハ外國マテ回航セシムルトキ
- 二 臺灣ニ船籍港ヲ變更スル爲メ船舶ヲ該島マテ回航セシムルトキ
- 三 船體若ハ機關ノ要部又ハ重要ナル屬具ヲ修繕スル爲メ工場所在地マテ且工場所在地ヨリ検査執行地マテ船舶ヲ回航セシムルトキ
- 四 ノ二 管海官廳所在地外ノ場所ニ於テ一部ノ検査ヲ受ケタル船舶ヲ殘餘ノ検査ヲ受クル爲メ管海官廳所在地マテ回航セシムルトキ
- 五 第二十五條第二項ノ規定ニ依リ検査ノ引繼又ハ囑託ヲ爲シタル管海官廳ノ管轄區域内マテ更ニ回航セシムルトキ
- 六 航路定限内ノ地ハ検査執行地ナキ場合ニ於テ検査ヲ受クル爲メ船舶ヲ検査執行地マテ回航セシムルトキ
- 七 航行期間滿了シタル場合又ハ航海ノ途中航行期間滿了スヘキ場合ニ於テ検査ヲ受クル爲メ船舶ヲ航路定限内ノ検査執行地マテ回航セシムルトキ

- 八 航路定限外ノ地ニ在ル船舶ヲ航路定限内マテ回航セシムルトキ
- 九 航路定限變更ノ爲メ船舶ヲ航路定限外ニ回航セシムルトキ
- 十 海難救助其ノ他管海官廳ニ於テ已ムヲ得サル事由アルモノト認ムル場合ニ限リ一時船舶ヲ航路定限外ニ回航シ再ヒ航路定限内ニ回航セシムルトキ
- 第三十六條 朝鮮、臺灣、樺太又ハ外國ヨリ歸航ノ途中ニ在ル船舶カ内地以内ノ地ニ於テ航行期間滿了シタル場合又ハ航海ノ途中航行期間滿了スヘキ場合ニ於テ之ヲ内地ノ到達港マテ回航セントスルトキハ船長ハ外國ニ在リテハ最寄帝國領事ニ其ノ他ノ地方ニ在リテハ當該管海官廳ニ其ノ認可申請ヲスヘシ但シ外國ニ在リテハ相當ノ技能ヲ有スル者ニ於テ船舶ノ航海ニ適スル旨ヲ證シタル書面ヲ申請書ニ添附スルコトヲ要ス
- 第三十六條ノ二 遠洋航路ヲ航路定限ト爲ス船舶カ航行期間滿了シタル場合又ハ航海ノ途中航行期間滿了スヘキ場合ニ於テ検査ヲ受クル爲メ之ヲ朝鮮、臺灣、樺太若ハ第五十條ニ掲クル區域内ノ外國ニ於ケル目

- 的港マテ回航セシメ又ハ検査ヲ受クル爲メ之ヲ朝鮮臺灣、樺太若ハ第五十條ニ掲クル區域内ノ外國ニ於ケル陸揚港ヲ經テ内地ノ目的港マテ回航セシメントスルトキハ検査申請人ハ事由ヲ具シタル書面ヲ差出し最寄管海官廳ニ其ノ認可ヲ申請スヘシ
- 第四十五條 検査官吏検査ヲ結了シタルトキハ船舶検査手帳ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付ス
- 船舶検査手帳ハ船長ニ於テ之ヲ船内ニ保管スヘシ船舶検査手帳ハ検査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除ク外何人ト雖モ之ヲ開封スルコトヲ得ス
- 第四十八條 航路ヲ分チ左ノ四種トス
  - 一 遠洋航路
  - 二 近海航路
  - 三 沿海航路
  - 四 平水航路
- 第四十九條 遠洋航路トハ内外國ノ各地ニ通スル航路ヲ謂フ
- 第五十條 近海航路トハ左ニ掲クル各區内及ヒ各區ヲ併セタル區域内ヲ謂フ
  - 第一區 東經百十三度ヨリ同百七十度及ヒ北緯二十一度ヨリ同六十三度ニ至ル線内
  - 第二區 東經九十五度ヨリ同百七十五度及ヒ南緯十一度ヨリ北緯二十七度ニ至ル線内

【法例 拔萃】

- 第五十一條 沿海航路トハ左ニ掲クル各區内ノ航路ヲ謂フ
  - 第一區 上總國大東崎ヨリ安房國野島崎、伊豆國新島及ヒ岬津島ヲ經テ遠江國御前崎ニ至ル線内
  - 第二區 三河國伊良湖崎ヨリ志摩國大王崎、紀伊國大島及ヒ潮岬ヲ經テ土佐國甲ノ浦ニ至ル線内、紀伊國田倉崎ヨリ淡路國生石鼻ニ至ル線内及ヒ淡路國潮崎ヨリ阿波國大磯崎ニ至ル線内
  - 第三區 (削除)
  - 第四區 紀伊國田倉崎ヨリ淡路國生石鼻ニ至ル線内、淡路國潮崎ヨリ阿波國大磯崎ニ至ル線内、伊豫國佐田岬ヨリ豐後國大島ヲ經テ鶴見崎ニ至ル線内及ヒ長門國觀音崎ヨリ筑前國岩屋崎ニ至ル線内
  - 第五區 (削除)
  - 第六區 伊豫國佐田岬ヨリ豐後國美濃崎ニ至ル線内及ヒ土佐國足摺崎ヨリ日向國内海ニ至ル線内
  - 第七區 土佐國室戸崎ヨリ足摺崎ニ至ル線内
  - 第八區 日向國內海ヨリ大隅國種子島、屋久島、口永良部島及ヒ黑島ヲ經テ薩摩國野間岬ニ至ル線内
  - 第九區 薩摩國野間岬ヨリ甌列島及ヒ肥前國野母崎

【法例 拔萃】

- ヲ經テ三重埼ニ至ル線内
- 第十區 肥前國野母埼ヨリ五島列島及ヒ的山大島ヲ經テ平戸海峽ニ至ル線内
- 第十一區 肥前國野母埼ヨリ平戸島、生月島、壹岐島及ヒ對馬島ヲ經テ長門國觀音埼ニ至ル線内及ヒ豐前國今津ヨリ長門國本山鼻ニ至ル線内
- 第十二區 對馬島沿岸、對馬島北端ヨリ朝鮮蔚埼ニ至ル線内及ヒ對馬島南端ヨリ朝鮮鴻島ヲ經テ巨濟島コルベシト島ニ至ル線内
- 第十三區 筑前國岩屋埼ヨリ長門國角島及見島ヲ經テ石見國温泉津ニ至ル線内及ヒ豐前國今津ヨリ長門國本山鼻ニ至ル線内
- 第十四區 石見國温泉津ヨリ隱岐列島ヲ經テ因幡國賀露ニ至ル線内
- 第十五區 因幡國賀露ヨリ越前國三國ニ至ル線内
- 第十六區 越前國三國ヨリ能登國輪島崎ニ至ル線内
- 第十七區 能登國輪島崎ヨリ軸倉島及ヒ佐渡島ヲ經テ越後國新潟ニ至ル線内
- 第十八區 越後國新潟ヨリ佐渡島及ヒ羽後國飛島ヲ經テ酒田ニ至ル線内

- 經テ酒田ニ至ル線内
- 第十九區 羽後國酒田ヨリ飛島及ヒ陸奥國久六島ヲ經テ深浦ニ至ル線内
- 第二十區 陸奥國深浦ヨリ渡島國小島ヲ經テ江良町ニ至ル線内及ヒ陸奥國尻矢埼ヨリ渡島國惠山岬ニ至ル線内
- 第二十一區 渡島國江良町ヨリ後志國奥尻島ヲ經テ茂津多岬ニ至ル線内
- 第二十二區 後志國茂津多岬ヨリ神威岬ヲ經テ積丹岬ニ至ル線内
- 第二十三區 後志國神威岬ヨリ積丹岬ヲ經テ天鹽國留萌ニ至ル線内
- 第二十四區 天鹽國留萌ヨリ天賣島ヲ經テ天鹽ニ至ル線内
- 第二十五區 天鹽國天鹽ヨリ北見國利尻島及ヒ禮文島ヲ經テ宗谷岬ニ至ル線内
- 第二十六區 北見國知床岬ヨリ千島國國後島、色丹島、アキユリ島ヲ經テ根室國納沙布崎ニ至ル線内
- 第二十七區 根室國納沙布崎ヨリ落石崎及ヒ釧路國尻羽崎ヲ經テ十勝國大津ニ至ル線内

- 第二十五區ノ三 日高襟裳埼ヨリ擔振國苦小牧ニ至ル線内
- 第二十六區 擔振國苦小牧ヨリ渡島國惠山岬ニ至ル線内
- 第二十七區 陸奥島八戸馬淵川口ヨリ陸前國金華山ヲ經テ花淵崎ニ至ル線内
- 第二十八區 大隅國奄美大島沿岸及ヒ奄美群島間
- 第二十九區 沖繩島沿岸及ヒ沖繩群島間
- 第三十區 平水航路トハ湖川港内及ヒ左ニ掲クル各區内ノ航路ヲ謂フ
- 第三十一區 相模國千駄埼ヨリ笠島ヲ經テ上總國富津ニ至ル線内
- 第三十二區 駿河國三保埼ヨリ伊豆國戸田港ニ至ル線内
- 第三十三區 三河國伊良湖埼ヨリ志摩國菅島ニ至ル線内
- 第三十四區 紀伊國駒埼ヨリ木地埼ニ至ル線内
- 第三十五區 紀伊國宮崎ヨリ加太浦ニ至ル線内
- 第三十六區 紀伊國友ヶ島水道及ヒ播磨國明石瀬戸以内
- 第三十七區 播磨國室津ヨリ小豆島大角鼻ヲ經テ讃岐國小田鼻ニ至ル線内及ヒ讃岐國多度津ヨリ備中國青佐鼻ニ至ル線内

【法例 拔萃】

- 第七區 讃岐國多度津ヨリ備中國青佐鼻ニ至ル線内及ヒ伊豫國梶取埼ヨリ岡村島、安藝國大崎上島ヲ經テ三津ニ至ル線内
- 第八區 伊豫國梶取埼ヨリ岡村島、安藝國大崎上島ヲ經テ三津ニ至ル線内及ヒ伊豫國三津濱ヨリ周防國屋代島手郡島ヲ經テ下ノ關ニ至ル線内
- 第九區 周防國屋代島手郡島ヨリ笠戸島埼ヲ經テ向島翁埼ニ至ル線内及ヒ向島元ヶ鼻ヨリ周防國西泊埼ニ至ル線内
- 第十區 豐後國地蔵埼ヨリ美濃埼ニ至ル線内
- 第十一區 豐後國地蔵埼ヨリ沖無垢島ヲ經テ保戸島ニ至ル線内
- 第十二區 豐後國保戸島ヨリ大島ヲ經テ鶴見埼ニ至ル線内
- 第十三區 豐前國今津ヨリ長門國本山鼻ニ至ル線内及ヒ筑前國若松ヨリ長門國六連島ヲ經テ村崎鼻ニ至ル線内
- 第十四區 長門國青海島ノ東端ヨリ虎ヶ埼ニ至ル線内及ヒ青海島ノ西端ヨリ今岬ニ至ル線内
- 第十五區 筑前國西浦三埼ヨリ志賀島大崎ニ至ル線内

【法例拔萃】

- 内
- 第十二區 筑前國鹿家崎ヨリ肥前國神集島ヲ經テ呼子港ニ至ル線内
- 第十三區 對馬國唐洲崎ヨリ郷崎ニ至ル線内
- 第十四區 肥前國津崎ヨリ鷹島ヲ經テ值賀崎ニ至ル線内
- 第十五區 肥前國向後崎ヨリ番所崎ニ至ル線内
- 第十六區 肥前國七郎崎ヨリ黒島ヲ經テ平戸島坊ヶ崎ニ至ル線内及ヒ肥前國大瀬崎ヨリ平戸島魚見崎ニ至ル線内
- 第十七區 肥前國野母崎ヨリ三重崎ニ至ル線内
- 第十八區 肥前國口ノ津ヨリ肥後國天草島大島崎ニ至ル線内
- 第十九區 肥後國天草島牛深港及ヒ黒瀬戸以内
- 第二十區 薩摩國山川港ヨリ大隅國小根占川ニ至ル線内
- 第二十一區 隱岐國島前中井口、木路口及ヒ赤灘口以内
- 第二十二區 出雲國地蔵崎ヨリ伯耆國日野川ニ至ル線内

- 第二十二區 丹後國鷺崎ヨリ博奕崎ニ至ル線内
- 第二十三區 越前國立石崎ヨリヲカ崎ニ至ル線内
- 第二十四區 能登國觀音崎ヨリ沖波鼻ニ至ル線内
- 第二十五區 陸奥國平館ヨリ九艘泊ニ至ル線内
- 第二十六區 陸前國花淵崎ヨリ宮戸島萱ノ崎ニ至ル線内
- 第二十七區 渡島國函館山尾花崎ヨリ葛登支岬ニ至ル線内
- 第二十八區 後志國辨慶岬ヨリ磯谷ニ至ル線内
- 第二十九區 後志國高島岬ヨリカムイコタンニ至ル線内
- 第三十區 釧路國尻羽岬ヨリ大黒島ヲ經テルムセシマ岬ニ至ル線内
- 第五十三條 沿海航路又ハ平水航路ヲ航路定限ト爲サントスル船舶ハ第五十一條又ハ第五十二條ニ掲ケタル區域中相連續スルモノニ限り旅客船ニ在リテハ二區ヲ併セ旅客船ニ非サルモノニアリテハ二區以上ヲ併セテ之ヲ航路定限ト爲スコトヲ得
- 第六十九條 船舶ノ汽壓制限ハ検査官吏ニ於テ機關ノ現狀ニ應シ船舶検査規定ニ依リ之ヲ定ム

- 第七十二條 船舶ノ航行期間ハ船舶ノ現狀ニ應シ船舶検査法第四條ノ規定ニ依リ検査官吏之ヲ定ム
- 第七十五條 船舶ノ航行期間内ニ於テ左ニ掲クル一ニ該當スルトキハ船舶所有者船舶管理人、船舶借入人又ハ船長ハ其ノ旨管海官廳ニ届出ツヘシ
  - 一 船舶ヲ入渠若ハ上架セントスルトキ
  - 二 船體若ハ機關ノ要部又ハ重要ナル屬具ニ損傷ヲ生シタルトキ又ハ之ヲ修繕變更セントスルトキ
  - 三 汽機、發動機若ハ汽罐ヲ取放シタルトキ又ハ螺旋轉ヲ拔出シタルトキ

船員法

- 第一條 本法ハ日本船舶ノ船員ニ之ヲ適用ス但湖川、港灣ノミヲ航行スル船舶又ハ船舶法第二十條ニ掲ケタル船舶ノ船員ニ付テハ此限ニ在ラス
- 第二條 本法ニ於テ船員トハ船長及ヒ海員ヲ謂ヒ海員トハ船長以外ノ一切ノ乗組員ヲ謂フ
- 第三條 日本ニ於テ船員トナラント欲スル者ハ管海官廳ニ船員手帳ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス
- 申請人ハ戸籍吏ノ書面其他ノ公正證書ニ依リテ左ノ

【法例拔萃】

- 事項ヲ證スルコトヲ要ス但申請人カ其本籍地又ハ寄留地ニ於テ申請ヲ爲ス場合ニ於テ其他ノ管海官廳カ戸籍吏ノ職務ヲ行フトキハ此限りニ在ラス
  - 一 氏名
  - 二 本籍地
  - 三 身分
  - 四 出生ノ年月日
- 第四條 未成年者カ船員ト爲ルニハ其法定代理人ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス
- 未成年者カ船員手帳ノ交付ヲ申請スルニハ前條第二項ニ掲ケタル事項ノ外前項ノ許可ヲ得タル旨ヲ證スルコトヲ要ス
- 第五條 船員ト爲ルコトヲ許可サレタル未成年者ハ雇傭契約ニ關シテハ成年者ト同一ノ能力ヲ有ス
- 第六條 外國ニ於テ船員ト爲リタル者カ日本ニ到着シタルトキハ其到着ノ日ヨリ一箇月内ニ船員手帳ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス
- 第七條 船員手帳ニ記載シタル事項ニシテ第三條第二項ニ掲ケタルモノニ錯誤アリタルトキ又ハ同條第二項第一號乃至第三號ニ掲ケタルモノニ變更ヲ生シタ

【法例拔萃】

ルトキハ船員ハ其事實ヲ知りタル日ヨリ一ヶ月間内ニ管海官廳ニ船員手帳ノ訂正ヲ申請スルコトヲ要ス船員カ日本ニ在ラサル間ニ於テ錯誤又ハ變更ノ事實ヲ知りタルトキハ前項ノ期間ハ其船員カ日本ニ到着シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第八條 第三條第二項及ヒ第四條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條 船員手帳カ滅失シタルトキハ船員ハ遲滞ナク更ニ其交付ヲ申請スルコトヲ要ス

第十條 船員カ日本ニ在ラサル間ニ於テ船員手帳カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船員カ日本ニ到着シタル後遲滞ナク船員手帳ノ交付又ハ書換ヲ申請スルコトヲ要ス

第十一條 第三條第二項及ヒ第四條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ船員手帳ノ交付又ハ書換ヲ申請スルトキハ此限ニ在ラス

第十二條 船員カ廢業ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク管海官廳ニ其船員手帳ヲ返還スルコトヲ要ス船員カ死亡シタルトキハ其船員手帳ヲ保管スル者之ヲ返還スルコトヲ要ス

第十三條 船長ハ海員ヲ指揮、監督シ及ヒ船中ニ在ル者ニ對シ其職務ヲ行フニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十四條 船長ハ管海官廳ノ命令アリタルトキハ商法第五百六十二條第一項ニ掲ケタル書類ヲ提出スルコトヲ要ス

第十五條 船舶カ港灣ヲ出入スルトキ、狹隘ナル水路ヲ通過スルトキ其他危險ノ虞アルトキハ船長ハ甲板ニ在リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコトヲ要ス

第十六條 日本ト外國トノ間又ハ外國各港ノ間ヲ航行スル船舶カ外國ノ港ニ入港シ又ハ日本ニ到着シタルトキハ船長ハ二十四時間内ニ其港ノ管海官廳、若シ其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ航海日誌ヲ提出シテ其檢閲ヲ受クルコトヲ要ス

第十七條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ出頭シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス一 豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ

二 人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ  
三 衝突其他ノ海難カ生シタルトキ  
四 船舶カ捕獲セラレタルトキ  
五 船中ニ於テ死亡シタル者アリタルトキ

船舶カ豫定セサル港ニ寄航シタルトキ又ハ前項第二號乃至第五號ニ掲ケタル事由カ碇泊中ニ生シタルトキハ船長ハ其港ノ管海官廳若シ其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ出頭シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

第十八條 前條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テハ船長ハ報告書ヲ作り其認證ヲ申請スルコトヲ得

第十九條 船舶ニ急迫ノ危險アリタルトキハ船長ハ人命、船舶及ヒ積荷ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且旅客、海員其他船中ニ在ル者ヲ去ラシメタル後ニ非サレハ其指揮スル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第二十條 船舶カ衝突シタルトキハ船長ハ互ニ人命及ヒ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且船舶ノ名稱、船籍港、發航港及ヒ到達港ヲ告グルコトヲ要ス但自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ此限ニ在ラス

【法例拔萃】

第二十一條 船長カ航海中救援ヲ求ムル船舶ヲ認メタルトキハ人命ヲ救フコトヲ要ス但自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ此限りニ在ラス

第二十三條 外國ニ駐在スル日本ノ公使、領事又ハ貿易事務官カ法令ノ定ムル所ニ依リ日本臣民ヲ日本ニ送還スヘキコトヲ命シタルトキハ船長ハ正當ノ理由ニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十四條 船長ハ其指揮セントスル船舶ニ乗込ム前ニ其船員手帳ヲ管海官廳ニ提出シテ就職ノ認證ヲ申請スルコトヲ得

第二十五條 船長カ死亡シタルトキ、船舶ヲ去リタルトキ又ハ之ヲ指揮スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ他人ヲ選任セサルトキハ運航ニ從事スル海員ハ其職掌ノ順位ニ從ヒテ船長ノ職務ヲ行フ

第二十六條 海員ノ雇入若クハ雇止ヲ爲シ又ハ雇入契約ノ更新若クハ變更ヲ爲シタルトキハ管海官廳ニ海員名簿ヲ提出シテ公認ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十七條 管海官廳カ公認ヲ爲スニハ海員名簿ニ記載シタル事項ヲ當事者双方ニ讀聞カセタル後之ニ署

【法例 沿革】

名捺印セシムルコトヲ要ス但海員ノ雇止ヲ爲シタル  
場合ニ於テ正當ノ理由アル時ハ當時者ノ一方カ出頭  
セサルトキト雖モ公認ヲ爲スコトヲ得

第二十九條 公認アリタルトキハ海員ハ遲滞ナク其船  
員手帳ヲ管海官廳ニ提出シテ公認ノ認證ヲ申請スル  
コトヲ要ス

第三十條 海員ノ雇止ニ關シテ争アルトキハ當事者ノ  
一方ハ管海官廳ニ其ノ事由ヲ申立テ雇止ノ公認ヲ申  
請スルコトヲ得

管海官廳カ前項ノ申請ヲ正當ナリト認メタルトキハ  
當事者双方ヲ呼出タシ海員名簿及ヒ船員手帳ヲ提出  
セシメテ雇止ノ公認ヲ爲スコトヲ要ス

當事者ノ一方カ出頭セサルトキハ管海官廳ハ相手方  
ノ申立ニ因リテ雇止ノ公認ヲ爲スコトヲ得此場合ニ  
於テハ海員名簿及ヒ船員手帳ニ其事由ヲ記載スルコ  
トヲ要ス

前二項ノ場合ニ於テハ管海官廳ハ海員名簿又ハ船員  
手帳ノ提出ヲ強制スルコトヲ得

第三十一條 船長ハ海員ノ雇入期間中其船員手帳ヲ保  
管スルコトヲ要ス

第三十二條 海員カ雇入期間中脱船シタルトキハ船長  
ハ遲滞ナク管海官廳ニ其海員ノ船員手帳ヲ返還スル  
コトヲ要ス

第三十三條 海員ハ雇止アリタル場合ニ於テハ船長ニ  
對シ其職務ノ執行又ハ品行ニ關スル證明書ノ交付ヲ  
請求スルコトヲ得

第三十四條 海員名簿カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船  
長ハ更ニ海員名簿ヲ作り之ヲ管海官廳ニ提出シテ公  
認ヲ申請スルコトヲ得

第三十五條 海員カ雇止期間中第九條又ハ第十條ノ規  
定ニ依リテ船員手帳ノ交付又ハ書換ヲ申請シタル場  
合ニ於テ其交付又ハ書換アリタルトキハ海員ハ遲滞  
ナク第二十九條ニ定メタル手續ヲ爲スコトヲ要ス

第三十六條 左ノ場合ニ於テハ海員ヲ懲戒スルコトヲ  
得  
一 海員カ上長ニ對シテ尊敬又ハ柔順ノ道ヲ失ヒタ  
ルトキ

二 海員カ其職務ヲ怠リタルトキ  
三 海員カ他ノ海員ノ職務執行ヲ妨ケタルトキ  
四 海員カ喧争シタルトキ

五 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ船舶ヲ去リタルト  
キ又ハ船長カ指定シタル時マテニ歸船セザリシ  
トキ

六 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ點火又ハ焚火シタ  
ルトキ

七 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ端艇ヲ使用シタル  
トキ

八 海員カ食料又ハ飲料ヲ濫費シタルトキ

九 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ酒類ヲ所持スルト  
キ又ハ吸煙シタルトキ

十 海員カ酩酊シテ事ヲ省セサルトキ

十一 其他海員カ船中ノ秩序ニ反スル行爲ヲ爲シタ  
ルトキ

第三十七條 懲戒ハ左ノ四種トス

一 監禁

二 上陸禁止

三 加役

四 減給

第三十八條 監禁ハ三日以下トシ船中ノ一室ニ拘置ス  
上陸禁止ハ七日以下トス此期間ニハ船舶ノ碇泊日數

【法例 沿革】

ノミヲ算入ス

加役ハ七日以下トシ常務時間ニ於テ役務ニ服セシム  
但一日二時間ヲ超ユルコトヲ得ス減給ハ給料月額十  
分ノ一以下トス

第三十九條 前條第一項乃至第三項ノ期間ニハ初日ヲ  
算入ス

第四十條 懲戒ノ適用ハ行爲ノ輕重ニ從ヒ船長之ヲ定  
ム但シ二種以上ノ懲戒ヲ併科スルコトヲ得ス

第四十一條 海員カ兇器、爆發若クハ發火シ易キ物、  
劇藥其他危險物又ハ酒類ヲ所持スルトキハ船長ニ於  
テ其物ヲ保管又ハ放棄スルコトヲ得

第四十二條 海員カ人身又ハ船舶ニ危害ヲ及ホスヘキ  
行爲ヲ爲サントスルトキハ船長ハ必要ノ期間内其海  
員ノ身體ヲ拘束スルコトヲ得

第四十三條 船長ハ必要アルトキハ旅客其他船中ニ在  
ルモノニ對シテモ前二條ニ定メタル處分ヲ爲スコト  
ヲ得

第四十四條 海員カ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ  
乗込マサルトキ又ハ船長ノ許可ヲ得スシテ之ヲ去リ  
タルトキハ船長ハ乗船ヲ強制スルコトヲ得

【法例拔萃】

第四十五條 船長ノ命令ニ服從セサル者アル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ船長ハ海軍ノ艦船、地方官廳又ハ管海官廳ニ援助ヲ求ムルコトヲ得

船員法施行細則

第十三條 船長ハ海員名簿、屬具目錄、航海日誌又ハ旅客名簿ヲ船中ニ備ヘタルトキ遲滞ナク書式ニ從ヒ必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ  
前項ニ依リ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ遲滞ナク之ヲ訂正スヘシ  
第十四條 左ノ場合ニ於テ船長ハ事實ノ發生後遲滞ナク書式ニ從ヒ航海日誌ニ事實ノ顛末、發生ノ年月日時、場所其ノ他關係ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 豫定ノ船路ヲ變更シタルトキ
- 二 人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ
- 三 衝突其ノ他ノ海難ニ罹リタルトキ
- 四 豫定セサル港ニ寄港シタルトキ
- 五 船舶ニ急迫ノ危險アリタル爲メ船長ニ於テ船舶ヲ去リタルトキ

テハ十六歳以上ノ者ニ限り之ヲ雇入レ使用スルコトヲ得

此場合ニ於テハ十八歳以上ノ者一人ニ代ヘ十六歳以上ノ者二人ヲ雇入ル、コトヲ要ス  
專ラ日本各港間ヲ航行スル船舶ニ於テハ前項ノ規定ニ限ラス主務大臣ノ定ムル所ニ依リ十六歳以上ノ者ヲ使用スルコトヲ得

第三條 十八歳未満ノ者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ船舶内労働ニ適スルコトヲ證明シ且醫師ノ署名シタル健康證明書ヲ有スルニ非サレハ船員トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ス但緊急已ムヲ得サル事由アルトキハ此限りニ在ラス

船舶職員法

第一條 日本船舶ニハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外此ノ法律ノ規定ニ依リ船舶職員ヲ乗組マシムヘシ但シ船舶検査法第一條各號ニ掲クル船舶ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 海技免狀ヲ有スル者ニアラサレハ船舶職員タルコトヲ得ス

【法例拔萃】

六 船長ニ於テ海員ヲ懲戒シタルトキ

七 船員法第四十一條乃至第四十四條ニ依リテ處分ヲ爲シタルトキ

八 船員法第四十五條ニ依リ援助ヲ求メタルトキ

九 船中ニ於テ犯罪アリタルトキ

十 船中ニ於テ出生アリタルトキ

十一 船中ニ於テ死亡アリタルトキ及死亡者ノ遺産ヲ處分シタルトキ

十二 前各號ニ掲クル場合ノ外船中ニ於テ異常ノ事變發生シタルトキ

第十五條 船長ハ旅客乗船シタルトキハ其乗船後、下船シタルトキハ其下船後遲滞ナク旅客名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載スヘシ

船員最低年齡法

第二條 十四歳未満ノ者ハ船員トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第二條ノ二 十八歳未満ノ者ハ石炭夫又ハ火夫トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ス

但シ十八歳以上ノ者ヲ雇入ル、コト能ハサル港ニ於

第三條 海技免狀ハ左ノ十二種トス

甲種船長 丙種船長

甲種一等運轉士 丙種運轉士

甲種二等運轉士 機關長

乙種船長 一等機關士

乙種一等運轉士 二等機關士

乙種二等運轉士 三等機關士

遞信大臣ハ海技免狀ノ効力ニ制限ヲ加ヘタルモノヲ授與スルコトヲ得

第五條 海技免狀ハ遞信大臣ノ定ムル試験規程ニ依リ體格検査及學術試験ヲ受ケ合格シ且海技免狀原簿ニ登録ヲ受ケタル者ニ授與ス

海軍艦船ニ乗組ミ運航若ハ機關運轉ニ從事シ又ハ船舶ノ運航若ハ機關ノ運轉ニ關スル學術ヲ教授スル學校ノ所定ノ課程及練習ヲ卒リ遞信大臣ニ於テ學術試験ニ合格スト認ムル者ニハ學術試験ヲ行ハスシテ相當ノ免狀ヲ授與スルコトヲ得

小形船舶ニ乗組ム船舶職員ノ有スヘキ海技免狀ハ遞信大臣ノ定ムル所ニ依リ學術試験ヲ行ハスシテ之ヲ授與スルコトヲ得



【法 例 拔 萃】

- 第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ船舶職員タルコトヲ得ヌ又前條ノ體格検査及學術試驗ヲ受クルコトヲ得ヌ
- 一 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
  - 二 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者
  - 三 瘋癲、白痴、身體不具其ノ他精神又ハ身體ニ缺陷ヲ有シ執職ニ不適當ナル者
  - 四 海技免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者
  - 五 海技免狀ノ行使停止中ノ者
  - 六 破産者ニシテ復權ヲ得サル者逓信大臣ハ海技免狀受有者ニシテ前項第三號ニ該當スルノ疑アルモノニ就キ管海官廳ヲシテ體格検査ヲ執行セシムルコトヲ得
- 第七條 左ニ掲クル船舶ニ付テハ命令ヲ以テ其ノ職員ニ關シ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得
- 一 外國各港間ノミヲ航行スル船舶
  - 二 漁獵其ノ他特殊ノ目的ニ專用スル船舶
  - 三 特殊ノ構造ヲ有スル船舶

船舶職員法施行細則

- 第七條 左ノ場合ニ於テハ船舶職員法第四條又ハ本則ニ定ムル船舶職員ノ全部又ハ一部ヲ乘組マシメサルコトヲ得
- 一 外國ニテ所有權ヲ取得シタル船舶ヲ到達港マテ回航スルトキ
  - 二 外國各港間ノミヲ航行スル船舶ニ於テ船舶職員ニ欠員ヲ生シ補充ノ手續中ナルトキ
  - 三 日本ト外國トノ間ヲ航行スル船舶外國ノ港ニ於テ船舶職員ニ欠員ヲ生シ日本ノ到達港マテ回航スルトキ
  - 四 平水航路又ハ沿海航路ニ該當スル外國各港間ノミヲ航行スル船舶ニシテ當該外國政府ノ法規ニ依リ相當免狀ヲ受有スル者ヲ乘組マシメタルトキ
  - 五 航行中船舶職員ニ欠員ヲ生シタルトキ
  - 六 他船ニ引カレテ航行スルトキ
  - 七 入渠、修繕又ハ其他ノ事由ニ依リ船舶ヲ航行ノ用ニ供セサルトキ
- 第八條 船舶職員法第三條第二項ニ依リ効力ニ制限ヲ

- 如ヘ授與スル海技免狀ハ左ノ如シ
- 一 甲種船長免狀 汽船又ハ帆船ニ限り船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
  - 二 甲種一等運轉士免狀 汽船又ハ帆船ニ限り船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
  - 三 甲種二等運轉士免狀 汽船又ハ帆船ニ限り船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
  - 四 乙種一等運轉士免狀 湖川港内ノミヲ航行スル汽船ニ限り船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
  - 五 乙種二等運轉士免狀 湖川港内ノミヲ航行スル汽船ニ限り船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
  - 五ノ二 丙種運轉士免狀 沿海航路ヲ航路限定ト爲ス總噸數五十噸未滿ノ帆船ニ限り船舶職員トナルコトヲ得ルモノ
  - 五ノ三 二等機關士免狀 發動汽船ニ限り船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
  - 六 三等機關士免狀 湖川港内ノミヲ航行スル汽船又ハ發動汽船ニ限り船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
- 前項ノ外各種運轉士免狀ハ効力ヲ漁船漁業汽船又ハ

【法 例 拔 萃】

- 漁業帆船ニ限リタルモノヲ授與スルコトアルヘシ
- 第九條 高等ノ免狀ハ下等ノ免狀ニ代用スルコトヲ得
- 甲種船長免狀ハ他ノ船長免狀及運轉士免狀ニ對シ、甲種一等運轉士免狀ハ他ノ運轉士免狀ニ對シ、甲種二等運轉士免狀ハ各乙種運轉士免狀及丙種運轉士免狀ニ對シ、乙種船長免狀ハ各乙種運轉士免狀ニ對シ、丙種船長免狀ハ丙種運轉士免狀ニ對シ各高等ノ免狀トス
- 機關長免狀ハ各機關士免狀ニ對シ一等機關士免狀ハ二等機關士免狀及三等機關士免狀ニ對シ、二等機關士免狀ハ三等機關士免狀ニ對シ各高等ノ免狀トス
- 同種免狀ニシテ効力ニ制限ヲ加ヘサルモノハ効力ニ制限ヲ加ヘタルモノニ對シ、効力ヲ汽船ニ限リタルモノハ効力ヲ漁業汽船ニ限リタルモノニ對シ、効力ヲ帆船ニ限リタルモノハ効力ヲ漁業帆船ニ限リタルモノニ對シ各高等ノ免狀トス
- 第十條 免狀ノ代用ニ付テハ前條ノ外第三號表ノ定ムル所ニ依ル
- 第十八條 海技免狀ヲ受有スル者左ノ各號ニ該當スル



【法例拔萃】

遠洋又ハ		近海航路第一區							海航路		
三千馬力未滿	二千馬力未滿	四千馬力以上	四千馬力未滿	二千馬力未滿	千二百馬力未滿	六百馬力未滿	四百馬力未滿	二百五十馬力未滿	二千馬力以上	二千馬力未滿	七百馬力未滿
二機 等機 關士 長	一機 等機 關士 長	三二一機 等機 關士 長	二一機 等機 關士 長	一機 等機 關士 長	一機 等機 關士 長	一機 等機 關士 長	一機 等機 關士 長	一機 等機 關士 長	一機 等機 關士 長	一機 等機 關士 長	一機 等機 關士 長
二機 等機 關士 長	一機 等機 關士 長	二同 等機 關士 長	二一機 等機 關士 長	一機 等機 關士 長	二一機 等機 關士 長	三二一機 等機 關士 長	二一機 等機 關士 長	三二一機 等機 關士 長	一機 等機 關士 長	二一機 等機 關士 長	三二一機 等機 關士 長

近海第二區

五千馬力以上ノ旅客船	五千馬力未滿ノ旅客船又ハ非旅客船
一機 等機 關士 長	二一機 等機 關士 長
一機 等機 關士 長	二一機 等機 關士 長

備考 本表ノ定員ハ機關長ヲ除クノ外最少員數ヲ示シタルモノトス

第二號表

總噸數	職員名稱	免狀種類	定員
二百噸未滿	機關長	三等機關士	一
千噸未滿	機關長	二等機關士	一
千噸以上	機關長	一等機關士	一

第三號表

航路種類	船舶總噸數	職員名稱	免狀種類	代用免狀種類
汽	三噸未滿	機關長	二等機關士	三等機關士
汽	千噸	長乙種船	長甲種一等運轉士	五百噸未滿ニ限

沿海航路				海航路			
汽船		帆船		汽船		帆船	
三噸以上	三噸以上	三噸以上	三噸以上	三噸以上	三噸以上	三噸以上	三噸以上
長丙種船	長乙種船	長甲種一等運轉士	長甲種二等運轉士	長丙種船	長甲種一等運轉士	長甲種二等運轉士	長甲種三等運轉士
長丙種船	長乙種船	長甲種二等運轉士	長甲種三等運轉士	長丙種船	長甲種一等運轉士	長甲種二等運轉士	長甲種三等運轉士

船舶職員試験規定

第一條 船舶職員試験ハ左ノ三十六種トス  
 小型船丙種運轉士試験

【法例拔萃】

- 漁船丙種運轉士試験
- 丙種運轉士試験
- 丙種船長試験
- 湖川港乙種二等運轉士試験
- 湖川港乙種一等運轉士試験
- 小型船乙種二等運轉士試験
- 漁船乙種二等運轉士試験
- 漁船乙種一等運轉士試験
- 乙種二等運轉士試験
- 乙種一等運轉士試験
- 乙種船長試験
- 漁業帆船甲種二等運轉士試験
- 漁業帆船甲種一等運轉士試験
- 漁業汽船甲種二等運轉士試験
- 漁業汽船甲種一等運轉士試験
- 漁船甲種二等運轉士試験
- 漁船甲種一等運轉士試験
- 帆船甲種二等運轉士試験
- 帆船甲種一等運轉士試験

【法 例 拔 萃】

- 帆船甲種船長試験
- 汽船甲種二等運轉士試験
- 汽船甲種一等運轉士試験
- 汽船甲種船長試験
- 甲種二等運轉士試験
- 甲種一等運轉士試験
- 甲種船長試験
- 發動汽船三等機關士試験
- 湖川港三等機關士試験
- 三等機關士試験
- 發動汽船二等機關士試験
- 二等機關士試験
- 發動機船一等機關士試験
- 一等機關士試験
- 發動機船機關長試験
- 機關長試験

第二條 船舶職員試験ハ別ニ告示スル試験ノ場所及期日ニ於テ管海官廳定期ニ之ヲ執行シ臨時試験ヲ執行スル必要アルトキハ試験ノ場所及期日ヲ臨時告示ス

船員職業紹介法

- 第一條 本法ハ命令ノ定ムル場合ヲ除クノ外沿海航路以上ノ航路ヲ航行スル船舶ニ乗組ムヘキ船員ノ職業紹介ニ之ヲ適用ス
- 本法ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ニ掲クルモノ以外ノ船員ノ職業紹介ニ之ヲ適用スル事ヲ得
- 第二條 船員職業紹介事業ヲ行ハントスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ
- 第三條 船員職業紹介ニ關シ必要アリト認ムル時ハ政府ニ於テ職業紹介事業ヲ行フ事ヲ得
- 政府ハ命令ノ定ムル補助金ヲ支給シテ公益ヲ目的トスル法人其他ノ團體ヲシテ職業紹介事業ヲ行ハシムル事ヲ得
- 第四條 船員職業紹介事業ヲ行フモノハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス其報酬トシテ手数料其他ノ財産上ノ利益ヲ得ル事ヲ得ス
- 第五條 船員職業紹介事業ニ監理及連絡統一ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第六條 船員職業紹介事業ノ經營ニ關シ船員職業紹介

第二章 無料職業紹介

- 第四條 船員職業紹介法第二條及附則第二項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル許可申請書ニ履歴書及戸籍謄本ヲ添ヘ主タル船員職業紹介所ノ所轄管海官廳ヲ經由シ之ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ
- 一 氏名又ハ名稱 本籍及住所
  - 二 船員職業紹介所ノ所在地
  - 三 船員職業紹介所ノ設備、開所豫定年月日
  - 四 船員職業紹介ニ關スル諸規定
- 第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ船員職業紹介事業ノ經營ヲ許可セス船員職業紹介所設置ノ必要ヲ認メサルトキ亦同シ
- 一 禁治産者及準禁治産者
  - 二 犯罪ニ因リ刑ニ處セラレ改悛ノ狀ナシト認ムル者
  - 三 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者
  - 四 其他船員職業紹介事業ヲ行フニ適セスト認メタル者

委員會ヲ置ク遞信大臣之ヲ監督ス

船員職業紹介委員會ノ組織及職務權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ六ヶ月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一、許可ヲ得スシテ船員職業紹介事業ヲ行ヒタル者
- 二、船員職業紹介ヲ爲シ其報酬トシテ手数料其他ノ財産上ノ利益ヲ受ケ又ハ他人ヲシテ受ケシメタル者

本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ船員職業紹介ヲ爲ス者強制シテ職業紹介ヲ爲シタル時モ又前項ノ例ニ同シ

附 則

本法施行ノ際現ニ有料又ハ營利ヲ目的トスル船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當分ノ内其事業ヲ繼續スル事ヲ得

船員職業紹介法施行規則

【法 例 拔 萃】

【法例 拔萃】

第八條 船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ遲滞ナク紹介毎ニ其ノ從業者ノ氏名住所及履歴ヲ記載シタル書面ニ戶籍謄本ヲ添ヘ所轄管海官廳ニ届出ツヘシ

第九條 遞信局長ハ船員職業紹介事業ノ經營ニ關シ不適當ト認ムルトキハ船員職業紹介事業ヲ行フ者ニ對シ從業者ノ解任ヲ命シ又ハ設備ノ改善ニ關シ必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

第十四條 船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ船員ノ下船又ハ雇傭契約ノ廢棄ヲ勸誘シ又ハ勸誘セシムルコトヲ得ス

第十五條 船員職業紹介事業ヲ行フ者及從業者ハ求人者又ハ求職者ト金品ノ授受貸借ヲ爲シ、求人者又ハ求職者ニ代リ金品ヲ授受シ又ハ求職者ノ所持スル物品ヲ買受ケ擔保トシテ受取り若ハ質入賣却ノ周旋ヲ爲スヘカラス但シ豫メ所轄管海官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此限ニ在ラス

第十六條 船員職業紹介事業ヲ行フ者及其ノ從業者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル業務ヲ爲スコトヲ得ス但シ豫メ其ノ業務ヲ行ハムトスル地ヲ管轄スル遞信局長

ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 兩替
- 二 質屋
- 三 酒類販賣
- 四 日用品ノ販賣
- 五 飲食店、宿泊所其ノ他類似ノ業務

第十八條 船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ正當ノ事由ナクシテ紹介ノ申込ミヲ拒ムコトヲ得ス

第二十條 船員ノ職業紹介ハ申込ノ順序ニ依ル但シ正當ノ理由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 紹介ノ申込ハ申込ノ日ヨリ起算シ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ効力ヲ失フ

第二十三條 船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ毎月十日、二十日及末日ニ其ノ旬中ノ記入ニ係ル求人票及求職票ノ寫ヲ紹介所毎ニ取纏メ翌旬第三日迄ニ所轄管海官廳ニ提出スヘシ但シ既ニ提出濟ノ票ニシテ記入後變更ナキモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三章 有料又ハ營利ヲ目的トスル職業紹介

第二十四條 船員職業紹介法附則第三項ノ規定ニ該當スル者(以下單ニ營業者ト稱ス)其ノ業務ヲ繼續セントスルトキハ船員職業紹介法施行後二月内ニ紹介所ノ所在地ヲ管轄スル遞信局長ニ許可ヲ申請スヘシ遞信局長第一項ノ申請ニ基キ許可ヲ與フル場合ニ於テハ之ニ期間ヲ附スヘシ遞信局長ハ必要ト認ムルトキハ前項ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第二十五條 營業者ハ手数料ヲ定メ船員職業紹介法施行後遲滞ナク紹介所ノ所在地ヲ管轄スル遞信局長ニ認可ヲ申請スヘシ

第二十六條 營業者ハ求職者ニ手数料ノ半額ヲ超ユル額ヲ負擔セシムルコトヲ得ス

第三十條 有料又ハ營利ヲ目的トスル職業紹介ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外前章ノ規定ヲ準用ス

海事協同會規約

第一條 社團法人日本船主協會、社團法人海員協會及日本海員組合ハ帝國海運ノ健全ナル發達ニ資スルノ目的ヲ以テ海事協同會ヲ設立ス

第二條 本會ハ委員會ノ決議ヲ經テ前條ニ掲クル以外

【法例 拔萃】

ノ船主又ハ船員ノ團體ヲ本會ニ加盟セシムルコトヲ得

第三條 本會ハ左記事業ヲ行フ

- 一 船員ノ職業紹介
- 二 船員ノ待遇ニ關スル事項ノ協議決定
- 三 船主船員間ノ爭議ノ豫防及調停
- 四 船員ノ募集及寄宿所ノ經營
- 五 其他第一案ノ目的ヲ達成スル爲必要ナル事業

第四條 本會ハ本部ヲ神戸市ニ置ク必要アルトキハ委員會ノ決議ヲ經テ其他ノ地ニ支部ヲ設クルコトヲ得

第五條 本會ノ財源ハ會費、寄附金其他雜收入ヲ以テ之ニ充ツ

會費ハ船主團體及船員團體(以下双方團體ト稱ス)均等ニ之ヲ負擔ス

其ノ額ハ別ニ之ヲ定ム

第六條 本會ノ會長ハ双方團體員中ヨリ交互ニ之ヲ任ス

會長ハ會ヲ代表シ會務ヲ總轄ス

會長ハ各委員會ノ議長トナル會長事故アルトキハ其

【法例 沿革】

ノ屬スル團體ノ選出スルモノヲ臨時ニ議長ニ推ス  
 第七條 本會ニ委員會ヲ置キ會長ハ重要ナル會務ヲ審議決定スル爲毎月一回會議ヲ開クコトヲ要ス  
 特別ノ事由ニ依リ會長必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス臨時會議ヲ開クコトヲ得、委員四分ノ一以上ヨリ請求アリタルトキハ會長ハ臨時ニ會議ヲ開クコトヲ要ス  
 第八條 委員ハ双方團體員ヨリ各六名ヲ選任ス  
 委員事故ノ爲會議ニ出席スルコト能ハサルトキ又ハ第六條第三項ノ規定ニ依リ議長トナリタルトキハ其ノ委員ノ屬スル團體ヨリ代理者ヲ出スコトヲ得  
 第九條 委員會ノ議長ハ高級船員又ハ普通船員ノミニ關スル事項其他特種ノ事項ヲ審議セシムル爲小委員會ヲ設クルコトヲ得  
 第十條 委員會ハ双方團體ノ委員各半數以上出席スルニアラサレハ議事ヲ行フコトヲ得ス出席セル双方團體ノ委員各半數以上ノ多數ヲ得ルニアラサレハ決議ヲ爲スコトヲ得ス  
 議長ハ表決ニ加ラス

第十一條 議事ニ付可否決定セサルトキハ双方團體ノ協定ニ依リ選任シタル仲裁人ニ之ヲ附託スルモノトス  
 第十二條 双方團體ノ間又ハ船主團體員タル船主ト船員團體若クハ船員團體ニ屬スル船員トノ間ニ於ケル爭議ハ委員會ニ附議スルコトヲ要ス委員會ノ決議ノ成立又ハ不成立ニ至ル迄ハ船主ハ爭議ニ關係アル船員ノ雇止ヲ爲サス又船員團體ハ同盟罷業ヲ行ハス且爭議ニ關係アル船員ヲシテ怠業其ノ他故意ニ相手方ノ利益ヲ害スヘキ行動ニ出テシメサルヘシ  
 第十三條 會長ハ委員會ノ決議ヲ經テ双方團體ノ委員中ヨリ各一名ノ幹事ヲ指名シ會務ヲ處理セシム  
 會長ハ委員會ノ決議ヲ經テ書記其ノ他事務員ヲ任命シ會務ニ從事セシムルコトヲ得  
 第十四條 本會ニ會計監査員ヲ置キ本會ノ會計ヲ監査セシム  
 會計監査員ハ委員會ノ決議ヲ經テ双方團體ヨリ各一名ヲ選任ス  
 第十五條 本會ハ神戸ニ船員職業紹介所ヲ設ク必要アリ

ルトキハ委員會ノ決議ヲ經テ其ノ他ノ地ニ之ヲ設クルコトヲ得  
 會長ハ委員會ノ決議ヲ經テ船員職業紹介所ノ職員ヲ任免ス  
 第十六條 會長、委員、幹事及會計監査員ノ任期ハ各一年トシ決算委員會ニ於テ事務ノ引繼ヲナス但シ補欠ノ爲就任シタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス  
 第十七條 本會ノ事業年度ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス  
 會長ハ各期末ニ於テ事業報告書及收支計算書ヲ作製シ五月中ニ決算委員會ヲ召集シテ其ノ承認ヲ受ケヘシ  
 第十八條 本規約ハ委員全部ノ同意アルニ非サレハ之ヲ變更ヲナスコトヲ得ス  
 第十九條 本規約ノ實行ニ必要ナル細則ハ別ニ之ヲ定ム

水先法

第一條 水先人ハ水先免狀ヲ有スルコトヲ要ス（年齢滿二十三年以上滿六十年以下）

【法例 沿革】

第六條 水先人其ノ業務ニ従事スル爲水先船ニ乗込ミタルトキハ晝間ニ在リテハ水先旗ヲ掲揚シ夜間ニ在リテハ海上衝突豫防法第八條ノ規定ニ依ルヘシ  
 第七條 水先人ヲ要招セントスルトキハ船長ハ水先信號ヲ爲スヘシ  
 第十八條 主務大臣ハ水先區ヲ指定シテ水先人ノ員數ヲ制限シ水先人組合ヲ設ケシメ又ハ水先船ノ免狀及艤裝ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得  
 第二十一條 水先人ノ懲戒ニ關シ此ノ法律ニ規定ナキモノニ付テハ海員懲戒法ノ規定ヲ準用ス

水先法施行細則

第一條 水先人試験ニ合格シタル者ハ試験ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シ水先區ノ名稱、本籍地、出生ノ年月日及合格ノ年月日ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出シテ登録ヲ申請スヘシ  
 第六條 遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ナリト認ムルトキハ登録ヲ爲ス遞信省ハ左ノ場合ニ於テハ抹消ノ登録ヲ爲ス  
 一 抹消ノ登録ヲ申請スヘキ場合ニ於テ規定ノ期間

【法例拔萃】

- 内ニ之ヲ爲サ、ルトキ
  - 二 詐欺ノ所爲ヲ以テ水先免狀ヲ受ケタルコト發覺シタルトキ
  - 三 海員審判所ニ於テ水先免狀ヲ無効ト爲シタルトキ
  - 四 水先免狀ノ水先區カ新ニ授與スル水先免狀ノ水先區ニ包含セラル、ニ至リタルトキ
- 第十三條 水先區ヲ甲乙ノ二種ニ分ツ
- 甲種水先區ハ左ノ十區トス
- 一 東京灣水先區 安房國洲ノ崎ヨリ相模國城ケ島西端ヲ經テ諸磯崎ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
  - 二 隅田川水先區 武藏國品川舊第三砲臺ヨリ品川挂燈浮標ヲ經テ洲崎ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
  - 三 和泉灘水先區 紀伊國田倉崎ヨリ淡路國生石鼻ニ引キタル線及淡路國江崎ヨリ播磨國明石川口ノ西岸ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
  - 四 内海水先區 紀伊國田倉崎ヨリ淡路國生石鼻ニ引キタル線、淡路國潮崎ヨリ阿波國大磯崎ニ引キタル線、伊豫國佐田岬ヨリ高島ヲ經テ豊後國地蔵

- 崎ニ引キタル線及長門國網代崎ヨリ筑前國岩屋崎ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
  - 五 下關水先區 豊前國部崎ヨリ北東ニ引キタル線及筑前國岩屋崎ヨリ長門國網代崎ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
  - 六 長崎港水先區 肥前國福田崎ヨリ伊王島北端ニ引キタル線及同國沖ノ島南端ヨリ香焼島南端ヲ經テ深堀ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
  - 七 島原海灣水先區 肥前國國崎ヨリ肥後國鶴瀨崎ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
  - 八 函館港水先區 渡島國尾花岬ヨリ葛登支岬ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
  - 九 室蘭港水先區 膽振國エンルム崎ヨリ大黒島ヲ經テホテイシ崎ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
  - 十 小樽港水先區 後志國平磯岬ヨリカヤシバ岬ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
- 乙種水先區ハ左ノ一區トス
- 伏木港水先區 越中國伏木港燈臺ヲ中心トシテ一海里半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧ヲ以テ境界トス

第十四條 水先案内料ハ總噸數千噸又ハ千噸未滿ニシテ吃水十呎又ハ十呎未滿ノ船舶ニ付キテハ第一號表ニ定ムル所ニ依リ總噸數千噸若ハ千噸未滿又ハ吃水一呎若ハ一呎未滿ヲ増ス毎ニ同表ニ定ムル額ニ百分ノ六ヲ加フ

第十五條 前條ニ於テ吃水ト稱スルハ各水先區ニ付キ水先人水路ヲ嚮導スル爲メ船舶ニ乗込ミタルトキヨリ其嚮導ヲ終ルマテノ間ニ於テ船首又ハ船尾ノ有シタル最深ノ吃水ヲ謂フ

第三十九條 水先組合ハ當該水先區ノ水先人ヲ以テ組合員トス但二區以上ノ水先免狀ヲ有スル者ハ專屬水先區ノ組合員トス

第四十六條 水先人組合ニ組合長一名ヲ置クヘシ水先人組合ニ組合副長又ハ其他ノ役員ヲ置クコトヲ得

組合長其他組合ノ役員ハ組合員ノ選舉ニ依リ上任シ其任期ハ三年以内トス  
組合長組合副長ノ内一人ニ組合員以外ノ者ヲ選舉スルコトヲ得

【法例拔萃】

第六十條 水先人水先區ニ於テ左ノ事項アルコトヲ認メタルトキハ直ニ其狀況ヲ遞信省ニ報告スヘシ

- 一 航路、航路標識ニ異變アルコト
- 二 航路ノ妨害トナルヘキモノ存在スルコト
- 三 其他航行上危險ノ虞アル事實アルコト

第一號表

水先區	航路	汽船水先案内料
東京灣水先區境界線・橫濱錨地間	東京灣水先區境界線・隅田川水先區境界線間	壹圓
東京灣水先區境界線・隅田川錨地間	東京灣水先區境界線・隅田川錨地間	壹圓
東京灣水先區境界線・隅田川錨地間	東京灣水先區境界線・隅田川錨地間	壹圓
東京灣水先區境界線・隅田川錨地間	東京灣水先區境界線・隅田川錨地間	壹圓
東京灣水先區境界線・隅田川錨地間	東京灣水先區境界線・隅田川錨地間	壹圓
東京灣水先區境界線・隅田川錨地間	東京灣水先區境界線・隅田川錨地間	壹圓

【法例拔萃】

和泉灘・内海及下										
友ヶ島水道・神戸錨地間	友ヶ島水道・大阪錨地間	神戸錨地・大阪錨地間	神戸錨地・門司若ハ下關錨地間	神戸錨地・内海水先區西境界線間	神戸錨地・若松錨地間	門司、下關、若松錨地・下關水先區西境界線間	門司、下關錨地・若松錨地間	門司、下關錨地・下關水先區東境界線間	下關水先區東境界線・若松錨地間	
三	四	三	二	一	一	三	二	三	五	

關									
下關水先區西境界線・下關水先區東境界線間	豐後水道北口・下關水先區東境界線間	豐後水道北口・神戸錨地間	長崎港	島	原	海	灣	函館港	室蘭港
水先區境界線・港内錨地間	水先區境界線・口ノ津錨地間	水先區境界線・三角錨地間	水先區境界線・三池錨地間	水先區境界線・住ノ江錨地間	水先區境界線・港内錨地間	水先區境界線・港内錨地間	水先區境界線・港内錨地間	水先區境界線・港内錨地間	水先區境界線・港内錨地間
三	三	三	二	三	五	五	三	三	三

小樽港	水先區境界線・港内錨地間	三
伏木港	水先區境界線・港内錨地間	六

備考 帆船水先案内料ハ當該航路ニ於ケル汽船水先案内料ニ其ノ百分ノ八十ヲ加ヘタル額トス但シ機關ヲ有スル帆船ニ在リテ機關ヲ使用スルトキハ帆船水先案内料ノ範圍内ニ於テ船長ト協定スヘシ

海員懲戒法

第一條 海技免狀ヲ受有スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ事項ニ該當スルトキハ海員審判所ノ裁決ヲ以テ懲戒ヲ加フヘシ

一 正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶ヲ放棄シタルトキ

二 過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ自他ノ船舶ヲ問ハス之ニ損害ヲ加ヘ若ハ之ヲ沈没セシメタルトキ

三 過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ人ヲ殺傷シタル

【法例拔萃】

トキ

四 海難ニ罹リ其ノ船舶又ハ船客乗組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ

五 海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メ正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶又ハ船客乗組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ

六 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

七 亂酷粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

第二條 懲戒ハ左ノ三種トス

一 免狀行使ノ禁止

二 免狀行使ノ停止

三 譴責

第三條 前條懲戒ノ適用ハ所爲ノ輕重ニ從ヒ海員審判所ノヲ定ム

第四條 免狀行使ノ停止ハ一ヶ月以上三年以下トス

第七條 海員審判所ノ審判ニ關シ此法律ニ規定ナキモノニ付テハ刑事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

第八條 海員審判所ハ地方海員審判所及高等海員審判所ノ二トス



【法 例 抜 萃】

第三十九條 理事官及被審人ハ地方海員審判所ノ裁決ニ對シ高等海員審判所ニ控告スルコトヲ得

審判所管轄區域

名稱	位置	管轄區域
東京地方 海員審判所	東京市	東京府、神奈川縣、新潟縣、埼玉縣、群馬縣、千葉縣、茨城縣、栃木縣、三重縣、愛知縣、靜岡縣、山梨縣、岐阜縣、長野縣、宮城縣、福島縣、岩手縣、山形縣
大阪地方 海員審判所	大阪市	大阪府、京都府、兵庫縣、奈良縣、滋賀縣、福井縣、石川縣、富山縣、鳥取縣、島根縣、岡山縣、廣島縣、和歌山縣、德島縣、香川縣

船 燈

本法中船燈ニ關シテ見得トハ晴天ノ暗夜ニ於テ認メ得ルヲ謂フ

第一條 船燈ニ關スル規定ハ天氣ノ如何ニ關セス日没ヨリ日出マテ必ス遵守スヘシ此ノ時間中ハ本法ニ定メタル船燈ノ外之ニ紛レ易キ燈ヲ掲クヘカラス

第二條 汽船ハ航行中必ス左ノ燈ヲ掲クヘシ

- 一 前橋若クハ其前面ニ於テ又ハ前橋ヲ具ヘサルトキハ本船ノ前方ニ於テ船體上二十尺ヨリ低カラサル所ニ若シ船幅二十尺ヲ超ユルトキハ其ノ船幅ヨリ低カラサル所ニ亮明ノ白燈一箇ヲ掲クヘシ然レトモ船體上四十尺以上ノ所ニ掲クルヲ要セス此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鍼盤ノ二十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ左右舷外ヘ十點間ツ、即チ船ノ正首ヨリ各舷正横後ノ二點マテ及フヘキ様装置シ且少クモ五海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

二 右舷ニ綠燈ヲ掲クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鍼盤ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光

【法 例 抜 萃】

受媛縣、高知縣、

門司地方 海員審判所	門司市	山口縣、長崎縣、福岡縣、大分縣、佐賀縣、熊本縣、宮崎縣、鹿兒島縣、沖繩縣
函館地方 海員審判所	函館區	北海道、青森縣、秋田縣

海上衝突豫防法

本法ハ海洋ト海洋接續ノ場所トヲ問ハス凡ソ航洋船ノ運航シ得ヘキ水上ニ於ケル船舶ニ適用ス

本法中汽船ト雖モ帆ヲ以テ運轉シ汽力ヲ用ヒサルトキハ帆船ト看做シ汽力ヲ用フルトキハ帆ヲ用ウルト用ヒサルトノ別ナク汽船ト看做スヘシ

本法中汽船トハ凡ソ機關ノ作用ニ因テ運轉スル船舶ヲ謂フ

本法中船舶航行中トハ碇泊若ハ繫留又ハ坐礁、膠沙ニ非サル場合ヲ謂フ

ヲ船ノ正首ヨリ右舷正横後ノ二點マテ及フヘキ様装置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

- 三 左舷ニ紅燈ヲ掲クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鍼盤ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ左舷正横後ノ二點マテ及フヘキ様装置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

四 本條第二項第三項ノ舷燈ニハ其ノ燈ヨリ前ニ少クモ三尺突出シタル隔板ヲ其ノ燈ノ内側ニ裝置シ右舷ノ綠光ハ左舷ニ在ル船ヨリ、左舷ノ紅光ハ右舷ニ在ル船ヨリ見得サル様ニ爲スヘシ

五 汽船航行中ハ本條第一項ニ規定シタル白燈ノ外ニ同種ノ白燈一箇ヲ増掲スルヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ其兩燈ヲ龍骨線上前後ニ隔テ其ノ前燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ掲ケ其ノ前後ノ距離ハ上下ノ距離ヨリモ多キヲ要ス

第三條 汽船他船ヲ曳キテ航行スルトキハ兩舷燈ヲ掲クルノ外ニ白燈二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲

【法例拔萃】

スヘシ

第四條 事變ノ爲運轉自由ヲ得サル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ト同一ノ高さニ於テ最モ見易キ所ニ(汽船ナレハ其ノ白燈ノ代リニ)二箇ノ紅燈ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ此ノ紅燈ハ周圍少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニアリテハ最モ見易キ所ニ直徑二尺ノ黒球若ハ黒色ノ形象二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ

第十條 他船ニ追越サレントスル船舶ハ他船ニ向ケ船尾ヨリ白燈ヲ表示シ又ハ閃火ヲ發スヘシ

第十一條 長サ百五十尺以上ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體上二十尺以上四十尺以下ノ所ニ前項ノ白燈一箇ヲ掲ケ且船尾若ハ其最寄ニ於テ前方ノ燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ同種ノ白燈一箇ヲ掲ケヘシ

第十二條 汽船他船ノ注意ヲ喚起スル爲必要ナリトスルトキハ本法ニ規定シタル船燈ノ外尙閃火ヲ發シ又ハ難船信號ト混同セサル爆裂信號ヲ發スルヲ得

法ニ遵テ運轉シ能ハサル船舶ハ本條第一項及第三項ニ規定シタル信號ノ代リニ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ三聲ヲ連發シ即チ長聲ヲ一發シタル後直ニ短聲ヲ二發スヘシ又他船ニ引カレテ運航スル船舶モ此ノ信號ヲ爲スニハ妨ナシト雖モ他ノ信號ヲ爲スヘカラス

航 方

第十八條 二艘ノ汽船正シク眞向又ハ幾ント眞向ニ行逢フテ衝突ノ虞アルトキハ兩船トモ鐵路ヲ右舷ニ轉シ互ニ他船ノ左舷ノ方ヲ行過スヘシ

本條ハ兩船正シク眞向又ハ幾ント眞向ニ行逢フテ衝突ノ虞アルトキニ限り適用スヘシ兩船各々其ノ鐵路ヲ保チテ互ニ替リ行クトキニハ適用スヘカラス

本條ヲ適用スヘキ場合ハ兩船トモ正シク眞向又ハ幾ント眞向ニ行逢ヒタルトキ即チ晝間ニアリテハ我船ノ檣ト他船ノ檣ト一直線又ハ幾ント一直線ニ見ユルトキ夜間ニアリテハ互ニ他船ノ兩舷燈ヲ見ルトキニ限ルヘシ

【法例拔萃】

本條ハ晝間他船ノ我鐵路ヲ横切りテ我船ノ前面ニ見

霧中信號

第十五條 航行中ノ船舶ニ關シ本條ニ規定シタル信號ヲ爲スニハ左ノ信號器ヲ用ウヘシ  
霧中降雪其他暴雨中ハ晝夜ノ別ナク左ノ各項ニ規定シタル信號ヲ爲スヘシ

一 汽船航行中ハ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲ヲ一發スヘシ

二 汽船航行中運轉ヲ止メテ速力ヲ有タサルトキハ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲ヲ二發スヘシ但シ其ノ二發ノ間隙ハ大約一秒時タルヲ要ス  
三 帆船航行中ハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ右舷開ナレハ一聲ヲ發シ左舷開ナレハ二聲ヲ連發シ船ノ正横後ニ風ヲ受ケタルトキハ三聲ヲ連發スヘシ

四 船舶碇泊中ハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ大約五秒時間劇シク號鐘ヲ鳴ラスヘシ

五 他船ヲ引キテ運航スル船舶、海底電線ノ布設若ハ引揚ニ從事スル船舶及航行中運轉自由ヲ得スシテ近寄り來ル他船ノ航路ヲ避ケ能ハサルカ又ハ本

ユルトキ又ハ夜間我船ノ紅燈他船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠燈他船ノ綠燈ニ對スルトキ又ハ我船ノ前面ニ綠燈ヲ見スシテ紅燈ヲ見或ハ紅燈ヲ見スシテ綠燈ヲ見ルトキ又ハ綠紅ノ兩燈ヲ我船ノ前面ヨリ他ノ位置ニ見ルトキハ適用スヘカラス

第十九條 二艘ノ汽船互ニ航路ヲ横切り衝突ノ虞アルトキハ他船ヲ右舷ニ見ル船ヨリ他船ノ航路ヲ避ケヘシ

第二十三條 本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避ケヘキ汽船ハ他船ニ近寄りタルトキ時宜ニ應シテ速力ヲ緩メ若ハ運轉ヲ止メ又ハ後退スヘシ

第二十五條 汽船狹隘ノ水道ニ於テ無難ニ通航シ得ルトキハ其ノ中流ノ右側即チ本船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行スヘシ

航路信號

第二十八條 航行中ノ汽船他船ニ近寄り鐵路ヲ變セントスルトキ汽笛若ハ汽角ヲ以テ左ノ信號ヲ爲シ他船ニ我船ノ鐵路ヲ通知スヘシ  
短聲一發 我船鐵路ヲ右舷ニ取ル

【法例拔萃】

短聲二發 我船鐵路ヲ左舷ニ取ル  
短聲三發 我船全速力ニテ後退ス

特例

第三十條 本法ハ行政官廳ニ於テ規定シタル港、川其  
他内海ノ運航ニ關スル特別規則ノ施行ヲ妨ケス

難船信號

第三十一條 危難ニ罹リテ他船又ハ陸地ヨリ救助ヲ要  
スル船舶ハ左ノ信號ヲ同時又ハ別々ニ使用スヘシ

書間信號

一 大約一分時ノ間隙ヲ以テ砲又ハ其他ノ爆裂發火  
信號ヲ一發ス

二 萬國船舶信號書ニ掲載スルNCノ難船信號ヲ表  
示ス

三 方形旗ノ上又ハ下ニ球若ハ之ニ類似ノモノヲ掲  
クル遠隔信號ヲ表示ス

四 霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

夜間信號

一 大約一分時ノ間隙ヲ以テ砲又ハ爆裂發火信號ヲ

一發ス

二 船上ノ發焰(タール桶、油樽等ノ燃燒)

三 星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭ヲ一時一發ツ、度々  
打揚ク

四 霧中信號器ヲ以テ間隙ナク音響ヲ發ス  
本法ハ臺灣、樺太、關東州、朝鮮ニモ施行ス

船舶通報規則

第一條 船舶通報ヲ別チ左ノ二種トス

一、通過報

二、信號報

第二條 通過報トハ特ニ指定スル燈臺ノ沿海ヲ通過ス  
ル船舶ニ關シ和文電報ヲ以テ請求者ニ左ノ事項ヲ通  
知スルモノトス

一、船名

二、通過時分

第三條 信號報トハ船舶所有者又ハ其代理人ト船長ト  
ノ間ニ於ケル通信ニシテ特ニ指定スル燈臺ニ於テ其  
沿海ヲ通過スル船舶ト信號ニ依リ送受スルモノヲ謂  
フ

第四條 通過報ノ取扱ヲ望ム者ハ左ノ事項ヲ記載シタ  
ル請求書ヲ其電報ヲ配達スヘキ電信所ニ差出スヘシ

一、船名(必要ナルトキハ信號符字又ハ航路名ヲ  
添記スヘシ)

二、國籍

三、船舶所有者名

四、燈臺名

五、請求者ノ住所氏名

臨時ニ通報ノ取扱ヲ望ム者ハ前項各號ノ事項ノ外  
尙豫定通過日時ヲ記載スヘシ

船舶通報事務取扱燈臺

- 犬吠崎 下總國犬吠崎
- 稚内 北見國野寒岬
- 釧崎 東京海灣釧崎
- 金華山 陸前國金華山ノ南東端
- 尻矢崎 津輕海峽ノ東口
- 神崎 對馬國南端
- 六連島 下關海峽西口六連島(夜間ハ取扱ハス)
- 佐多岬 大隅國南端小岩島

【法例拔萃】

大角鼻 讚岐國小豆島ノ南東端大角鼻

絶影島 朝鮮絶影島(夜間ハ取扱ハス)

神威岬 後志國神威岬(夜間ハ取扱ハス)

小青島 朝鮮黃海道大靑群島(夜間ハ取扱ハス)

潮岬 紀伊國潮岬

大瀨崎 五島列島福江島ノ南西端

日ノ御崎 紀伊水道東側日ノ御崎

西能登呂岬 樺太西能登呂岬

鷺鑾鼻 臺灣南端(夜間ハ取扱ハス)

神島 志摩國伊良湖水道神島ノ北東端(夜間ハ取扱ハス)

港門島 朝鮮全羅南道所安群島  
(夜間ハ取扱ハス)

信號所設置場所

遞信省告示ニ基キ船舶通航並ニ潮流ノ信號所ノ設置場  
所ハ左ノ如シ

- | 設置場所   | 信號ノ種類     |
|--------|-----------|
| 下關海峽部崎 | 船舶通航及潮流信號 |
| 臺場鼻    | 同         |

【法例 拔萃】

火ノ山下	船舶通過信號
赤阪	同
來島海峽中渡島	潮流信號
内海三原瀬戸大濱崎	船舶通航及潮流信號
高根島	同

開港港則

第一條 左ニ記載スル外國通商ヲ許シタル諸港ノ境界ハ左ノ如ク定ム(港ノ境界詳細ハ省略)

神戸、横濱、新潟、夷港、大阪、長崎、函館、清水、武豐、名古屋、四日市、糸崎、徳山、今治、下關、門司、若松、博多、唐津、住ノ江、口ノ津、三池、三角、鹿兒島、嚴原、佐須奈、鹿見、那覇、濱田、境、宮津、敦賀、七尾、伏木、青森、小樽、根室、釧路、室蘭、大泊、真岡

第二條 各船舶ハ入港スルニ當リ其國旗及信號符字ヲ掲クヘシ定期郵便船ハ會社旗ヲ以テ信號符字ニ代用スルコトヲ得

右國旗及信號符字又ハ會社旗ハ船舶ノ著港ヲ港長ニ

届出タル後ニアラサレハ之ヲ引下スヘカラス

著港届ハ日曜及大祭日ヲ除ク外二十四時間内ニ之ヲ差出スヘシ但著港届ヲ差出シタル後ニアラサレハ如何ナル船舶タリトモ税關手續ヲ與ヘサルモノトス

第三條 各船長ハ其著港ニ際シ自由交通ノ許可ヲ受ケルマテハ其船舶ト他ノ船舶或ハ陸地トノ間ニ於ケル一切ノ交通ヲ差止ムヘシ

第十一條 船舶カ港界内ニ於テ火ヲ失シタルトキハ救援ノ來ルマテ船鐘ヲ打鳴スヘシ且日出ト日没ノ間ニハNMノ信號ヲ掲ケ日没ト日出ノ間ニハ斷ニス紅燈ヲ上下スヘシ

警察官ノ救援ヲ要スルトキハ日出ト日没ノ間ニハCノ信號ヲ掲ケ日没ト日出ノ間ニハ藍火若ハ閃火ヲ示スヘシ

海商法

商法第五編 拔萃

船舶及ヒ船舶所有者

第五百三十八條 本法ニ於テ船舶トハ商行爲ヲ爲ス目

的ヲ以テ航海ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

本編ノ規定ハ端舟其他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス

第五百四十條 船舶所有者ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶ニハ之ヲ適用セス

第五百四十三條 差押又ハ假差押ハ發航ノ準備ヲ終リタル船舶ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ得ス但其船舶カ發航ヲ爲ス爲ニ生シタル債務ニ付テハ此限りニ在ラス

第五百五十七條 船舶ノ賃借人カ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テ其船舶ヲ航海ノ用ニ供シタルトキハ其利用ニ關スル事項ニ付テハ第三者ニ對シテ船舶所有者ト同一ノ權利義務ヲ有ス

船長

第五百五十八條 船長ハ其職務ヲ行フニ付注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非ラサレハ船舶所有者、備船者、荷送人其他ノ利害關係人ニ對シテ損害賠償ノ

【法例 拔萃】

責ヲ免ル、コトヲ得ス

第五百六十四條 船長ハ航海ノ準備ヲ終リタルトキハ運轉ナク發航ヲ爲シ且必要アル場合ヲ除ク外豫定ノ航路ヲ變更セスシテ到達港マテ航行スルコトヲ要ス

第五百六十六條 船籍港外ニ於テハ船長ハ航海ノ爲ニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

船籍港ニ於テハ船長ハ特ニ委任ヲ受ケタル場合ヲ除ク外海員ノ雇入及ヒ雇止ヲ爲ス權限ノミヲ有ス

海員

第五百七十六條 海員ハ其雇入ノ手續カ終リタルトキハ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込ムコトヲ要ス

海員ハ船長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其乗込ミタル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第五百七十七條 海員ノ服役中ノ食料ハ船舶所有者ノ負擔トス

第五百八十一條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ雇止ムルコトヲ得

【法 例 拔 萃】

- 一 發航前海員カ其職務ニ不適任ナルコトヲ認メタルトキ
- 二 海員カ著シク其職務ヲ怠リ又ハ其職務ニ關シ之ニ重大ナル過失アリタルトキ
- 三 海員カ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 四 海員カ疾病ニ罹リ又傷痍ヲ受ケ其職務ニ堪エサルニ至リタルトキ
- 五 不可抗力ニ因リ發航ヲ爲シ又ハ航海ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキ前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得
- 第一項第四號及ヒ第五號ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得但第四號ノ場合ニ於テ海員ニ過失アルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス
- 第五百八十五條 海員ノ雇入期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ海員ヲ雇入タルトキハ其期間ハ之ヲ一年ニ短縮ス

船舶無線電信施設法

- 第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル日本船舶ハ無線電信ノ施設ナクシテ遠洋航路又ハ近海航路ニ於テ之ヲ航行セシムルコトヲ得ス但シ航海ノ目的其他ノ事情ニ依リ已ムコトヲ得スト認メラル、トキハ主務大臣ハ期間ヲ指定シ其ノ施設ナクシテ之ヲ航行ノ用ニ供セシムルコトヲ得
- 一 總噸數二千噸以上ノ船舶
  - 二 五十人以上ノ人員ヲ搭載スル船舶
- 前項第二號ノ人員ハ旅客ニ付テハ旅客定員ニ依リ之ヲ算定ス
- 傷病船員ノ補充、海難救助其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ臨時ニ搭載シタル人員ハ之ヲ第一項第二號ノ人員中ニ算入セス
- 第二條 當該官吏ハ無線電信施設ノ検査ヲ行フ爲必要アルトキハ何時ニテモ船舶ニ臨檢シ又ハ其ノ航行ノ停止ヲ命スルコトヲ得
- 第六條 本法ハ日本船舶ニ非ラサル船舶ニシテ本法施行地内ノ港ニ出入スルモノニ之ヲ準用ス

貿易及荷動

重 要 品 輸 入 出 番 附

入 輸		昭 和 三 年		出 輸	
同	同	同	同	同	同
砂	小豆	油	前頭機	小結	關脇
糖	麥	類	類	類	類
齒	六、七、五	六、八、三	八、六、七	九、三、〇	二、〇、八、四
同	同	同	同	同	同
植物纖維	生	石	毛	毛	自
維	ム	織	織	織	織
二、七、八	二、七、八	三、〇、六	三、〇、六	三、〇、六	三、〇、六
同	同	同	同	同	同
亞	パ	燐	曹	鐵	採
鉛	ル	石	達	礦	油
一、〇、九	一、〇、九	一、〇、九	一、〇、九	一、〇、九	一、〇、九
同	同	同	同	同	同
檢	鳥	牛	綿	革	錫
查	肉	織	類	類	類
役	卵	生	物	類	類
同	同	同	同	同	同
帆	汽	世	其	南	亞
船	船	話	他	米	細
一、二、千	一、二、千	一、二、千	一、二、千	一、二、千	一、二、千
噸	噸	噸	噸	噸	噸

【貿易及荷動】

貿 易

引 索

重要品輸出入番附.....	二五	世界砂糖主要產地別.....	二七
輸出重要品累年比較.....	二六	世界砂糖消費內容.....	二八
對外國別貿易表.....	二七	世界棉花消費額.....	二九
輸出入貿易船國別表.....	二九	本邦鹽需要高.....	二九
五港入港船舶.....	三三	世界小麥荷動狀況.....	三〇
主要港貿易順位比較.....	三三	米輪移出入高.....	三〇
日英米外國貿易月表.....	三三	北洋材積取高.....	三一
海運關係國際收支.....	三四	內國炭移送地方別表.....	三一
各國貿易外收支.....	三五	撫順炭輸入地方別表.....	三一
世界主要農產物產出高.....	二六	大連浦鹽內地向豆粕輸出高.....	三一

【貿易及荷動】

輸出入重要品累年比較

(單位千圓)

品名	輸			入		
	昭和元年	昭和二年	昭和三年	昭和元年	昭和二年	昭和三年
生絲	七三〇、五三二	七四三、四四四	七三三、六九七	七五、九三〇	六四、五九六	五四九、九三八
綿織物	七〇、七六六	六、七九四	二五、八九二	二二、一五六	一〇六、八五五	二〇〇、三九三
莫大小製品	四一六、二五四	三三、八四九	三五三、二二七	八六、〇四四	一〇一、六七	一一、八五七
石炭	二六、〇〇八	二五、〇九三	二七、三六八	九〇、六八六	七、三八一	九、二〇六
精糖	三、〇三三	二五、五〇七	二四、五二二	八三、六七三	七五、七九九	六四、九五六
製茶	三、〇三三	二八、九二〇	二六、四一五	六一、三九二	五三、九〇七	六三、八三〇
陶磁器	一三、三三〇	一〇、八九七	一、八四八	五〇、六九四	六、九七八	三、六七三
木器	三三、一八二	三〇、四九五	三三、六三七	二九、三三四	三三、六七三	三、一三三
木屑	一七、九七九	一五、九五二	一七、九六三	九三、三六六	五三、九三五	六七、七五五
絹織物	一六、三〇四	二二、八六八	一三、五八八	一〇四、〇二六	一〇三、七五八	一〇三、七五八
水産物	一三、〇七〇	一三、九六五	一四、〇五八	三、四八四	四三、五五五	三三、一〇五
罐詰食物	二四、三三六	三三、一九七	一七、三七五	二七、八三二	三五、四九二	三六、四九二
豆類	一五、九七六	一九、八五〇	二二、〇三〇	四〇、〇一九	九八、八八二	八六、八二七
紙類	一〇、九四一	一〇、三三七	一〇、四〇一	四四、〇一九	三三、七〇七	二七、八九三
硝子及製品	一四、三〇八	一六、六六〇	一三、九四三	四四、九六一	一八、三九一	三三、三〇四
小麥粉	一〇、〇六三	一四、三五八	二四、七二七	一五、七三二	一八、八五三	二二、八二一
鐵製器具	一〇、〇〇一	一〇、五二〇	一〇、九八八	二四、四八五	二五、六五〇	二〇、九七七
機械類	九、二二九	一一、三二一	一〇、六〇五	二四、九三〇	二〇、九七五	二五、二四三

對外國別貿易表

(單位千圓)

國別	大正十三年		同十四年		昭和元年		昭和二年		昭和三年	
	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入
(亞細亞洲)	三六、三九八	二七、五五一	四六、八四八	二四、六五七	四三、八六一	二九、四一〇	三三、一八三	三六、〇三四	三七、一四一	二四、四五七
支那	七、三〇一	一七、七三六	一〇、一六三	一七、五九五	九、九六六	一五、八〇三	九、二七〇	一三、四四七	二〇、一九〇	一五、〇四九
關東州	七、九〇〇	一、〇九九	七、三六三	四、七五	五、九七三	一、四四六	六、六五八	一、五九八	五、六二四	一、二二三
香港	一五、三三三	三、八七九	一七、四一三	五、三、五三	一五、九五一	三、九一三	一六、七五〇	二七、〇五九	一四、〇〇六	二、八五〇
英領印度	三三、七四二	三、三三九	四四、九〇四	三、七〇四	四一、四九七	三、九八七	三、六六七	三、五九二	二〇、四四九	三、七〇四
海峽殖民地	五、三三一	九、二四〇	八、五五五	一〇、三三二	七、七五四	一〇、三〇七	八、二、五八一	一〇、三、七七五	七、三、四一四	二、〇、三三八
佛領印度	二、四二八	一七、九九〇	四、〇三七	四、八、七九	六、二、〇六	二、四、五九	七、七、七六	三、三、七九	四、一、二二	二、〇、三五五
佛領亞細亞	三、五、五二	一、五、八四	三、一、二二	一、四、六七八	五、二、九九	二、三、八三八	三、八、三四	二、四、五、五六	二、一、九七	二、一、九七
露領亞細亞	三、三、五七	一、七、八四	二、九、三五	一、六、七〇〇	二、七、八二	一、八、七、四	三、一、三四	一、七、八、四一	二、九、〇、五四	一、六、三、二
比律賓諸島	四、一、八一	一、八、四八	七、八、二〇	三、三、七三四	九、二、七〇	一、四、三、五四	一、一、四、四六	三、三、二、六〇	二、三、二、六〇	五、七、六三
暹羅	五、九、三三	三、八、八三	八、七、三三	四、三、三三	八、一、七三	四、一、四八	八、一、〇一	四、七、八一	五、三、九九	四、四、三八
其他諸國	七、七、〇六〇	九、八、六、三二	一、〇〇、五、六〇	二、三、八、二六	九、三、四、一五	一〇、一、七、五八一	八、四、五、三四	八、七、九、二〇	八、四、九、三四	九、三、一、四四
合計	六、〇、四四	三三、七、五一	五、九、七、二六	三、七、二、九二	五、九、四、九三	一、七、〇、二、七四	六、四、九、九	一、五、三、二七	五、八、九、〇四	一、六、四、八、四〇
(歐羅巴洲)	八、五、七、九	三、三、七、一	五、八、八、五四	三、三、七、七	四、三、四、一	二、四、五、五五	五、四、〇、四、五	二、七、三、二一	六、三、四、〇八	二、四、〇、〇六
英吉利	八、五、七、九	三、三、七、一	五、八、八、五四	三、三、七、七	四、三、四、一	二、四、五、五五	五、四、〇、四、五	二、七、三、二一	六、三、四、〇八	二、四、〇、〇六
佛蘭西	八、五、七、九	三、三、七、一	五、八、八、五四	三、三、七、七	四、三、四、一	二、四、五、五五	五、四、〇、四、五	二、七、三、二一	六、三、四、〇八	二、四、〇、〇六
獨逸	三、四、五、四	一、四、六、四三	二、一、八、四四	一、三、三、八、九	八、一、三、三	一、四、五、三〇	一、〇、六、三二	一、三、三、九〇	一、三、三、九〇	一、三、三、五三
白耳義	三、四、五、四	二、九、三、八四	一、一、八、二八	一、一、九、三、九	一、一、六、八	一、四、四、四〇	二、二、〇、五	一、四、三、三八	一、八、六、九	一、四、四、九七
伊太利	六、三、三、九	四、四、二〇	八、二、〇、一	三、三、八、八	五、二、五、一	六、七、四、六	三、八、六、五	六、三、三、七	六、一、九、〇	九、三、三、四
瑞西	一、六、一	二、三、〇、七	三、五、六	二、〇、七、五	四、九、五	二、二、八、九	一、四、一、六	一、八、〇、九三	一、二、七、九	一、九、六、四〇

【貿易及荷動】







【貿易及荷動】

主要港貿易順位比較

(昭和二年度貿易)

港名	輸出		輸入	
	順位	噸數	順位	噸數
神戶	1	2,890,006	2	3,395,500
大阪	2	2,761,167	3	1,766,670
横濱	3	2,090,935	5	1,490,902
東京	4	1,666,270	1	1,779,000
門司	5	1,551,733	25	1,175,000
函館	6	1,540,197	1	2,500,000
下關	7	1,433,655	9	1,509,970
名古屋	8	1,292,800	4	1,565,655
小樽	9	1,260,033	8	1,690,000
基隆	10	1,253,633	7	7,663,000
釜山	11	1,241,779	6	3,504,000
若松	12	1,178,602	12	2,640,000
高雄	13	1,161,955	16	1,033,000
青森	14	1,144,400	30	1,120,000
仁川	15	1,133,041	10	4,575,000
室蘭	16	1,123,443	30	4,575,000
尾道	17	1,123,055	17	2,608,000
長崎	18	1,067,700	40	1,847,000

日英米外國貿易月表

昭和三年

日	日本		英國		米	
	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入
1	1,443,355	1,916,966	70,050	1,003,399	401,555	337,621
2	1,601,576	1,961,266	68,611	988,848	371,566	351,151
3	1,691,289	1,961,266	66,335	1,005,510	400,711	380,271
4	1,591,773	1,880,533	66,335	996,796	364,136	336,126
5	1,641,733	1,976,633	70,375	999,422	412,935	354,725
6	1,441,500	1,738,804	70,933	999,369	412,935	377,249
7	1,611,069	1,738,804	69,338	955,468	378,933	377,804
8	1,891,028	1,566,021	70,933	977,701	379,872	339,733
9	1,711,369	1,566,021	63,476	877,682	412,748	339,733
10	1,791,699	1,701,401	73,211	1,023,655	550,866	355,004
11	1,511,404	1,656,367	74,600	1,068,556	550,866	337,000
12	1,731,870	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
13	1,511,404	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
14	1,611,069	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
15	1,891,028	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
16	1,711,369	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
17	1,511,404	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
18	1,611,069	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
19	1,891,028	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
20	1,711,369	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
21	1,511,404	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
22	1,611,069	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
23	1,891,028	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
24	1,711,369	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
25	1,511,404	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
26	1,611,069	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
27	1,891,028	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
28	1,711,369	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
29	1,511,404	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
30	1,611,069	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
31	1,891,028	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000

【貿易及荷動】

昭和四年  
一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月 十二月

日	日本		英國		米	
	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入
1	1,443,355	1,916,966	70,050	1,003,399	401,555	337,621
2	1,601,576	1,961,266	68,611	988,848	371,566	351,151
3	1,691,289	1,961,266	66,335	1,005,510	400,711	380,271
4	1,591,773	1,880,533	66,335	996,796	364,136	336,126
5	1,641,733	1,976,633	70,375	999,422	412,935	354,725
6	1,441,500	1,738,804	70,933	999,369	412,935	377,249
7	1,611,069	1,566,021	69,338	877,682	412,748	339,733
8	1,891,028	1,566,021	70,933	977,701	379,872	339,733
9	1,711,369	1,566,021	63,476	877,682	412,748	339,733
10	1,791,699	1,701,401	73,211	1,023,655	550,866	355,004
11	1,511,404	1,656,367	74,600	1,068,556	550,866	337,000
12	1,731,870	1,656,367	74,600	1,068,556	550,866	337,000
13	1,511,404	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
14	1,611,069	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
15	1,891,028	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
16	1,711,369	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
17	1,511,404	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
18	1,611,069	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
19	1,891,028	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
20	1,711,369	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
21	1,511,404	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
22	1,611,069	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
23	1,891,028	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
24	1,711,369	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
25	1,511,404	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
26	1,611,069	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
27	1,891,028	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
28	1,711,369	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
29	1,511,404	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
30	1,611,069	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000
31	1,891,028	1,738,804	74,600	1,068,556	550,866	337,000



【貿易及荷動】

荷動

世界主要農産物産出高

(一九二六年)

産地	小麥 (千キントナル)	大麥 (千キントナル)	ライ麥 (千キントナル)	燕麥 (千キントナル)	玉蜀黍 (千アツセル)
歐羅巴洲計	三八七、五二六	二六、四六四	一六五、四六六	二七、三三六	
佛蘭西	七六、五五五	一〇、四六一	一〇、三二一	四、三三八	
伊太利	四六、三〇六	一、八九一	一、五五三	四、八八三	
西班牙	三三、一四二	一八、二三三	六、六七五	四、三七九	
獨逸	二四、二七六	三三、九九九	五七、二九八	五、五四〇	
羅馬尼亞	一九、一六五	六、六九七	一、五四四	六、〇九八	
塞耳比亞	一五、七三三	二、九三四	一、四〇七	三、〇一八	
英吉利	一四、三八九	二、九三三	三、二二	二、〇七五	
洪甸	一四、〇三四	三、二〇三	五、六四四	二、二八〇	
波蘭	二、三三八	一、〇五一	三、五八八	二、四一九	
其他	一四、一六〇	三六、六三三	四、二八五	六、五八六	
北亞米利加洲計	三一、六五七	六、一〇七	一九、六〇八	二、八六四	
合衆國	二七、五〇六	四、〇九四	一六、二一五	二、三、八〇六	
加奈陀	七、一三三	一九、三三五	三、四九二	六、二一〇	
亞細亞洲計	一一、八九二	五七、一七三		一、九三三	
英領印度	九、〇三四	二九、八四一			
日本	九、七二四	二四、三九六		一、八六三	

亞弗利加洲計  
南亞米利加洲計  
大洋洲計  
總計

二、三、〇〇四  
六、一、八七五  
四、五、二六六  
九、二、五二三

一八、六三三  
二、四八四  
二、六五、五八〇

三  
三八〇  
一八五、四九

一、七〇六  
八、七二四  
八、八四  
五、三、九二二

|||

世界砂糖主要産地別

(甘蔗糖)

(單位千噸)

産地	年次一八九	一九一〇	二〇一三	二一三三	二二一四	二四一三五	二五二六	二六二七	二七二八
玖馬	三、六〇〇	四、三〇〇	四、〇〇〇	四、二九〇	四、〇六六	四、七三四	四、八八四	四、五〇八	四、〇〇〇
印馬	二、九五〇	二、八〇〇	三、三三一	三、〇〇〇	三、三六六	二、四六六	二、九七七	三、二〇八	三、二〇〇
瓜哇	一、六九六	一、三三五	一、五二五	一、五八八	一、七七一	一、九七六	二、二七八	一、九五九	二、三五六
テキサス	四二〇	四二六	四一九	四〇〇			七〇五	七四	五三二
ホルトリコ	一三〇	二五〇	二三五	二〇〇	二四九	二四〇	三九五	四七五	三七五
アルゼンチン	二四四	一一六	一九六	二〇〇			二四	四二	五五
ルイシアン	二二六	二七五	二五八	三〇〇	二八一	二四七	五三七	四一五	四八五
モーリシャス	二五二	二四三	二五七	二九〇	二八二	二四二	二四一	一九二	二二五
比律賓	二二〇	二二五	二〇〇	二九〇	三三三	四六二	四三六	五八四	六〇〇
臺灣及日本	三、七五	三、五五	三、五〇	四、〇五	四、四八	四、六〇	六、一六	四、九	六、〇〇
伯刺西	三〇三	一、七五	三〇〇	三、四〇	四、二五	四、五〇	六、七六	八、五〇	六、〇〇
秘露	二五〇	二五〇	三、五〇	三、四〇	三、三六	三、〇〇	二、八二	二、七五	二、九〇
其他	一、〇五	一、〇五六	一、〇三三	一、〇五九	二、四三三	二、五〇三	八、六五	七、五	七、六
合計	二、三、〇三	二、三、〇五	二、三、五八〇	二、三、九六三	二、三、七三三	二、四、三三二	二、四、二九三	二、五、九〇〇	二、五、七八

貿易及荷動

貿易及荷動

(甜菜糖)

獨逸	一、六〇三	一、五七〇	一、四一一	一、〇〇〇	一、三〇〇	一、六〇三	一、五〇〇	一、五九五	一、六五七	一、七〇〇
(獨逸及チエツク)	九四	六六八	七〇〇	七五	七五	八九	八九	一、七四七	一、二九五	一、五五
(露國及ウクライナ)	一、一五八	一、〇三八	七〇〇	三五〇	三五〇	八九	八九	一、六二六	一、四一一	二、〇〇〇
佛蘭西	一八一	二〇〇	一〇九	一六五	二七五	三五	五二	一、六一六	一、四一一	二、〇〇〇
和蘭	二六九	一九九	一六四	二五〇	二七〇	三五	五二	一、六一六	一、四一一	二、〇〇〇
白耳義	一三〇	七五	二五	三〇〇	三〇〇	三五	五二	一、六一六	一、四一一	二、〇〇〇
合衆國	七四	六八二	六七四	八〇〇	七五	八五	七九	一、六一六	一、四一一	二、〇〇〇
其他	五、六〇〇	五、九六四	四、三九四	四、〇八四	四、六三四	五、三七五	五、四二七	八、二九〇	七、六八九	九、〇四八
合計	五、六〇〇	五、九六四	四、三九四	四、〇八四	四、六三四	五、三七五	五、四二七	八、二九〇	七、六八九	九、〇四八

世界砂糖消費内容

(單位千噸)

合衆國	二五、二六	二六、二七	二七、二八	一八九	一八五	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
加奈陀	六、一四〇	六、〇〇〇	六、三〇〇	一五〇	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇
北米	七、〇八一	六、九四〇	七、二七二	三三五	三九三	三九三	三九三	三九三	三九三
南米	一、三六〇	一、四〇九	一、四四三	一八〇	二二八	二二八	二二八	二二八	二二八
歐洲	一、五〇	一、五八	一、五〇	一五〇	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇
其他	一、五〇	一、五八	一、五〇	一五〇	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇
合計	一、五〇	一、五八	一、五〇	一五〇	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇

世界棉花消費額 (一九二七—二八年度)

(單位千俵)

歐洲	七、三三八	九〇三	七、三三八	九〇三	七、三三八	九〇三	七、三三八	九〇三	七、三三八	九〇三
英國	二、一六四	二、一六四	二、一六四	二、一六四	二、一六四	二、一六四	二、一六四	二、一六四	二、一六四	二、一六四
佛蘭西	一、三三六	一、三三六	一、三三六	一、三三六	一、三三六	一、三三六	一、三三六	一、三三六	一、三三六	一、三三六
獨逸	八三	八三	八三	八三	八三	八三	八三	八三	八三	八三
印度	四〇七	二、〇二八	四〇七	二、〇二八	四〇七	二、〇二八	四〇七	二、〇二八	四〇七	二、〇二八
日本	一、一九一	一、三九二	一、一九一	一、三九二	一、一九一	一、三九二	一、一九一	一、三九二	一、一九一	一、三九二
支那	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
亞米利加	七、〇二二	三〇	七、〇二二	三〇	七、〇二二	三〇	七、〇二二	三〇	七、〇二二	三〇
亞細亞	一、〇七	一、〇七	一、〇七	一、〇七	一、〇七	一、〇七	一、〇七	一、〇七	一、〇七	一、〇七
內陸	一、二四、一五	一、二四、一五	一、二四、一五	一、二四、一五	一、二四、一五	一、二四、一五	一、二四、一五	一、二四、一五	一、二四、一五	一、二四、一五
臺灣	一、三、八三	一、三、八三	一、三、八三	一、三、八三	一、三、八三	一、三、八三	一、三、八三	一、三、八三	一、三、八三	一、三、八三
關東	一、七〇、二九	一、七〇、二九	一、七〇、二九	一、七〇、二九	一、七〇、二九	一、七〇、二九	一、七〇、二九	一、七〇、二九	一、七〇、二九	一、七〇、二九
埃及	四、七、七	四、七、七	四、七、七	四、七、七	四、七、七	四、七、七	四、七、七	四、七、七	四、七、七	四、七、七
西班牙	三、三、八	三、三、八	三、三、八	三、三、八	三、三、八	三、三、八	三、三、八	三、三、八	三、三、八	三、三、八
合計	一、四七、一八〇	一、四七、一八〇	一、四七、一八〇	一、四七、一八〇	一、四七、一八〇	一、四七、一八〇	一、四七、一八〇	一、四七、一八〇	一、四七、一八〇	一、四七、一八〇

本邦鹽需要高

(單位千斤)

獨逸	八八	八八	八八	八八	八八	八八	八八	八八	八八	八八
英國	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
其他	一、四七、一八〇	一、四七、一八〇	一、四七、一八〇	一、四七、一八〇	一、四七、一八〇	一、四七、一八〇	一、四七、一八〇	一、四七、一八〇	一、四七、一八〇	一、四七、一八〇
合計	一、四七、一八〇	一、四七、一八〇	一、四七、一八〇	一、四七、一八〇	一、四七、一八〇	一、四七、一八〇	一、四七、一八〇	一、四七、一八〇	一、四七、一八〇	一、四七、一八〇

貿易及荷動

露國	一九二—一九三	一九三—一九四	一九四—一九五	一九五—一九六	一九六—一九七	一九七—一九八	一九八—一九九	一九九—二〇〇	一九二—一九三	一九三—一九四	一九四—一九五	一九五—一九六	一九六—一九七	一九七—一九八	一九八—一九九	一九九—二〇〇
西牙國	一九二—一九三	一九三—一九四	一九四—一九五	一九五—一九六	一九六—一九七	一九七—一九八	一九八—一九九	一九九—二〇〇	一九二—一九三	一九三—一九四	一九四—一九五	一九五—一九六	一九六—一九七	一九七—一九八	一九八—一九九	一九九—二〇〇
瑞典	一九二—一九三	一九三—一九四	一九四—一九五	一九五—一九六	一九六—一九七	一九七—一九八	一九八—一九九	一九九—二〇〇	一九二—一九三	一九三—一九四	一九四—一九五	一九五—一九六	一九六—一九七	一九七—一九八	一九八—一九九	一九九—二〇〇
英國	一九二—一九三	一九三—一九四	一九四—一九五	一九五—一九六	一九六—一九七	一九七—一九八	一九八—一九九	一九九—二〇〇	一九二—一九三	一九三—一九四	一九四—一九五	一九五—一九六	一九六—一九七	一九七—一九八	一九八—一九九	一九九—二〇〇
歐洲	一九二—一九三	一九三—一九四	一九四—一九五	一九五—一九六	一九六—一九七	一九七—一九八	一九八—一九九	一九九—二〇〇	一九二—一九三	一九三—一九四	一九四—一九五	一九五—一九六	一九六—一九七	一九七—一九八	一九八—一九九	一九九—二〇〇
支那	一九二—一九三	一九三—一九四	一九四—一九五	一九五—一九六	一九六—一九七	一九七—一九八	一九八—一九九	一九九—二〇〇	一九二—一九三	一九三—一九四	一九四—一九五	一九五—一九六	一九六—一九七	一九七—一九八	一九八—一九九	一九九—二〇〇
日本	一九二—一九三	一九三—一九四	一九四—一九五	一九五—一九六	一九六—一九七	一九七—一九八	一九八—一九九	一九九—二〇〇	一九二—一九三	一九三—一九四	一九四—一九五	一九五—一九六	一九六—一九七	一九七—一九八	一九八—一九九	一九九—二〇〇
爪哇	一九二—一九三	一九三—一九四	一九四—一九五	一九五—一九六	一九六—一九七	一九七—一九八	一九八—一九九	一九九—二〇〇	一九二—一九三	一九三—一九四	一九四—一九五	一九五—一九六	一九六—一九七	一九七—一九八	一九八—一九九	一九九—二〇〇
亞細亞	一九二—一九三	一九三—一九四	一九四—一九五	一九五—一九六	一九六—一九七	一九七—一九八	一九八—一九九	一九九—二〇〇	一九二—一九三	一九三—一九四	一九四—一九五	一九五—一九六	一九六—一九七	一九七—一九八	一九八—一九九	一九九—二〇〇
非洲	一九二—一九三	一九三—一九四	一九四—一九五	一九五—一九六	一九六—一九七	一九七—一九八	一九八—一九九	一九九—二〇〇	一九二—一九三	一九三—一九四	一九四—一九五	一九五—一九六	一九六—一九七	一九七—一九八	一九八—一九九	一九九—二〇〇
大洋洲	一九二—一九三	一九三—一九四	一九四—一九五	一九五—一九六	一九六—一九七	一九七—一九八	一九八—一九九	一九九—二〇〇	一九二—一九三	一九三—一九四	一九四—一九五	一九五—一九六	一九六—一九七	一九七—一九八	一九八—一九九	一九九—二〇〇
合計	一九二—一九三	一九三—一九四	一九四—一九五	一九五—一九六	一九六—一九七	一九七—一九八	一九八—一九九	一九九—二〇〇	一九二—一九三	一九三—一九四	一九四—一九五	一九五—一九六	一九六—一九七	一九七—一九八	一九八—一九九	一九九—二〇〇

全世界累年消費高を示せば如左 (單位千噸)

消費高

年次

消費高

【貿易及荷動】

世界小麥荷動狀況

(單位千噸)

年次	歐洲生產	英國輸入	歐大陸輸入	全歐洲輸入	歐洲外輸入	世界荷動
一九二一年	三,九三三	五,九四三	九,四三九	一五,〇三〇	一,七二四	一六,七五四
一九二二年	三,七九六	五,五七一	九,〇六四	一四,六三三	二,七〇一	一七,三三五
一九二三年	三,七九〇	五,八〇五	一〇,〇七一	一五,八七九	三,一九三	一九,〇七三
一九二四年	未詳	九,二四	八,〇三六	一四,二五〇	三,三三三	一七,五八三
一九二五年	未詳	六,四一八	一〇,七二四	一七,一四一	三,八五七	二〇,〇〇〇
一九二六年	未詳	未詳	未詳	一八,三〇〇	三,二六八	二一,五六八

因に各國別輸出力は合衆國六、四八千噸、加奈陀五、元七千噸、亞爾然丁三、三四千噸、濠洲二、七九千噸、印度其他三、六三三噸

米輸移出入高

(單位石)

月別	外米	朝鮮米	臺灣米	輪移入額計	外米	朝鮮米	臺灣米	輪移入額計
十一月	一五〇,六三三	八二,三三九	二三五,七七一	一,一九八,九七一	二七,九〇〇	二六五,七〇四	三三六,三二二	八七三,八二六
十二月	一七〇,七六一	九三,九七五	四六,六三三	一,五八八,三九九	一五,一六〇	二五一,九四四	二八四,〇〇八	六七一,一二二
一月	一五三,〇三三	六三,五二五	二六七,六一〇	一,〇五一,一四七	一七,七三五	二二六,七八三	三三六,五五二	七三六,〇六〇
二月	三三九,七三三	六二,〇三〇	一六八,〇〇七	一,〇〇九,七六〇	三三,〇四三	三〇〇,〇六八	二七四,三三二	八五八,八五三
三月	三七八,六八八	六六,八四三	一〇四,二五二	一,一九九,七三三	三三,〇四三	一五,九〇九	二,六三七,八九九	二,三六七,六六六
四月	九〇三,七三三	五〇,四六八	六三,六六四	一,四七,〇七四	一,四七,〇七四	一,四七,〇七四	一,四七,〇七四	一,四七,〇七四
五月	九〇〇,三三三	四四,四七〇	四五,二四〇	一,四七,〇九二	一,四七,〇九二	一,四七,〇九二	一,四七,〇九二	一,四七,〇九二
六月	三三三,〇三三	二六九,〇九七	七〇,六九〇	六八,八五〇	六八,八五〇	六八,八五〇	六八,八五〇	六八,八五〇
前年度	一,九七三,三〇〇	六九六,四八八	四五一,三三三	三,三三三,一二二	三,三三三,一二二	三,三三三,一二二	三,三三三,一二二	三,三三三,一二二
累計	一,九七三,三〇〇	六九六,四八八	四五一,三三三	三,三三三,一二二	三,三三三,一二二	三,三三三,一二二	三,三三三,一二二	三,三三三,一二二

昨年度北洋材積取高

(單位石)

東海岸	西海岸	合計	地別	北見
五,〇五三,三三三	四,五〇六,七五六	三,六八八,五〇一	灣内 (弧内ノ前年分)	三三〇,六八二
(四,五九九,九三五)	(四,三三一,〇〇五)	(三,三四四,〇八六)	沿海州	一四四,九五九
				(五五,六九六)
				(一三七,四九六)

同月別積取調

月別	積取船數	出材石數	月別	積取船數	出材石數
三月	八	七九,三三三	七月	三三	二,五九四,六九九
四月	三	三一,一九九	八月	二九	二,六四〇,三三五
五月	二五	一,二九四,一〇八	九月	九四	一,三〇〇,四五八
六月	一三三	一,九三七,七四〇	十月	一五七	一,五一九,〇三五
合計			十一月	九六	九四八,三三三
			十二月	九	六三,一三三
			合計	一,二一八	三,六八八,五〇一

昨年度内國炭移送地方別表

(單位噸)

炭名	瀨戸内海方面	阪神方面	伊勢灣方面	京濱方面	山陰北陸方面	朝鮮方面	其他	合計
筑豊炭	一四三,三三五	三,三二八	九三,九〇六	四六,八六四	二九三,九七〇	一四,五三三	三三三,三三四	六,八八七,七三九
福岡炭	三三,七三三	六,一五三	一〇,九三六	四六,三六八	三,七〇九	五八,一六〇	一八二,七〇七	四六六,一六一
佐賀炭	一六,七四六	一,九二七	一〇,九〇七	二〇,七三〇	二四,二四〇	三三,八二五	二七四,八〇六	八三二,三三三

【貿易及荷動】

# 海 運

昭和三年 一月 二月 三月 四月 五月 六月 計

平戸炭 高島炭 松島炭 崎戸炭 三池炭 宇部炭 常盤炭 北海道炭 臺灣炭 合計

平戸炭	一〇、九〇六	五九、八八八	九、五四八	三三、八九二	四、四八三	二、〇七九	一六、四四〇	一三七、二四〇
高島炭	四三、一五三	四一、八四四	一四、四二七	一八、三三八	四、二八四	二、二八四	五三、二七九	二二一、三四五
松島炭	一九、八七六	二〇、九五〇	四三、九六四	一七、〇九五	一四、六六〇	一四、六六〇	八二、三九八	二八七、九四三
崎戸炭	七、一三七	二四、三〇五	二〇、一三三	一五、〇九八	七、一三〇	七、一三〇	七三、二八〇	三〇一、三〇三
三池炭	六、四三六	二〇、七一九	二〇、七五四	二七、六三三	八、一一一	三、九五三	一四六、二七五	二九三、四一一
宇部炭	六、四三六	五九五、一一一	三、〇七三	二八、八四四	六、四〇三	一、二二二	七〇、三五六	一、四七四、〇三二
常盤炭	六、四三六	二八二、八〇六	三、八四二	一、二七六	二、四四二	五三六	一、三三三、五三〇	一、九三三、六七九
北海道炭	二、五九六、七六三	一五、二〇七	四三、六六三	二、七〇三	一、〇四七、三〇四	二、四九一	二、四八九	三、〇二二、九五六
臺灣炭	二、五九六、七六三	四八五、七九三	一、七〇七、七六六	二、七〇三、八六四	一、六三一、五〇七	二、九三、一七三	二、三四一、八八二	一五、九四五、九三六
合計								

貿易及荷動

## 昨年度撫順炭輸入地方別表

瀨戸内海	四〇、二九三	三九、八七二	四、四八三	二、〇七九	一六、四四〇	一三七、二四〇
阪神方面	五九、七七五	三九、八七二	一八、三三八	二、二八四	五三、二七九	二二一、三四五
伊勢方面	四〇、二九三	三九、八七二	一七、〇九五	七、一三〇	七三、二八〇	三〇一、三〇三
京濱方面	二四、八〇〇	六四、五〇〇	二七、六三三	二八、八四四	六、四〇三	二九三、四一一
東北及北陸方面	一、三三二	一六、五〇〇	二、七〇三	一、二七六	二、四四二	一、三三三、五三〇
九州方面	一、三三二	一六、五〇〇	二、七〇三	一、二七六	二、四四二	一、三三三、五三〇
朝鮮、樺太	一、三三二	一六、五〇〇	二、七〇三	一、二七六	二、四四二	一、三三三、五三〇
其他	一、三三二	一六、五〇〇	二、七〇三	一、二七六	二、四四二	一、三三三、五三〇
合計						

## 大連浦鹽豆粕積出高

大連	八五、四四八噸	二七五、九〇九	四七、一三三	四七、一三三
浦鹽	一九〇、四六噸	三二六、五九九	四四、二九〇	四四、二九〇
合計				

撫順炭 開平炭 淄川炭

撫順炭	五九、七七五	三九、八七二	四、四八三	二、〇七九	一六、四四〇	一三七、二四〇
開平炭	一六、四〇〇	六四、五〇〇	二七、六三三	二八、八四四	六、四〇三	二九三、四一一
淄川炭	五、五九三	一六、五〇〇	二、七〇三	一、二七六	二、四四二	一、三三三、五三〇
合計						

昭和三年 一月 二月 三月 四月 五月 六月 計

海運一年史	一三	主要港運程表	一四	備船成約月別記録	三〇
海運大勢	一三	補助命令航路	一五	△船 價	
市況大勢	一六	航路内容及受命者	一八	本邦船價表	三三
各國海運保護政策	一四	航路補助内容	一八	本邦新造貨物船平均價格	三四
日本船主番附	一五	會社別經營航路内容	一九	英國新造船價	三五
世界大船主	一五	日本中心内外競争航路	一九	世界新造貨物船價	三五
世界最大船舶	一五	航路別國別配船	二〇	世界賣船價レコード	三六
△船 舶		社外船配船表	二〇	本那賣船月別表	三九
世界汽船増加趨勢	一五	本邦船配船表	二〇	本邦對外賣買船	三三
日本海運發達趨勢	一五	世界船配船狀況調	二〇	輸出船明細	三三
世界船舶噸數	一五	世界船配船狀況調	二〇	△海 員	
世界船舶噸型別年齡比較	一六	世界汽船會社主要航路	二〇	海員現在數	三四
世界船舶噸型別年齡比較	一六	蘇士運河通過統計	二〇	海員事務成績	三四
世界優秀船舶別速力調	一六	巴拿馬運河通過統計	二〇	海技免狀受有者別	三五
世界優秀船舶別比較	一六	△運 賃		海技免狀受有者別	三五
世界優秀船舶別速力調	一六	世界標準運賃	二〇	海技免狀受有者別	三五
世界モーター船舶別調	一七	定期航路運賃	二二	海員審判件數	三五
世界油槽船國別調	一七	世界主要航路別運賃指數	二二	海技受驗者	三五
世界船舶動力別比較趨勢	一七	世界不定期船貨物運賃指數	二二	船舶職員登錄	三六
本邦汽船累月現在數	一七	△備 船		高等海員標準給料最低月額	三七
本邦汽船最速力調	一七	昭和三年中備船料統計	二八	普通海員標準給料最低月額	三七
本邦船舶資格内容	一七	本邦備船料消長	二九	世界主要海運國海員給料比較	三六
△航 路		世界備船料消長	三〇	員給料比較 (甲)	三六
				員給料比較 (乙)	三六

# 海 運

## 海運一年史 (自三年七月至四年六月)

### 海運大勢

世界海運の大勢は一般經濟界が漸次恢復の道程を辿れると共に物資の異動も増加し一面船舶改良に伴ふ船費も低下し營業收支は徐々に緩和し亦突發的問題も少く大體に於て平穩順調の方であつた併し各國の海運保護政策は益々濃厚を加へ優良船建造を競ふ結果船腹過剩の問題は依然解決されず反對に新航路の開拓既設航路の充實杯の積極的經營に運賃の昂上阻止不經濟船の驅逐等相當の波瀾があつた此間にありて我海運の立場は支那の排日運動が南洋印度に及び一方海員給料増加の爲め船費の膨脹經濟的優秀船の建造に伴ふ運賃市場の壓迫を見たが北米航路並に印度濠洲方面に掛けての材木及穀物の輸送繁忙を加へ大中小型船を消化したので悲慘なる冬枯を阻止して小康を保ち造船界の旺盛は社外

### 【海 運】

船主の新造船注文續發し各工場も殆んど工場能力満員の盛況であり海上保險界も船體保險を始め持種貨物に對する料率協定も漸次成立するあり突發的諸問題も餘り指摘する程重大なものなく近頃稀な順調の大勢を凡て終始した從つて船會社造船所及び保險會社等を通じ稍々愁眉を開いた年であつた以下斯界に於ける重要記録の概要を略記する

◇御即位大禮と海員恩赦 畏くも 天皇陛下には萬世一系の大統を承けさせられ十一月十日の佳辰を卜し御即位の大典を平安の皇宮に擧げ併せて天神地祇に清饗あらせ給ふ

大典當日を以て發布された恩赦令は海員懲戒事件にも及び「十月以前に於ける海員懲戒事件は審判中のものご起訴取調中のものごを問はず全部恩赦令によりて免除され更に免狀停止中のものも當日を以て全部免除された」其數は實に八百件以上に及んだ

◇關西行幸 畏くも聖上陛下には五月二十八日宮城御發聲關西行幸大阪、兵庫、和歌山及八丈島等の實情を親しく覽し給ひ特に海運業御獎勵の思召から潮崎燈臺大阪神戸兩港の御親覽海事關係功勞者に御親謁御陪食



を給ひ亦學校及團體等に侍從を御差遣あらせらる

◇議會提出諸法案 第五十四議會は左の如く海運政策上に對する稀に見る重要法案が提出された

- 一、航路補助更改
- 一、郵便定期補助更改
- 一、新設遠洋寄港補助
- 一、航路標識建設費

右諸法案は全部兩院を通過し亦政府提出並に議員提出の法律案及建議案等亦左の如きものがあつた

- 一、噸積法改正案(政府提出)
- 一、船舶職員法改正案(同)
- 一、國際汽船管理法案(同)
- 一、船員保險法制定建議案(議員提出)
- 一、室蘭港海事部新設(同)
- 一、長崎基隆連絡速達航路開始(同)
- 一、交通行政統一(同)
- 一、航路標識建設(同)

以上法案は國際汽船整理案を除いて殆んど通過した噸積改正案の如き船主協會の反對陳情も航路標識増設財源の諒解で通過した國汽整理案は貴族院の反對に開期

切迫で遺憾ながら不成立となつた以下重要法案の綱領を略記する

一、航路補助更改及郵便定期補助更改(多少の條件改正に止る)

一、新設遠洋寄港補助は近東航路十萬圓、馬寄港五萬圓

一、噸積法改正は從來の稅率倍加

一、船舶職員法改正は定員増加の結果別表に於て甲板部と機關部を區別したるに止る

一、國際汽船整理案は左の要項である

第一條 大藏省預金部が國際汽船株式會社に融通するため引受けたる興業債券に關し日本興業銀行に對して有する左の各號の債券は一般會計においてこれが譲り渡したることを得

一、第一百回興業債券額面二千九百二十萬圓

二、前號の興業債券に對する昭和四年三月卅一日に於ける低下利息百六十萬一千八百圓四錢

第二條 前條の場合において一般會計は同案の債權額に相當する金額を額面金額により三分利附國債證券をもつて大藏省預金部に交付す

たゞし國債證券の額面金額に充たざる端数は現金をもつてこれを交付す

第三條 政府は前條の規定により交付するため必要な額を限度とし公債を發行することを得

第四條 國際汽船株式會社が資本の増加をなす場合に於いては政府は第一條の規定にまゝ一般會計が大藏省預金部より譲り渡しを受けたる日本興業銀行に對する債權およびその利息債權を債權額をもつて拂込みにあて國際汽船株式會社の株式を引受くることを得

◇海事法規改正 前項議會通過の噸積法遠洋航路補助法、郵便定期補助法、新設寄港補助法及船舶職員法等は夫々公布された其外遞信省令を以て左記重要諸規則が發布された

- 一、瀬戸内海航行取締の目的を以て「内海水道航行規則」が二月一日發布された
- 一、船舶關係規程改正 六月十日遞信省令を以て左の如き諸規則改正が發布された
- 一、船燈信號器救命具取締規則
- 一、船燈試驗規程

信號器試驗規程

救命具試驗規程

船舶検査規則(一部改正)

船燈信號器救命具試驗監査手續

以上諸規程改正要項は左の通りである

一、新に電氣船燈の取締を爲すこと

二、船燈用透鏡等に對しては製造免許の制を設けたること

三、船燈、信號器、救命具の構造及び寸法につき製造の基準を示したること

四、請賣認可制度を廢止したること

五、船燈、信號器、救命具に夫々別箇の試驗規程を設けたる事

六、製品の檢定事務は從來官海官廳のみに限られたるも今回は船舶試驗所及同支所においてもこれを行ふこととしたること

◇國際海上安全會議 四月十六日から五月三十日まで倫敦に於て國際安全會議が開會され我國より山本船舶課長委員出席左記諸問題に就て討議を盡した

【海 運】

- 一、船舶の完全構造
- 二、救命設備
- 三、消防設備
- 四、無線電信施設
- 五、北部大西洋上の流水監視及一般海洋の氣象通報に

關する諸規定

◇海上労働問題 普通海員の最低賃銀制を確立した後の海上労働問題としては餘り特筆すべき重要事はないが併し内務省が船員保険法案を計畫する海員協會が高等海員給料制確立を海事協同會に要求する船主協會が船員傷害保険部を開設する等相當問題があり亦最低賃銀制實施に就て船主側の頑迷から栗林商船を始め續々紛争が起り罷業騒ぎを演じた大阪海員ホームの竣成海員組合の定期總會等も指摘すべき重要事であつた

- 一、船員保険法案 同案の内容は(一)疾病保險(二)廢疾年金(三)遺族年金及死亡保險給付(四)養老年金(五)脫退年金の五種で保險料負擔は政府十分の二船主船員各四といふ割合であつたが主旨には賛成なるも海運界不振の折柄船主負擔の苦痛及年金制の不合理的等から強烈な反對起り一應撤回し年金制度を一時

金制に改め其他訂正を行ひ具体案を脱稿し來期議會提案に決定した

一、高等海員給料制 海員協會から提出した高等海員給料制は海事協同會で審議の結果左の如く決定し三年十月一日から實施するに決定した内容は左の如し

船長	自 1,000 至 2,000 圓	自 1,000 至 2,000 圓	自 2,000 至 3,500 圓	噸以上
一等運	950 圓	1,250 圓	1,300 圓	1,350 圓
二等運	750 圓	850 圓	900 圓	950 圓
三等運	700 圓	700 圓	750 圓	750 圓
機關長	1,400 圓	1,900 圓	2,000 圓	2,300 圓
一等機	900 圓	1,250 圓	1,300 圓	1,350 圓
二等機	700 圓	750 圓	800 圓	850 圓
三等機	700 圓	700 圓	750 圓	800 圓

(備考) 一、本表は昭和三年十月一日より實施し現に本表規

定額以下の給料を受けつゝあるものに對しては本表の規定にした

◇其他の重要事 船員給料制から船主協會の鼎の輕重が問題となり存廢論組織變更論海事協會の存廢等が問題となり結局海事協同會存廢船主協會定款改正の兩委員會が設置される神戸海運業組合が發起で九月神戸に於て全國海運業組合聯盟組織大會が開催される金解禁問題提唱支那の通商條約破棄大阪商船副社長深尾隆太郎男が貴族院議員當選から辭任を機會に村田氏副社長新庄岡田兩氏常務就任日本郵船白仁社長辭任し各務氏社長に就任其他北日本社長山内氏死去野村氏後任社長に朝鮮郵船經營に對する郵商兩社確執等が數へられる特筆すべきは左記の海事研究會が經濟審議會に提出した建議と港灣調査會が百六十港の重要港灣を決定したところである

一、海事振興策 同建議内容は

- 海事行政の統一、補助制度整理統一、海事銀行の創立、水陸連絡設備、水陸小運送の改善、港灣の改修自國船の利用
- 等の諸政策を確立するにある

【海 運】

一、重要港灣内容 政府は現に第二種重要港灣の修築に對し港灣調査會に附議し協議の結果左記九十六港を新に指定港灣として内務大臣に報告した

- (北海道) 浦河、紋別、餘市、廣尾、天賣、杵形(京都府) 間人、新舞鶴、淺茂川、久美濱(神奈川県) 三崎(兵庫縣) 福良、相生、津居山(長崎) 島原、佐須奈、富江、平戸、福江(新潟) 能生、寺泊、小木(千葉) 白濱、寒川(茨城) 那珂(三重) 河崎、長島、波切、大口尾鷲、桑名、白子、濱崎、五ヶ所泊(静岡) 伊東、相良、沼津(宮城) 氣仙沼、女川(青森) 鮫(福井) 和田(富山) 氷見、東岩瀬(鳥取) 加露(島根) 惠雲(岡山) 小串、片上、笠岡(廣島) 竹原、鞆、吉浦、御手洗(山口) 小野田、今津、中關、徳山、萩、三田尻、柳井、新川(和歌山) 田邊、和歌浦、湯淺(徳島) 撫養(香川) 坂出、丸龜、坂手(愛媛) 新居濱、川の石、川の江(高知) 須崎、室津、中島(福岡) 大牟田、若津、宇嶋(大分) 佐伯、佐賀關(佐賀) 諸宮(熊本) 百貫石、八代水俣(宮崎) 油津、土々呂、赤江(鹿児島) 名瀬、福山串木野、西の表、枕崎、米の津、志布志

◇造船界の問題 造船界は久方振りの繁忙で小康を維

【海 運】

持したが早くも將來の對策として振興策研究が問題と藤永田造船所の破綻から海軍省は製艦部設置問題を突發した其反對に川崎造船所並に神戸製鋼所が整理成就した尙特筆すべきは日本郵船會社の桑港線定期船優秀船三隻の無事進水した一事である蓋し我造船界に於て其船型に於て亦世界大型ディセル船とし實に特筆すべき二大レコードである

淺間丸 一六、八〇噸 十月卅日進水 三菱造船所  
龍田丸 一六、五〇噸 四月十二日 〃  
秩父丸 一六、五〇噸 五月八日 〃 横濱船渠  
其他過去一ケ年間にディセル船として進水せるもの二十四隻九萬五千噸を數へた

市況大勢

夏枯と排日影響 濟南出兵を動機に市況を好轉せしめた夏季の我海運市況は御用船の解除と遠洋大型船の近海割込みで近海一區の配船は二百十三萬噸といふ未曾有のレコードを示し漸く船腹過剩傾向となれる折柄支那排日騒ぎは南京政府が裏面から煽動せる大規模の

もので支那内地は勿論印度支那南洋に及び盤谷の如き本邦船の寄港不能となり其他南洋一帯に於ける排日は日本船の不積荷役繼續といふ状況で其打撃は定期航路各方面に涉り不定期船の配船不能といふのだから中型船の近海割込みを招來する結果となり北洋材輸送に集注せる市場は俄に軟弱に陥り七月始め百六十圓の北洋材運賃は漸落して遂に百五圓或は百圓割れさへ唱へる不振に陥つたが八月末から國際、太平洋運、山下及び三井等の大手筋が遠洋配船に努めたのと北米航路の米材並に小麥の輸入が弗々引合はれて來たので九月末に至り再び市況好轉し先物契約は多少好勢に展開したが七月以降九月に至る三ヶ月の市場は左の如く夏枯閑散を免れなかつた

	七月	八月	九月
大型備船料	一、八〇錢	一、六〇錢	一、八〇錢
小型備船料	三、〇〇錢	三、八〇錢	三、八〇錢
南米歐洲運賃	二〇志	三志	一九志
北米材運賃	八弗五仙	七弗五仙	八弗
北洋材運賃	二五圓	二〇圓	二〇圓
若松橫濱運賃	一、五錢	一、五錢	一、五錢

◇意外の冬枯好轉 排日運動は相當組織的のもので

あり楊子江沿岸から廣東に掛けての船腹需要も杜絶の状況であり内地豐作に外米輸入は絶望であり僅に北米航路を始め遠洋配船のみに期待せる本邦市場は前途悲觀の外なくこの状況を以てせば冬枯季の悲惨は如何ばかりと一般の悲觀から大手筋は大型船の遠洋配船焦慮となり十月上旬迄に左の如き歐洲配船十四隻を數へた

北米太平洋岸英歐(十四隻)

國際汽船	七隻	八月	三月	元志半志
川崎汽船	四隻	同	同	元志半志
大洋海運	一隻	九月	同	元志
日本汽船	二隻	三月	三月	元志

浦鹽歐洲(四隻)

川崎汽船	二隻	三月	一月	元志
山下汽船	一隻	同	同	元志
大洋海運	一隻	十二月	同	元志

濠洲英歐(二隻)

大洋海運	一隻	十二月	同	元志
國際汽船	一隻	同	同	元志

一方東洋向けの米材並に小麥の出廻りも弗々開始されたので早く恰好の大型船拂底といふ好況となり運賃備船料も再び好轉し北米材九弗七五仙北洋材百三十圓

【海 運】

大型備船料二圓十錢(十月末)見當を唱へ稍々小康を保つに至つた而して大型船の拂底傾向を種に大手筋は大型船備船を競ふ市場となり十一月に入り濠洲小麥の成約が現はれる更に印度の不作から濠洲小麥の印度輸出船腹の本邦船需要をも惹起するありて中型船の消化に新天地が與へられる等で悲觀を以て迎へられた冬枯季に至り大中型船は寧ろ拂底傾向を辿り近海一區配船を調節し十一月配船は百四十七萬噸に減少し北米配船九十萬噸の盛況を呈したので冬枯季の惨狀は全く阻止され近年稀なる小康を持續して越年するの幸福であつた左に過去三ヶ月間の市況を記す

	十月	十一月	十二月
大型備船料	三、〇〇錢	二、〇〇錢	二、〇〇錢
小型備船料	三、〇〇錢	二、五〇錢	二、五〇錢
若松橫濱運賃	一、三錢	一、三錢	一、二〇錢
南米歐洲運賃	三志	三志	二志
北洋材運賃	九弗五仙	十弗五仙	十弗五仙
北米材運賃	二五圓	二五圓	—

要するに下半期の海運界は支那排日運動に依り本邦海運界は相當の打撃を蒙り本邦船の運賃減少は定期船のみで數百萬圓に上るといふ状況であつたが小麥の世界

【海 運】

的輸送旺盛と大手筋の太平洋配船等で大型船の遠洋配船が旺盛を極め一面中型船の濠洲印度配船も意外の盛況を極むるありて大中型船は拂底の好況であつたら近海船腹調節順調を繼續するありて豫想を裏切る小康を呈した

◆樂觀に生れた海運 新春の我海運界は別に何等悲觀材料として指摘する程のものはないが四圍の状況は頗る順調を物語るものがある就中船腹需給の均衡が維持され居る點である即ち冬枯季の配船としては最も理想的に分布されてゐる試みに我不定期船の配船は過去一ヶ月の間に左の如く順調となつた

遠洋各方面	一月月上旬	十二月月上旬
北米東洋	三三〇、一九	三三三、三四
濠洲方面	二二二	二四六、二四
近海二區	五〇	三八、八三
近海一區	三三	一、三七、三〇

即ち十二月上旬に比し近海一區の配船は二十七隻十四萬噸を減少しこれが減少船腹は北米と濠洲方面に轉配され此方面増加は三十隻二十二萬噸を數ふ盛況で社外船は北洋材の先物契約を一月下旬迄見送る大手筋の申

合も出來北洋材運賃は百五十圓目標の樂觀期待であつた而して大中型船の需要益々旺盛を極め濠洲並に印度南洋方面の配船は實に七十萬噸を數へ近海一區配船は僅に百十萬噸に激減せる有様であつたから新春の海運界は左の如く近年稀なる順調を續けた

大型備船料	一月	二月	三月
小型備船料	二、〇錢	二、〇錢	二、〇錢
南米歐洲運賃	二、八錢	三、〇錢	三、三錢
米材運賃	二、六志	二、五志	三、三志
北洋材運賃	十弗	九弗五仙	八弗五仙
若松橫濱運賃	一、四圓	一、五圓	一、五圓
若松橫濱運賃	一、五錢	一、五錢	一、三錢

◆本邦海運得意時代 濠洲印度配船といふ臨時船腹需の起つたことは外米輸入船腹の皆無を補ふ以上の數量で四月の近海荷動期を控へ近海一區配船は僅に百十萬噸といふ拂底であり北洋材の先物契約船主側の鼻息に荷主は躊躇して一般見送る大手荷主の北米材先物は前年より約十圓方上値で成約された更に山東撤兵船腹需要が期待される等樂觀材料を以て充たされた市場であるから船主側の態度の強硬に對し山下汽船以下大手筋は盛んに先物船腹の備船契約を進め大型船の夏季

近海配船が二圓十錢から二圓四十五錢見當迄の成約が成立するといふ有様でこの状況を以てせば荷主は遂に屈伏するの外はあるまい従つて五六月頃の市場は大沸騰を演ずるのではないかこの樂觀筋の期待であつたが意外にも北米航路の閑散濠洲印度方面の配船減少撤兵船腹の期待脱れ一般經濟界の不振等で案外市場無活氣で豫想を裏切る市場平靜で寧ろ六月末に於ては前途悲觀的狀況を以て政友會内閣崩解後に内閣成立を迎へた程度であつた従つて一般市況の如き左の趨勢を辿つたのである

大型備船料	四月	五月	六月
小型備船料	二、〇錢	二、五錢	二、二錢
南米歐洲運賃	三、〇錢	三、五錢	三、三錢
米材運賃	二、四志	三、三志	三、三志
北洋材運賃	九弗	九弗	八弗
若松橫濱運賃	一、五圓	一、六圓	一、四圓
若松橫濱運賃	一、五錢	一、五錢	一、七錢

斯て上半期の海運界は頗る順調に船主の大部分は備船主義であり北洋材の未契約の多いことは將來に對する期待であり久方振りに本年上半期は船主も惠まれた形ちと秋眉を開いたのであるが而も前途は緊縮内閣の成

【海 運】

立て樂觀を容さぬ形勢に轉じた  
◆市況大勢 終りに過去一ヶ年間に於ける海運市況の大觀を以下數字上に現はす

配船	荷物	最高	最低
若松橫濱	(石炭)	一、五錢	一、二錢
上海	( )	二、〇錢	一、三錢
香港	( )	二、〇錢	二、〇錢
大連橫濱	(豆粕)	一、六錢	三錢
北米日本	(米材)	一〇弗五仙	七弗五仙
北米歐洲	(小麥)	三、七志	二、九志
南米英歐	( )	二、六志	二、三志
樺太内地	(丸太)	一、六圓	一、〇圓

世界市場は比較的平凡であつたが本邦市場は相當の波瀾があつた即ち近海に於ては石炭運賃北洋材共に六割

【海 運】

方の高低であり備船料に至つては非常な相違で大型船の如き實に一圓方の高低であり米材運賃も相當の幅幅があり大体に於て最低は極めて短期間で大部分は可なり期間を維持し前年より幸ひな年であつた

船舶現在數 (帆船除外)

日 本 世 界

三年六月 四、二四、二九噸 六五、一五、八三噸  
 四年六月 四、一七、一八噸 六六、四〇、八三噸  
 進。水。船。 (自一九二八年七月至一九二九年六月)  
 二、三年 四九、三三噸 二、七五、六五噸  
 三、四年 一四、一五噸 二、四九、八〇噸

以上は海運大勢を示したものであるが結論として賣買船並に備船の各月に於ける成約レコードを摘録する

月 別	船 名	船 齡	重 量 噸	船 價
七月	天祐	一九〇五	六、四〇	四、五〇錢
八月	六札幌	一九一八	三、五一	七、三〇
九月	加州	一九一九	八、七〇	七、三〇
十月	玉榮	一九一七	一、五〇	七、〇〇
十一月	福海	一九一九	六、五〇	六、〇〇
十二月	長浦	一九一五	一、一五〇	九、〇〇

月 別	船 名	重 量 噸	航 路	備 船 料
一月	靜洋	一、九三	一〇、二八〇	三、〇〇
二月	泰山	一、九八	四、九三三	六、五〇
三月	興基	一、九四	八、〇三三	六、〇〇
四月	永福	一、九一	九、〇六七	五、〇〇
五月	日清	一、九〇	四、六六〇	三、〇〇
六月	雲洋	一、九七	七、二六〇	四、〇〇
七月	甲船	八、四〇	航路	備船料
八月	臺東南	二、三三	近樺太	一、九〇錢
九月	幸喜	八、五〇	近樺太	三、八〇錢
十月	加多	四、五〇	近樺太	一、八〇
十一月	神田	八、七〇	近樺太	二、三〇
十二月	明信	三、八〇	近樺太	二、五〇
一月	明大	二、六〇	近樺太	二、〇〇
二月	北多	八、九七	近樺太	二、〇〇
三月	喜方	三、五〇	近樺太	二、〇〇
四月	たすまにや	七、二〇	近樺太	二、〇〇
五月	五福	三、七〇	近樺太	二、〇〇
六月	加賀	八、四七	近樺太	二、〇〇
七月	神愛	六、三三	近樺太	二、〇〇
八月	六洋	二、八八	近樺太	二、〇〇
九月	幸喜	六、四一	近樺太	二、〇〇
十月	六東	二、九〇	近樺太	二、〇〇
十一月	幸喜	八、五〇	近樺太	二、〇〇
十二月	幸喜	三、一四	近樺太	二、〇〇

各國海運保護政策

月 別	船 名	船 齡	重 量 噸	船 價
四月	廣久	八、五〇	遠洋	二、二〇
五月	大日	三、四〇	近洋	三、一〇
六月	加賀	八、四七	樺太	二、五〇

各國の海運保護政策は戦後海運界が依然として世界的に不振の域を脱せず斯業の窮状は勢ひ列國共に海運政策上の施設に於て海運造船補助の傾向最近著しきものあり左に各國の採れる保護制度の概要を記述せん

△ 日 本

□ 遠洋航路補助法

帝國臣民又は帝國臣民のみを社員若しくは株主とする商事會社にして運送業を営むものは、(一) 歐洲、(二) 北米 (三) 南米、(四) 濠洲の航路に、五年以内の期間を限り、航海補助金の附與を受け、定期航海を営むことを得 船舶資格一補助航海に使用さる、船舶は、總噸數三千噸以上にして、一時間十二海里以上の速力を有し、帝國船籍に登録されたる、船齡十五年以内の鋼製汽船たるを要す。外國製造の船舶は使用することを得ず、但し帝國船籍に登録の際、船齡五年以内にして、已むを得ざる事由に出づるものは、主務大臣の認可を得て、之を使用することを得補助金額一使用船舶總噸數一噸、航海里數一千海里につき速力一時間十二海里を要するものに對し、五十錢以内速力一時間一海里を増す毎に、其百分十を増したる金額以内にして、航海の状況に應じ支給さる。船齡五年を超ゆる船舶に對しては、一年毎に其百分五を遞減さる。外國製造の船舶に對しては、半額の支給に止まる。特に主務大臣の認可を得たる設計に依り製造したる船舶、又は定期航海の開始後五年を経過せざる航路に使用する船舶に對しては、

【海 運】

【海 運】

右金額百分二十五以内の増給あり。

義務(一)旅客、貨物の運賃を定むるに、主務大臣の認可を経ざるべからず。(二)郵便物及び郵便用品を無賃にて搭載し、無線電信の通信に關する設備を爲し、且つ通信事務又は航路視察の爲め、主務大臣の派出する吏員、無賃にて乗船せしめざるべからず。(三)其費用を以つて一定の航海修業生を乗組ましめざるべからず。(四)主務大臣の定むる補償金額を以つて、其船舶を公用の爲め收用又は使用せらるゝを拒む能はず。(五)補助金を受けて航海する期間、及び最終の航海を終はりたる日より三年間、其船舶を外國人に讓渡し、貸渡し、又は擔保に供することを得ず。以上を其義務の主要なるものとす。航路一航路の起點、終點、其各航路に使用すべき船舶條件等左表の如し。

起點	終點	寄港地	使用船舶	航海度數
			隻數	總噸數
			速力	時間
△北米航路	桑港線		三	一萬三千五百噸以上 一萬三千五百噸以下
西廻横濱、香港	神戶、長崎、上海		六	六千噸以上 九千七百噸以下
東廻横濱、桑港	ホノルル		六	五千噸以上 七千噸以下
△南米航路	西岸線		六	五千噸以上 七千噸以下
西廻横濱、香港	神戶、門司		六	五千噸以上 七千噸以下
東廻横濱、	バルパライソ、ホノルル、サリナクルス、カイヤ		六	五千噸以上 七千噸以下
△南米航路	東岸線	(神戸、ロザエノスアイレス間)	六	五千噸以上 七千噸以下
往航横濱、長崎、香港、新嘉坡、ケープタウン、サントス			六	五千噸以上 七千噸以下
復航リオデジヤネロ、サントス、クリストバル、横濱			六	五千噸以上 七千噸以下

右の外歐洲、北米シヤトル及濠洲の三線は事實上廢止に付削除す

□ 郵便定期航路補助規定

郵便定期航路補助の爲め左の條件に依り昭和四年度以降三箇年度間毎年度百二十三萬圓以内を支出するの契約を結ぶことを得

- 一、政府の命する所に依り郵便物を遞送すること
- ▲横濱倫敦線は總噸數七千五百噸以上速力一時間十五海里以上の鋼製汽船を以て毎二週一回以上一年期間二十六回以上航海を爲す事
- ▲神戸沙府線は總噸數五千五百噸以上速力一時間十二海里以上の鋼製汽船を以て毎二週一回以上一年期間二十回以上航海を爲す事
- ▲神戸香港線は總噸數五千五百噸以上速力一時間十四海里以上の鋼製汽船を以て毎三週一回以上一年期間十六七回以上航海を爲すこと
- ▲横濱メルボルン線は總噸數五千噸以上速力一時間十五海里以上の鋼製汽船を以て毎月一回以上一年期間十二回以上航海を爲すこと
- 一、政府に於て必要と認むる時は各航路内に於て寄港地増加し又は之が變更を命することあるべきこと
- 一、政府の認可を受けたる時は前記の資格に適合せざる船舶を使用するを得ること
- 一、政府は必要に應じ相當金額を給與して各航路に使用する船舶を公用の爲め買収し又は使用する事を得ること
- 一、補助金は命令書の定むる所に從ひ支給すること
- 一、政府は契約者に於て命令を履行せず若は命令に違背したる事實ありと認めたるときは所爲の輕重により相當の金額を徴収すること
- 一、前數項に於て一年期間と稱するは其年四月一日に起り翌年三月三十一日に終る一周年間を謂ふ
- 即ち郵便補助航路左の如し
- 一、横濱、倫敦線
- 一、神戸、シヤトル及神戸香港線
- 一、横濱、メルボルン線

【海 運】

△英・吉・利

一、航海保護制度 政府は郵便定期航海補助契約を締結し左の補助金を支給す  
 (イ) 彼阿汽船 プリンデイシー孟買線(毎週一回)、プリンデイシー上海線(二週一回)、プリンデイシー・アデレード線(毎月一回)年額三十萬五千磅  
 (ロ) キューナード汽船 サザンプトン紐育航路(毎週一回)年額六萬五千三百九十磅、右の外假裝巡洋艦としてモレタニア號の速力維持其他の爲め海軍省より年額九萬磅  
 (ハ) 大洋航業(白星線) サザンプトン紐育航路(毎週一回)年額七萬二千磅  
 (ニ) 阿弗利加汽船並英阿汽船 共同經營に係る李浦西部阿弗利加航路(毎週一回) 前者年額五萬二千二百二十三磅、後者年額一萬百三十二磅  
 前記の外殖民地及外國間の郵便物航送の爲多數の會社に郵便航送料を支拂ふ  
 二、造船保護制度 貿易助成法(一九二二年制定)の下に七千萬磅の範圍内に於て英國の産業貿易其他の投資に對し英政府は保證を與へ居り其中船舶港灣等の一九二五年六月末迄に保證せられたる金額は千六百九十三萬餘磅に達す  
 北部愛蘭政府貸附保證法(一九二二年實施)は一九二七年三月末現在に於て六、四二四、〇四五磅に達す因に保證限度は一〇、五〇〇千磅である

△北米合衆國

多年海運擴張の素懷を有して果たす能はず、偶戰爭の機運に乘じ、破天荒の大船舶國となれ。米國の海運政策に付ては述ぶべきこと頗る多きも、一九二八年議會は左の如き積極方針に出でた  
 一、民間商船建造貸付資金を一億二千五百萬弗を倍加して二億五千萬弗とす而して貸付額を造船若くは修繕費の四分三に増加し利率は最も安くし期間を十五年乃至二十ヶ年に延長すること  
 一、外國郵便契約船に對し一節につき二弗五十仙乃至三弗とし速力及噸數の増加によつて補償額を増加すること  
 一、商船海軍豫備制を確立し之に屬する船員に對し其海軍に於ける階級に應じ年々三ヶ月分の給料を支拂ふ、

一、船舶院所屬船拂下は委員五名の承認を要すること  
 一、國庫より十ヶ年二億五千萬弗を支出して船舶修繕、改良新造を行ひ米國商船隊の確立を計ること  
 因に一九二九年度郵便補助豫算總額は九百八十萬弗にして此内米國汽船六社に支拂ふべき純然たる外國郵便航送補助金は一、一五七、〇六六弗である尙右以外に封度レートに依る郵便航送料は七三五、五六〇弗である  
 其他政府は其所有に係る船舶及航路の民間拂下方針を採り其價格及支拂方法等は會社に極めて有利なる條件を附し最近に至り政府の海運保護は頗る顯著なるものあり其振興に關する今次議會提出の重要法案は總數三十に達する程にて官民共に存りに劃策を怠らず  
 一九二七年度に於ける造船貸附高は三百十六萬二千弗、ディーゼル機關改造契約高二百七十八萬餘弗に達した

△佛・蘭・西

一、郵便航路補助  
 コルシカ航路(フライスネット社)七百五十萬法 極東及濠洲航路(エムエム社)五千五百五十萬法 紐育航路(ゼネラルトランスアトランチック社)七百五十萬法 西印度及中米航路(同上)八百萬法 南米航路(南太平洋社)千四百五十萬法 其他  
 二、油槽船建造補助 一九二五年七百七十萬圓(建造數一九二四年二十一萬七千噸)一九二六年八百二十萬圓(建造數一九二七年二十六萬一千噸)  
 三、一九二八年下院は海事金融法案(船主造船低利資金貸附)を可決した、右條件は左の如し  
 金額 一ヶ年二億萬法總額十億法(實施期間五ヶ年)  
 利率 年九歩八厘(大藏省の負擔額第一年七百五十萬法其後逐年増加して第六年には三千七百萬法に達し千後最終年迄増減なし)  
 償還期限 二十ヶ年(最高限度)

△獨逸

【海 運】

最近同國郵便物が、漢堡及「ブレイメン」から直接海外に航送さるゝに至り、戦前と同様、政府は郵便物運送の報償として、現行萬國郵便條約に依り、航送料を支拂ふべき旨汽船會社と契約を結ぶが、其の以外には目下何等補助の施設なし。

一、造船保護制度 政府は一九二五年五千萬馬克を限度として同國船主が自國造船所に於て建造する場合長期低利の貸附を行ふ貸附額は契約造船價格の半額利子は建造中一分五厘竣工後第一年四分第二年後六分とし償還期限は最大限度十ヶ年とし船舶は元利の償還せられたる場合の外竣工後十年間は他に譲渡することを得ず尙造船材料に對する特惠鐵道運賃を規定し普通運賃に比し三割乃至三割五歩低廉である

△伊太利

一、航海保護制度 一九二三年政府は極東印度黑海地中海其他殖民地沿岸方面に對する航路補助費として一億四千七百十三萬リラを計上し伊太利海事會社(四線)伊太利海運會社(一線)トスカナ汽船(五線)ロイドトリエスチノ汽船(七線)等と契約を締結したが一九二七年左記の如く支給方法を改正した

年次	必要航路	有効航路	合計
一九二六年度	(二十ヶ年)	(十五ヶ年)	
	三、五三三リラ	九五、四五千リラ	
一九二七年度	三、七九〇	一五、六三三	
一九二八年度	三〇、三三五	二〇〇、〇〇〇	
一九二九年度	三〇、三三五	二〇〇、三三七	

而して一九二九年度補助金を最高とし次年度より逐年遞減して最終年度には(一九四七年)五二、九四二千リラとなる

一、造船保護制度 一九二三年度より實施した造船保護の概要は左の如し  
造船機獎勵金 總噸數一噸に付貨客船は四百リラ貨物船は三百リラ  
船舶材料輸入税の免除 國內に於て其全部又は一部の改造及内燃機關汽罐其他部分品製作に必要な材料の輸入

税を免除す

所得税其他の免除 前述の獎勵金を受くる汽船又は帆船は三ヶ年乃至五ヶ年間所得税又は工業税を免除せらる  
解撤補助金 古船を解撤して之れに代ふるに同型又は其れ以上の新船を建造する場合には解撤すべき船舶一總噸毎に四リラの補助金を附與す

△和 蘭

海外各地及殖民地に對する郵便定期航路に付郵便補助金並郵便航送料制度を設けたり其主要なるもの左の如し  
(イ)ロツテルダムロイド汽船 ロツテルダム・パタビア間(二週一回)二千四百盾  
(ロ)ネザラランド汽船 アムステルダム・パタビア間(二週一回)二千四百盾(サバニ寄港及航海日數短縮に依り)七千盾増額  
其他アムステルダム南米間及アムステルダムニューオリンス間並ロツテルダム紐育間に其々一定の航送料を支給す

△諾 威

一、船舶金融 一九二七年ベルゲンは船舶低當貸附銀行設立され(資本金四、一八〇千クロノ)總噸數三百噸以上鋼製内燃機船に限り償還期限十ヶ年とす(但船齡八年以上四ヶ年とす)  
一、航海保護制度 スダンゲル、キルケネス間(毎週一回)ベルゲン、キルケネス間(毎週三回)ツロイン、ムキルケネス間(毎週一回)の快速力維持の爲四會社間に使用船一隻に付年額二十三萬クロノの補助金を支給す其地スバンスケ汽船會社の四航路に對し年額七萬クロノの補助金を支給す  
三、造船保護制度 船齡二十年以上の貨物船の輸入を禁止し造船材料輸入關稅の補償として新造船三百噸以上の汽船に對し輸入船價の二分及修繕船同一分五厘を支給す但外國に於て機關を裝置したる場合は其補償額は前記金額

【海 運】



の三分の二とす

尙政府は一九二八―二九年度海運補助豫算五、八〇四千クローネを議會に提出した本補助金は沿岸航路三十七線に對し郵便航送料として支給される筈である

△瑞 典

特定航路たるストックホルム、スベア會社の瑞典芬蘭間每週一回の定期航海に於て年額三萬クローネの補助金を下附す尙冬期間の航海に對し二萬クローネの補助金を附加支給す

其の外自國建造船に對し資金の貸附を爲す制度を設け利子四分期間八ヶ年とし最初の二ヶ年据置干後六ヶ年間に全額の六分ノ一宛年賦償還とし年賦償還不履行の場合に年六分の利子を支拂ふものとす

尙一九二八年議會は貸附基金を三百萬クローネ増額(依つて總額は二千三百萬クローネとなる)の件並貸附利息年五歩(一步引上)の件を可決す

△西 班 牙

一、航海補助 現在航海保護制度は一般航海補助と特定航路補助との二あり之を總括して略記すれば左の如し

バルセロナ、ウルガイ間	受 命 者	補 助 金	契約期限
亞弗利加西海岸航路	アトランスアトランゲツク	二六、三三三、千ペセタ	一九二五年迄

一、造船保護制度造船獎勵金を支給することとし總噸數百噸以上の船舶を建造する場合一噸に付旅客汽船は四百七ペセタ並に公試運轉速力十六節を超えるときは一節に付普通獎勵金の一割を増額支給す

其他外國より輸入する船舶に對し五分乃至五割(普通稅率に對し)の輸入稅加重を爲し加ふるに船齡十年以上の船舶輸入を禁止す一方造船材料の輸入に對しては之を免除する等保護的色彩頗る濃厚である

△芬 蘭

政府は一九二八年議會に對し始めて左の如き造船補助案を提出する筈

(イ)造船貸附法案 貸附金額一〇〇、〇〇〇千芬蘭馬克

(ロ)造船業補助案 造船所に對する造船材料に關する補助と造船業者に對する純然たる補助金下附の二案

(ハ)航路補助申請 一九二六年新設されたるフキニツシュ、ソウスアメリカン、ライン(月一回)に對し七百五十萬芬蘭馬克補助の申請を議會に諮る

△智 利

政府は一九二八年一月法律による新海運補助法案を實施した大要左の如し

(イ)二ヶ年以上巴奈馬運河經由定期航路を經營せる智利國汽船會社に對し一ヶ年二百萬ペソ迄の補助金を支給する

(ロ)補助會社に純益より積立金を控除し殘額より株主に對し一割の配當金を支拂ひ猶剩餘金ある場合は株主と國家間にて按分すべき事

(ハ)本法實施に依り生じたる經費は領事館料を一齊に一割方増額することに依り支辨する

△伯 刺 西 爾

最大の「ロイド、ブラジレイロ」會社は、政府の直營に係るものにて、又航路補助金の支給を受け居る會社は、沿岸航行のものなり、其の補助金の年額合計二千萬「ミルレース」に達せり。

同同同同同同同同同同前頭	取頭	同同同同同同同同同同前頭
一一三四一二二一一一一	三三二八九	六一一六二二二一一二二二一
三三三三三三三三三三三三	八九四一六三三	三三三三三三三三三三三三
七八八九九〇一二三四五六	二四〇五六	八八九〇一〇一一一二一三
大太日池加朝深貝戶中橋英	共太日昭日	帝富奧岡日戌名三甲白小東
關洋下田納日澤島田野和	同洋魯工	國士平田成辰村南坂野海
汽海汽商文商增商汽太商	漁漁漁	商昌汽海商汽汽汽商汽
船運船事治會吉業船郎式會	業業業業	船國船運店船社船船事船
同同同同同同同同同同同	元進勸	同同同同同同同同同同同
一一二二一一一一一四二三一	海事彙報社調查部	二二一五一一二九一四三七二
二二二二二二二二二二二二		二二二二二二二二二二二二
八〇三三三三三三三三三三		八〇三三三三三三三三三三
五八本青字山口大和神植野		帝海馬北佐釜九二本海北山
十木郷木都本汽家田港田口		國幸場海藤石州宮卜運九科
嵐伊宮し船善權光		汽株合郵三鑛商純汽商禮
與本吉榮回や鑛次治汽次汽		船式資船郎山船一ル船船藏
助店郎藏漕業業郎郎船船		同同同同同同同同同同同
同同同同同同同同同同同		二一一三三一二三二二三一
一七一一一一一一一二一四二		一一二二二二二二二二二二
一一二二二二二二二二二二		九九〇一〇一二三四五七
九〇四一〇一〇一〇一〇一〇		三三三三三三三三三三三三
一七〇一七〇一七〇一七〇		大山片秋松堤鹿白平直藤津
青林楠海江昭宗千谷增博北		西本野田本兒井出江田久
木兼本通口和像歲川田多陸		慎商汽三汽一郵船商商慎商
音商汽公汽汽商汽三五鐵汽		二店船一船郎船部事船造會
松店船司船船事船郎郎道船		役查檢
同同同同同同同同同同同		二二一七二五〇三五五五九
一七一一一一一一一一二一四二		一一二二二二二二二二二二
一一二二二二二二二二二二		九九〇一〇一二三四五七
九〇四一〇一〇一〇一〇一〇		三三三三三三三三三三三三
一七〇一七〇一七〇一七〇		橫大陸農臺朝南遞商內大鐵
東金攝阿藤宇尼南北朝日大		濱阪軍林總總信工務藏道
京森陽波山和崎洋日鮮清連		市市省府府道省省省省
汽商商共海運船郵汽郵汽汽		
船船船同運輸部船船船船		

日本船主番附

昭和四年六月末現在  
汽船噸數(管理共)所噸有以現在者

司行

一 壹 壹  
二 四 八 三  
近 大 日  
海 阪 本  
郵 商 郵  
船 船 船

同同同同同同同同同同前小關大橫	同同同同同同同同同同前小關大橫
頭結脇關綱	頭結脇關綱
五五五六三七八五九九七三	六〇四六六七八八三三六〇
二二三三二六二八三三三三三	二二三三二六二八三三三三三
七六九七三三三三三三三三	二二三三二六二八三三三三三
山内石勝栗松三廣明東辰三	沙共下板岸橋日樺山川川國
本外原田林岡菱海治洋馬井	河立村谷本本本太下崎崎際
商汽產汽商汽船商海汽汽船	汽汽商汽汽共汽汽汽造汽
事船業船船船部事運船船部	船船船船船同船船船船船
同同同同同同同同同同同	同同同同同同同同同同同
四四三五四二五四四六二四	四五三五五四四八九五一七
二二三三二六二八三三三三三	二二三三二六二八三三三三三
三三三三三三三三三三三三	三三三三三三三三三三三三
六三六六六六六六六六六六	六三六六六六六六六六六六
橋大豐原笠本菅神山原攝旭	武町萬濱東乾佐村萩三岡嶋
谷福彦原夕谷戶本田津石	庫田成根和藤尾布上崎谷
株汽汽商力株商汽汽商	汽商汽商汽商合海株汽汽
式船船事事式船船船油	船會船店船名會資商式船船
同同同同同同同同同同同	同同同同同同同同同同同
二四三七三三六六五〇三五	三四二五三三二二六四二五
七八八八九九九〇〇一一二	八八八九九九〇〇一一二
八一四一四一四一四一四一四	〇三三三三三三三三三三三
四一四一四一四一四一四一四	一三三三三三三三三三三三
甲阿松嶋八白柄中軻飯上犬	吾内右林鹽田小神澤佐北酒
斐部浦谷馬洋木村商慶	妻田近崎中熊戶山藤進井
商商汽商汽汽商汽汽五	汽汽商與船商淺汽商汽汽
店會船船船船事組船船船	船船事船吉鑛店橋船店船
同同同同同同同同同同同	同同同同同同同同同同同
二二一一一五一一三二二二	二二二一一一三二二二二二
四五五五五五六六六七七七	五五五五五六六六六六六
九三三三三三三三三三三三	〇二二二二二二二二二二二
筒大矢北昭日日山北大扶	大佐大桂大北森神佐小清田
井信吹洲和之出九海華和桑	北藤家正洋平戶藤倉水
清汽合汽商汽汽運礦汽汽海	汽汽商汽汽汽汽汽商石船
松船名船船船船輪汽船船運	船助事船船船船店油部事

世界大船主

(一九二九年六月ロイド調査)  
總噸數十萬噸以上所有者

船主名	國籍	隻數	總噸數
米國船船院	米	六九	三、三二、三九
漢米線	獨	一七	九七、五〇
北獨ロイド	同	一五	八三、七五
英印汽船	同	一三	七四、八四
エラーマン・ライン系	同	二五	六五、九二
フアーネス・ウキジイ系	同	二五	六五、九二
青筒線系	同	一八	六四、二五
日本郵船	日	九	六〇、八四
ブリテツシユ・タンカー	英	一〇	五九、九二
彼阿汽船	同	六	五八、五〇
フレンチ・ライン	佛	九	五〇、二八
白星線	英	九	五三、五八
大阪商船	日	一〇	四七、三六
ビツパীগ汽船	米	八	四六、二六
スタンダード石油	同	七	四五、一七
M.M系	同	五	四二、四八
加奈陀太平洋汽船	英	二	三八、九三
キユーナード汽船	同	二	三八、九三
ネダーランド汽船	和	四	三七、三二
シヤルヂユール	佛	四	三〇、八九
ウエア・アンドリウ	英	八	三〇、五五
ロツテルダム・ロイド	和	七	三七、九五

ウキルヘルムセン	英	五	三七、四八
ユニオン・キヤツスル・メール	英	七	三六、九三
スタンダード運輸	米	六	三九、八八
農務政府	露	一	三六、六三
エルダー・デンプスター	英	七	三五、二五
和蘭亞米利加線	和	七	三四、五九
國際汽船	日	五	三三、八九
加奈陀汽船線	英	二	三二、七七
アングロ・サクソン石油	同	七	三〇、四四
ハンザ汽船	獨	四	二九、四四
克蘭・ライン	英	五	二八、六六
ロイド・ブラジレイロ	伯	八	二八、一九
レイランド・ライン	英	六	二八、〇八
コニングクリック・バケットパート	和	四	二七、〇一
ハリソン・T.J	英	五	二七、八六
ランボート・ホルト	同	四	二七、五九
英國海軍省	英	一〇	二七、一六
ビツカンド・マザー	米	四	二六、一三
ロイアル・メール本社	英	四	二六、二二
ロイアル・ネザールランド	和	九	二四、九一
丁抹聯合汽船	米	一	二四、七四
チャツプマン系	丁	三	二三、八三
イーグル石油	英	三	二三、四五
青星線(一九二〇年)	同	七	二三、六七

カナダ・ナシヨナル	同	五	二七、三二
ヘイン汽船	同	五	二六、九二
ロバート・ダラー	米	七	二五、一七
新西蘭ユニオン汽船	英	八	二五、〇五
プロツクレンバンク	同	三	二四、九三
ロイド・トリエスチノ	伊	四	二〇、一五
ガルフ・レフアイン	米	七	二〇、二二
フエデラル汽船	英	二	二〇、七二
コムモンウエルズ殖民線	同	二	二〇、二七
N.G.T	同	九	一九、一八
N.リベラ・トリエスチノ	同	三	一九、六五
エルター&ファイフェス	英	六	一八、四九
太平洋汽船	同	二	一七、四九
川崎汽船(造船共)	日	四	一七、九三
パン・アメリカン・ペトリウム	米	六	一七、〇八
コスリツク	同	三	一七、二五
ソタ・アズナー	西	四	一六、〇〇
セオ・トンブソン	英	三	一五、六三
スマイス・ウキリアム	同	三	一五、〇六
ルツケンバツハ	米	二	一五、四八
支那郵船	英	六	一四、八〇
ユナイテッド・ネザールランド	和	六	一三、四三
オリエント汽船	英	九	一三、〇六
グレース・W.R	米	三	一五、八三

東亞汽船	丁	六	一四、〇八
ウアツツ・ウアツツ	英	六	一四、一八
新西蘭海運	同	四	一四、五九
マツトン郵船	米	二	一三、九〇
ユナイテッド・フルーツ	同	三	一三、八四
近海郵船	日	四	一三、〇一
ハツチンソン	米	四	一三、三七
ロプナー・サー	英	二	一三、九〇
ホガース・エツチ・ソンス	同	七	一三、四六
アンカー・ライン	同	六	一三、九七
トラサトランチツク	同	三	一三、〇六
南太平洋鐵道	米	三	一三、四七
エラーマン・ウキルソン	英	五	一三、一七
ハミルトン・セー	同	四	一三、八七
シヨール・ザビル・アルピオン	同	五	一三、八七
オセアニツク・オリエンタル	同	二	一三、六二
トラス・メツター	米	二	一三、五〇
エキスポート汽船	白	三	一三、四七
ロイド・ロイアル・ベルゲ	英	三	一三、八五
ネルソン汽船	同	三	一三、七〇
ユイゴ・ストラベンスキ・ロイド	同	五	一三、〇六
ステーツ汽船	米	二	一三、二九
パン・ニールト	和	二	一三、〇一
ウエストファール・ラーセン	諾	三	一三、〇八

【海 運】

瓜哇支那日本汽船	和	二八、九六
ゼネラル運輸	佛	二七、九六
バルチック・アメリカ	英	二七、二六六
ビツビー・プロス	英	二五、九八
ヘルデン	同	二三、九七
グレンヂスバーク	瑞	二三、〇五
エラーマン・バツクナル汽船	英	二三、八五
マンソン汽船	米	一一、八〇
トランス・アトランチック	瑞	一一、五〇
アルメント・デツプ	日	一一、〇六
日本政府	日	一〇、九七
ドツツ・トムソン	同	一〇、七六
トンプソン・ウキリアム	米	一〇、六七
ランシマン・W	佛	一〇、五七
デルマス・フレンチ	佛	一〇、三三
ノツセン・ナツト	日	一〇、二四
三井物産船舶部	日	一〇、二四
モラー・A・P	米	一〇、一五
グレート・レイク	米	一〇、〇三
ナビゲーシヨ	米	一〇、五七
英國主要船主系		
ロイアル・メーブル系	三五社	五五隻
青筒線系	四社	六隻
フアーノス・ウキジー系	二三社	三隻
		二、五〇、八〇五噸

彼阿汽船系	一五	四四	二、四八〇、七三
キユーナーード系	六	一〇三	五〇三、六七五
エラーマン系	八	一九六	九〇一、三〇九

世界最大船舶

船名	國籍	總噸數	速力	製造年
※Majestic	英	五、六二	二五節	一九二
※Leviathan	米	五、九七	二五	一九二
Berengaria	英	五、三六	二三	一九二
Olympic	英	四、四九	二三	一九一
Aquitania	英	四、四七	二三	一九一
De France	佛	四、一五	二三	一九一
Paris	佛	四、一五	二三	一九一
Homeric	英	三、五九	二〇	一九三
Augustus	伊	三、六〇	一九	一九三
Roma	伊	三、五八	二二	一九三
Columbus	獨	三、三三	二〇	一九三
Mauretania	英	三、〇六	二五	一九二
Stetendam	和	二、五二	一八	一九九
Belgenland	英	二、七三	一七半	一九七
Cap Arcona	獨	二、七三	二〇	一九七
Conte Grande	伊	二、六二	二二	一九二
Empress of Scotland	英	二、五二	一七半	一九五
Adriatic	英	二、四三	一八	一九六

Conte Biancamano	伊	二、四六	二〇	一九五
Dulio	伊	二、四一	二一	一九三
Rotterdam	和	二、四九	二七	一九八
Vulcania	伊	二、九〇	一九	一九八
Staurmia	伊	二、九四	一九	一九七
Baltic	英	二、八八	一七	一九四
Washington	米	二、九八	一八半	一九八
France	佛	二、七九	二〇	一九二
Aleantara	英	二、八一	一七半	一九六
Asturias	英	二、〇七	一七半	一九五
Minnetonka	英	二、九六	一六半	一九四
Empress of Australia	英	二、八三	一八	一九四
Minnewaska	英	二、七六	一六半	一九三
Giulio Cesare	伊	二、五七	一九	一九三
Empress of Canada	英	二、五七	二〇	一九三
New York	獨	二、四五	一六半	一九七
America	米	二、三九	一七	一九五
Cedric	英	二、三三	一七	一九三
Hamburg	獨	二、一三	一六半	一九三
Mooltan	英	二、〇七	一六半	一九三
Maloja	英	二、〇八	一六半	一九三
Albart Ballin	獨	二、〇八	一六	一九三
Deutschland	獨	二、〇七	一六	一九三
Cap Polonio	獨	二、〇五	一八	一九四

船名	國籍	總噸數	速力	製造年
Corinthia	英	二〇、二七	一六半	一九五
Kungsholm	瑞	二〇、三三	一七	一九八
Franconia	英	二〇、一五	一六半	一九三
D. of Bedford	英	二〇、一三	一七半	一九八
D. of Atholl	英	二〇、二九	一七半	一九八
Carnarvon, Castle	英	二〇、〇三	一八	一九六
Oranto	英	二〇、〇三	二〇	一九五
D. of Richmond	英	二〇、〇三	一八	一九三
D. of York	英	二〇、〇三	一八	一九九
Oronsay	英	二〇、〇一	二〇	一九五
Orontes	英	二〇、〇〇	二〇	一九九

※印を附せるレピアザン號の噸數は米國計算法に依りたるものでマゼスチック號より八呎、長さに於て短く之を英國計算法に據れば五四、二八二噸となり反對にマゼスチック號を米國計算法に據れば六一、二〇六噸となり世界第一位船となる

尙右船舶中總噸數二〇、〇〇〇噸以上、速力一六節以上船齡二十年未滿のものに就き國別所有數を示せば左の如し

國別	隻數	總噸數	國別	隻數	總噸數
英國	二四	六三六、二四九	獨逸	七	一六、四三
伊太利	八	二〇九、二五八	和蘭	一	二九、五二
佛蘭西	三	一〇一、四七一	瑞典	一	二〇、三三
米國	一	五九、九七七	總計	三三	一、三三、〇三

【海 運】

船舶

▲世界汽船

增加趨勢

(百噸以上汽船)

年次	船數	噸數
一九〇〇	一五、八九八	三、三六九、五五八
一九〇一	一六、五三八	三、四〇八、八八三
一九〇二	一七、一五六	三、五八五、九八七
一九〇三	一七、七六一	三、七一一、三六五
一九〇四	一八、四六七	三、八三三、六八四
一九〇五	一九、一五三	三、九六三、三九三
一九〇六	一九、八七七	四、〇七四、九〇四
一九〇七	二〇、七〇六	四、二六六、八一
一九〇八	二一、五五〇	四、四七三、〇九五
一九〇九	二二、九〇九	四、七三三、〇三二
一九一〇	二三、〇〇八	四、九六九、九五五
一九一一	二三、七三三	五、一七三、五七三
一九一二	二四、五八一	五、四一七、一七七
一九一三	二五、三九七	五、六八七、一七七
一九一四	二六、四四四	五、九八三、八七七
一九一五	二七、五〇八	六、二九二、〇八

▲本邦海運

發達趨勢

(百噸以上汽船)

年次	隻數	噸數	年次	隻數	噸數
一九一六	二四、一三三	四、二四七、七四	一九二七	四七、一七一	九、二六
一九一七	二四、三六六	四、三九七、四〇七	一九二八	四八、八四六	九、三二
一九一八	二四、五三三	四、五〇四、六八八	一九二九	五〇、四一四	九、三九
一九一九	二四、八四三	四、六二一、三三五	一九三〇	五二、〇七	九、四六
一九二〇	二五、一五五	四、七四三、九三二	一九三一	五三、七三三	九、五三
一九二一	二五、四六六	四、八七二、四〇〇	一九三二	五五、四〇	九、六〇
一九二二	二五、七七八	五、〇〇六、三三三	一九三三	五七、〇七	九、六七
一九二三	二六、一〇〇	五、一四一、四〇〇	一九三四	五八、七三三	九、七四
一九二四	二六、四一三	五、二七六、四七三	一九三五	六〇、四〇〇	九、八一
一九二五	二六、七二六	五、四一三、五四六	一九三六	六二、〇六六	九、八八
一九二六	二七、〇三九	五、五五二、六一九	一九三七	六三、七三三	九、九五
一九二七	二七、三五二	五、六九二、七七二	一九三八	六五、四〇〇	一〇、〇二
一九二八	二七、六六五	五、八三三、八四五	一九三九	六七、〇六六	一〇、〇九
一九二九	二七、七八八	五、九七四、九八八	一九四〇	六八、七三三	一〇、一六
一九三〇	二八、〇〇一	六、一一一、〇六一	一九四一	七〇、四〇〇	一〇、二三
一九三一	二八、三一四	六、二五二、一三四	一九四二	七二、〇六六	一〇、三〇
一九三二	二八、四二七	六、三九三、二〇七	一九四三	七三、七三三	一〇、三七
一九三三	二八、五四〇	六、五三四、二八〇	一九四四	七五、四〇〇	一〇、四四
一九三四	二八、六五三	六、六八四、三五三	一九四五	七七、〇六六	一〇、五一
一九三五	二八、七六六	六、八二五、四二六	一九四六	七八、七三三	一〇、五八
一九三六	二八、八七九	六、九六六、五〇〇	一九四七	八〇、四〇〇	一〇、六五
一九三七	二八、九九二	七、一〇七、五七三	一九四八	八二、〇六六	一〇、七二
一九三八	二九、一〇五	七、二四八、六四六	一九四九	八三、七三三	一〇、七九
一九三九	二九、二一八	七、三八九、七一九	一九五〇	八五、四〇〇	一〇、八六
一九四〇	二九、三三一	七、五四〇、八四二	一九五一	八七、〇六六	一〇、九三
一九四一	二九、四四四	七、六八二、九一五	一九五二	八八、七三三	一一、〇〇
一九四二	二九、五五七	七、八二四、〇〇〇	一九五三	九〇、四〇〇	一一、〇七
一九四三	二九、六七〇	七、九六五、〇七三	一九五四	九二、〇六六	一一、一四
一九四四	二九、七八三	八、一〇六、一四六	一九五五	九三、七三三	一一、二一
一九四五	三〇、〇九六	八、二四七、二一九	一九五六	九五、四〇〇	一一、二八
一九四六	三〇、二〇九	八、三八八、二九二	一九五七	九七、〇六六	一一、三五
一九四七	三〇、三二二	八、五二九、三六五	一九五八	九八、七三三	一一、四二
一九四八	三〇、四三五	八、六七〇、四三八	一九五九	一〇〇、四〇〇	一一、四九
一九四九	三〇、五四八	八、八一一、五一	一九六〇	一〇二、〇六六	一一、五六
一九五〇	三〇、六六一	八、九五二、五八四	一九六一	一〇三、七三三	一一、六三
一九五一	三〇、七七四	九、〇九三、六五七	一九六二	一〇五、四〇〇	一一、七〇
一九五二	三〇、八八七	九、二三四、七三〇	一九六三	一〇七、〇六六	一一、七七
一九五三	三一、〇〇〇	九、三七五、八〇三	一九六四	一〇八、七三三	一一、八四
一九五四	三一、一一三	九、五一六、八七六	一九六五	一一〇、四〇〇	一二、〇一
一九五五	三一、二二六	九、六五七、九四九	一九六六	一一二、〇六六	一二、〇八
一九五六	三一、三三九	九、七九九、〇二二	一九六七	一一三、七三三	一二、一五
一九五七	三一、四五二	九、九四〇、〇九五	一九六八	一一五、四〇〇	一二、二二
一九五八	三一、五六五	一〇、〇八二、一六八	一九六九	一一七、〇六六	一二、二九
一九五九	三一、六七八	一〇、二二三、二四一	一九七〇	一一八、七三三	一二、三六
一九六〇	三一、七八一	一〇、三七四、三一四	一九七一	一二〇、四〇〇	一二、四三
一九六一	三一、八九四	一〇、五一五、三八七	一九七二	一二二、〇六六	一二、五〇
一九六二	三一、〇〇七	一〇、六五六、四六〇	一九七三	一二三、七三三	一二、五七
一九六三	三一、一二〇	一〇、八〇七、五三三	一九七四	一二五、四〇〇	一二、六四
一九六四	三一、二三三	一〇、九四八、六〇六	一九七五	一二七、〇六六	一二、七一
一九六五	三一、三四六	一一、〇八九、六七九	一九七六	一二八、七三三	一二、七八
一九六六	三一、四五九	一一、二三〇、七五二	一九七七	一三〇、四〇〇	一二、八五
一九六七	三一、五七二	一一、三七一、八二五	一九七八	一三二、〇六六	一二、九二
一九六八	三一、六八五	一一、四七二、八九八	一九七九	一三三、七三三	一三、〇〇
一九六九	三一、七九八	一一、六一三、九七一	一九八〇	一三五、四〇〇	一三、〇七
一九七〇	三一、九一一	一一、七五四、〇四四	一九八一	一三七、〇六六	一三、一四
一九七一	三二、〇二四	一一、八九五、一一七	一九八二	一三八、七三三	一三、二一
一九七二	三二、一三七	一二、〇三六、一九〇	一九八三	一四〇、四〇〇	一三、二八
一九七三	三二、二五〇	一二、一七八、二六三	一九八四	一四二、〇六六	一三、三五
一九七四	三二、三六三	一二、三一九、三三六	一九八五	一四三、七三三	一三、四二
一九七五	三二、四七六	一二、四八〇、四〇九	一九八六	一四五、四〇〇	一三、四九
一九七六	三二、五八九	一二、五六一、四八二	一九八七	一四七、〇六六	一三、五六
一九七七	三二、七〇二	一二、六四二、五五五	一九八八	一四八、七三三	一三、六三
一九七八	三二、八一五	一二、七三三、六二八	一九八九	一五〇、四〇〇	一三、七〇
一九七九	三二、九二八	一二、八二四、七〇一	一九九〇	一五二、〇六六	一三、七七
一九八〇	三三、〇四一	一二、九一五、七七四	一九九一	一五三、七三三	一三、八四
一九八一	三三、一五四	一三、〇〇六、八四七	一九九二	一五五、四〇〇	一三、九一
一九八二	三三、二六七	一三、〇九七、九二〇	一九九三	一五七、〇六六	一三、九八
一九八三	三三、三八〇	一三、一八八、九九三	一九九四	一五八、七三三	一四、〇五
一九八四	三三、四九三	一三、二七九、〇六六	一九九五	一六〇、四〇〇	一四、一二
一九八五	三三、六〇六	一三、三七〇、一三九	一九九六	一六一、〇六六	一四、一九
一九八六	三三、七一〇	一三、四六〇、二一二	一九九七	一六二、七三三	一四、二六
一九八七	三三、八二三	一三、五五〇、二八五	一九九八	一六四、四〇〇	一四、三三
一九八八	三三、九三六	一三、六四〇、三五八	一九九九	一六六、〇六六	一四、四〇
一九八九	三四、〇四九	一三、七三〇、四三一	二〇〇〇	一六七、七三三	一四、四七
一九九〇	三四、一六二	一三、八二〇、五〇四			
一九九一	三四、二七五	一三、九一〇、五七七			
一九九二	三四、三八八	一四、〇〇〇、六五〇			
一九九三	三四、五〇〇	一四、〇九〇、七二三			
一九九四	三四、六一三	一四、一八〇、八〇六			
一九九五	三四、七二六	一四、二七〇、八七九			
一九九六	三四、八三九	一四、三六〇、九五二			
一九九七	三四、九五二	一四、四五〇、〇二五			
一九九八	三四、〇六五	一四、五四〇、〇九八			
一九九九	三四、一七八	一四、六四〇、一七一			
二〇〇〇	三四、二九〇	一四、七三〇、二四四			

年次	噸數	年次	噸數
一九〇一	一、九七七	一九二一	二、〇〇三
一九〇二	二、〇〇六	一九二二	二、〇三二
一九〇三	二、〇三五	一九二三	二、〇六一
一九〇四	二、〇六四	一九二四	二、〇九〇
一九〇五	二、〇九三	一九二五	二、一一九
一九〇六	二、一二二	一九二六	二、二二八
一九〇七	二、一五一	一九二七	二、二五七
一九〇八	二、一八〇	一九二八	二、二八六
一九〇九	二、二〇九	一九二九	二、三一五
一九一〇	二、二三八	一九三〇	二、三四四
一九一一	二、二六七	一九三一	二、三七三
一九一二	二、二九六	一九三二	二、四〇二
一九一三	二、三二五	一九三三	二、四三一
一九一四	二、三五四	一九三四	二、四六〇
一九一五	二、三八三	一九三五	二、四八九
一九一六	二、四一二	一九三六	二、五三八
一九一七	二、四四一	一九三七	二、五六七
一九一八	二、四七〇	一九三八	二、五九六
一九一九	二、四九九	一九三九	二、六二五
一九二〇	二、五二八	一九四〇	二、六五四
一九二一	二、五五七	一九四一	二、六八三
一九二二	二、五八六	一九四二	二、七一二
一九二三	二、六一五	一九四三	二、七四一
一九二四	二、六四四	一九四四	二、七七〇
一九二五	二、六七三	一九四五	二、七九九
一九二六	二、七〇二	一九四六	二、八二八
一九二七	二、七三一	一九四七	二、八五七
一九二八	二、七六〇	一九四八	二、八八六
一九二九	二、七八九	一九四九	二、九一五
一九三〇	二、八一八	一九五〇	二、九四四
一九三一	二、八四七	一九五一	二、九七三
一九三二	二、八七六	一九五二	三、〇〇二
一九三三	二、九〇五	一九五三	三、〇三一
一九三四	二、九三四	一九五四	三、〇六〇
一九三五	二、九六三	一九五五	三、〇八九
一九三六	二、九九二	一九五六	三、一一八
一九三七	三、〇二一	一九五七	三、一四七
一九三八	三、〇五〇	一九五八	三、一七六
一九三九	三、〇七九	一九五九	三、二〇五
一九四〇	三、一〇八	二〇〇〇	三、二三四
一九四一	三、一三七		三、二六三
一九四二	三、一六六		三、二九二
一九四三	三、一九五		三、三二一
一九四四	三、二二四		三、三五〇
一九四五	三、二五三		三、三七八
一九四六	三、二八二		三、四〇七
一九四七	三、三一		三、四三六
一九四八	三、三三		三、四六五
一九四九	三、三五		三、四九四
一九五〇	三、三六		三、五二三
一九五一	三、三八		三、五六一
一九五二	三、四〇		三、五九〇
一九五三	三、四二		三、六一九
一九五四	三、四四		三、六四八
一九五五	三、四六		三、六七七
一九五六	三、四八		三、七〇六
一九五七	三、五〇		三、七三五
一九五八	三、五二		三、七八四
一九五九	三、五四		三、八一三
二〇〇〇	三、五六		三、八四二

▲世界船舶噸數 (噸數百噸以上) (每年度六月末現在、ロイド調査)

國別	一九二三年	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年	一九二九年
英國	二、六九五、〇七四	三、五〇六、〇四四	三、九〇七、九三四	三、九五五、四六〇	三、八七三、九六七	三、五〇四、一七六	三、四一四、六三九
米國	一、五、六四、七六七	一、四、七三、三二四	一、四、二七、三三九	一、三、八二、一四三	一、三、六九〇、九四八	一、三、七〇二、八五五	一、三、五九一、八〇三
獨逸	一、二、三〇、五七六	一、一、八五、六五三	一、一、〇五、一五一	一、〇、五七、六一八	一、〇、九七九、三三四	一、〇、三〇〇、五七五	一、〇、〇五七、六五七
諾威	二、五九、七六八	二、八七、三三〇	三、〇〇六、二七〇	三、〇六二、〇九五	三、三〇〇、四九二	三、七六八、六七	四、〇五七、六五七
佛國	二、七五、九七〇	二、三九、三四四	二、六八、四四五	二、八〇、五四四	二、八〇三、五五二	二、九五三、九四四	三、〇二二、六八八
伊太利	三、四三、九四〇	三、二八、八三四	三、三九、四四五	三、四六、三九七	三、三六、六七九	三、二五五、八三三	三、〇三二、六八四
日本	二、八〇、七三六	二、〇八、三九九	二、九三〇、八三六	一、六六、二〇九	三、三九五、五三三	三、三四八、七三二	三、二五、三三七
和蘭	一、五、九六六	一、二三、六〇六	九七、八三五	九〇、三八四	八七、八六一	八〇、〇八七	六九、三三三
露國	三、六四、一四七	三、八四三、七〇七	三、九一九、八〇〇	三、九七、六一七	四、〇三三、三〇四	四、一三九、八一五	四、一八六、六五二
瑞典	二、六〇七、二二〇	二、五四二、一八〇	二、五八七、七八九	二、五五二、六一三	二、六四五、〇三五	二、八〇九、三七五	二、九三三、四二〇
瑞典	一、一、三五、六二二	一、四、二、三七	一、三、〇、四二	一、三、二、九一	一、三、〇、八八一	一、三、七、三三〇	一、四、三、七五〇
海運—船舶—	七、一一五	七、八七一	八、四〇三	八、四〇三	八、四〇三	七、六九一	三、三九七
	一、一、三五、六二二	一、二、九一、〇七六	一、二、五三、九〇〇	一、二、九四、五七六	一、二、九四、五七六	一、三、三八、七四五	一、四、八〇、一八九
	七、一一五	六、三、四七四	四、七、三三六	四、三、五二三	四、三、五二三	三、六、六四五	二、九、九三六

【海運—船舶】

丁抹 西班牙 希臘 伯刺 西爾 白耳義 葡萄牙 亞爾 然爾 其他及 未計 總計

Table showing shipping statistics for various countries (Dutch, Spanish, Greek, etc.) categorized by ship type (sailing, steam) and age (5 years, 10 years, etc.).

世界船舶噸型別年齡比較

(一九二九年六月現在口) (以下調査總噸百噸以上)

世界船舶總計內容

Table showing world shipping statistics categorized by ship type (sailing, steam) and age (5 years, 10 years, 15 years, etc.).

五百噸以上 千噸以上 二千噸以上 四千噸以上 六千噸以上 八千噸以上 一萬噸以上 一萬五千噸以上 二萬噸以上 總計

英國

Table showing shipping statistics for Great Britain, categorized by ship type (sailing, steam) and age (5 years, 10 years, 15 years, etc.).

【海運—船舶】

【海運—船舶—】

五百噸以上	七百四十九	二五九	七、八九九	六〇、一三八	四五、七〇八	二四、五七九	四九一、七三〇
千噸以上	二〇八、八二三	二二五	一、二五九	一、一三三	一、一三三	一、一三三	一、一三三
二千噸以上	四四、七五五	一七七	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三
四千噸以上	一、六三三、六九九	二二九	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三
六千噸以上	八六五、〇〇八	一七七	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三
八千噸以上	三三七、三六六	一七七	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三
一萬噸以上	三六四、〇三〇	一七七	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三
一萬五千噸以上	二九三、三六二	一七七	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三
二萬噸以上	二五、三三〇	一七七	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三
總計	四、五九一、八二六	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三

五百噸以上	七、二七三	一四、七〇〇	五五、二九九	一八、四四六	一五、〇〇二	五九、四四六	一六九、五三〇
五年以上	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一四、七〇〇
十年以上	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一四、七〇〇
十五年以上	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一四、七〇〇
二十年以上	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一四、七〇〇
廿五年以上	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一四、七〇〇
以廿五年以上	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一四、七〇〇
合計	一六九、五三〇	一六九、五三〇	一六九、五三〇	一六九、五三〇	一六九、五三〇	一六九、五三〇	一六九、五三〇

(航洋船)

【海運—船舶—】

五百噸以上	四、五九一	九、五二二	一四、七〇三	二四、〇四一	二四、五二〇	五〇、〇八八	一三七、四四五
千噸以上	三、九四七	八、一三二	七、〇四一	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三
二千噸以上	五〇、四九九	四〇八、一一一	八八、〇三二	二、二五〇	二、二五〇	二、二五〇	二、二五〇
四千噸以上	六〇、八八六	一一〇、九八四	二、二七四、九二九	一、八六、三六〇	一、八六、三六〇	一、八六、三六〇	一、八六、三六〇
六千噸以上	二六、二四三	一、三五七、九八四	一、六五九、八九〇	一、七二、二六四	一、七二、二六四	一、七二、二六四	一、七二、二六四
八千噸以上	六九、〇七六	四四、五八三	二〇、四一八	三五、六三五	三五、六三五	三五、六三五	三五、六三五
一萬噸以上	六六、二六二	三八五、三六三	四三、三七八	一八、〇一一	一八、〇一一	一八、〇一一	一八、〇一一
一萬五千噸以上	一七、二二三	一七、二八一	一七、二八一	一七、二八一	一七、二八一	一七、二八一	一七、二八一
二萬噸以上	六三、〇九八	一七、二八一	一七、二八一	一七、二八一	一七、二八一	一七、二八一	一七、二八一
總計	三、八七九、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三

合計

一七三、八五五

【海運—船舶—】

船型	五年以内	五年以上	十年以上	十五年以上	廿年以上	廿五年以上	以廿五年以上	合計
千噸以上	一六、三五	二、八七五	七六、三九	二、三五〇	一三、三八	四〇、九五五	一八〇、六一	二六六
二千噸以上	二八、四一六	四九、五〇〇	一五九、一六四	一〇、五〇一	二九、六二	九九、三七	三六六、四二	二六〇
四千噸以上	八六、六五四	一八一、八五八	二八三、三五	六六、七二	七九、八〇九	三九六、二七	一、〇九四、〇六	三六六
六千噸以上	七三、三〇	二九四、〇五七	四三六、五六八	八五、五〇	二九六、二七	三九六、二七	一、三〇六、六五四	一〇〇
八千噸以上	七、九三	二四六、〇〇	二六、七二	二五、七七	五二、一〇	六七、八二四	二二〇、三三	一〇〇
一萬噸以上		四、八八	七、八九八	六五、〇四	一七、一八	九、九五九	六八、四一五	一〇〇
一萬五千噸以上		四、六四		四七、〇九	一三、四〇		二七、七六	
二萬噸以上	三、六〇〇						三、六〇〇	
總計	三三、四八二	九一五、三七三	一、三〇〇、〇七三	三三六、六三三	三四七、六二四	九三五、四六八	四、一八六、六五二	

【海運—船舶—】

船型	五年以内	五年以上	十年以上	十五年以上	廿年以上	廿五年以上	以廿五年以上	合計
千噸以上	八〇、五八一	一三四、四一五	二六、三三	二四、七〇〇	三、五七八	八八、〇三	三六六、五七四	二六一
二千噸以上	一〇三、一三七	二六九、一七三	三、〇六三	四三、一〇八	六、六三五	一三七、二七〇	六二七、三九二	二二四
四千噸以上	六八、八〇〇	三三六、九八三	五、七六	一四五、五二	八四、八六三	一一二、〇八五	八〇一、〇五二	一六〇
六千噸以上	二九、四二	二九七、二五四	二八、〇七四	七四、四七	六八、三四	三四、四九六	七九六、〇四七	一一五
八千噸以上	一四、八六三	二〇六、九八七	四、三九五	一六、九四	二六、八五四	八、〇四九	四四九、八二二	五二
一萬噸以上	二五、四二三	一三八、四三		二四、八二		一〇、八二	一九九、四七六	一六
一萬五千噸以上	四八、〇八	三九、四九					一〇四、四八三	六
二萬噸以上	一六、一四九	七三、七七		二〇、五二			二五六、四三	九
總計	九七四、六三	一、六〇七、四三四	二〇六、九三	四二、二九九	三四八、六八四	五〇八、八六六	四、〇五七、六五七	



千噸以上	一八、九六六	四四、九四三	三五、六四一	三〇、〇五〇	二九、一三三	七〇、一八一	二、〇五九
二千噸以上	一、九六六	二五、一六七	一〇、二〇六	八、五八四	七、八五六	一、二〇五	二、四三三
四千噸以上	三〇、一九六	三三、四一八	一八、〇三三	一〇九、九三五	九三、六九三	一、二六二	六、七〇〇
六千噸以上	六、七五八	一、五一一	二、六七〇	一〇九、九三五	四六、七二七	六三、〇〇五	四、四一六
八千噸以上	二、三七八	一、六八〇	六、一三二	六、一三二	八〇、三五九	八、二八七	四、一六五
一萬噸以上	四三、二七五	一、六八〇	二、四二六	七、〇九五	二、六五七	八、二八七	四、一六五
一萬五千噸以上	三三、〇〇七	八、九三四	二、四二六	七、〇九五	二、六五七	八、二八七	四、一六五
二萬噸以上	一、五二七	四、八二七	二、三三三	二、三三三	二、三三三	二、三三三	二、三三三
總計	二八七、五六七	一、一三九、五八七	四七二、五〇二	五八二、九九九	三、八二二、五〇二	四、三七、五七	三、三〇三、六八四

▲世界船舶國別年齡比較

英國	五年未滿	十年未滿	十五年未滿	廿年未滿	廿五年未滿	廿五年以上	合計
英國	一、四九九隻	一、六八五	一、七九七	一、五七三	一、一四四	二、一〇二	九、八〇〇
米國	五、〇七五噸	五、六五五、二二〇	三、九九九、四九九	三、八九九、〇六三	二、〇一八、七五三	二、二六、六〇四	三三、八六一、六三九
英國	一、三三	七、八九	一、二五五	二、九八	三、三五	六、七四	三、五二四
米國	五、四九九、九一四	三、九八〇、一六八	五、三五六、二二〇	九、五七、七四三	一、三〇八、一〇三	一、三三四、七五七	一三、四八六、八九五

(一九二九年六月口イ)  
(下調査總噸百噸以上)

日本	三三一、四八二	九一五、三七三	一、三〇〇、〇七三	三三六、六三三	三四七、六一四	九二五、四七七	四、一八六、六五二
獨逸	二九四	六二七	二二五	二二九	二七二	四二八	二、一〇五
佛國	九七四、六三三	一、六〇七、四三四	二〇六、九三二	四二一、二二九	三四八、一八七	五〇八、八八六	四、〇五七、六五七
伊太利	二八七、五六七	一、一三九、五八七	四七二、五〇二	五八二、九九九	三八二、五〇二	四三七、五二七	三、三〇二、六八四
諾威	五三、八四一	六八八、五五七	四〇六、六七六	三〇六、〇〇四	三四一、七五三	九三三、六六六	三、二二五、三三七
和蘭	八七五、三三〇	七四、五二〇	五八四、七三二	三六二、五八	二五三、七三九	四二六、九五七	三、二二七、七九五
瑞典	二四一	二六八	二八四	四九二、二二三	二六六、一一二	一四六、六二六	一、三三〇
希臘	三三、二五九	四六、七九	九九、八七二	一五六、〇三五	三二、一八七	六二、六四七	一、二六六、六八五
西班牙	九六、七三三	二七〇、五八八	一六八、六五三	六八、六二七	六三、一三三	四六八、六五三	一、一三六、三三六
丁抹	一六九、〇五〇	三三八、四三一	一五六、七八五	一一一、八八七	七六、九八〇	一七九、六一一	一、〇三三、七四四
其他	六四、二二四	三九七、四九九	四三七、〇九六	五七〇、二七二	六五八、一〇一	一、五六三、一九八	四、二五〇、三八〇
合計	一〇、三五四、二二六	一六、九八二、五五四	一三、八五四、一七八	八、四〇四、七一五	六、五五三、四三九	一〇、二五八、二九一	六六、四〇七、三九三

▲世界優秀船舶別速力調

(總噸數五千噸以上)  
(船舶二十五年未滿)



【海 運—船舶—】

國別	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年	一九二九年
丁抹	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四
佛國	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四
獨逸	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四
和蘭	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四
伊太利	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四
日本	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四
諾威	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四
西班牙	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四
瑞典	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四
其他	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四
合計	一,五八八	一,五八八	一,五八八	一,五八八	一,五八八

▲世界油槽船國別調 (總噸數一千噸以上)

國別	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年	一九二九年
英國	三五	三五	三五	三五	三五
美國	三五	三五	三五	三五	三五
日本	三五	三五	三五	三五	三五
其他	三五	三五	三五	三五	三五
合計	一,五八八	一,五八八	一,五八八	一,五八八	一,五八八

國別	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年	一九二九年
日本	四七,一三七	四八,六八八	四七,五三一	六四,二八七	七六,九一一
白耳義	三〇,六四八	三〇,五八五	三〇,六〇二	三〇,六〇二	三〇,六〇二
西班牙	四,八七三	一六,二七〇	一六,二七〇	三七,五四一	四九,一七
瑞典	九,六四七	一,二六六〇	一,二六六〇	五二,五六二	五九,四七五
丁抹	一四六,八九四	二〇三,三七五	二四一,八〇一	三二四,二七	三五五,四三三
其他	一,〇〇六	五,五九八,一九八	一,〇五〇	一,一六七	一,一三六
合計	二,一七三,六三〇	二,一七三,六三〇	二,一七三,六三〇	二,一七三,六三〇	二,一七三,六三〇

▲世界船舶動力別比較趨勢 (%)

年次	帆船	燃油船	毛夕夕船	石炭船
一九二四	八〇.六	〇.四五	二.〇五	八八.八四
一九二二	五〇.五	二.〇〇	二.〇五	七〇.三〇
一九二〇	四七.〇	二.三五	二.三五	七〇.六二
一九一八	四〇.四	二.五六	二.四三	六八.八七
一九一六	三三.九	三.〇九	二.六九	六〇.二〇

▲本邦汽船累月現在數

船型	昭和三年九月末	同十二月末	昭和四年三月末	同六月末
百噸以下	一,六一九	一,六一九	一,六一八	一,六四五
三百噸以下	四一六	四一六	四〇七	四一一
五百噸以下	一四	一四	一四〇	一四〇
合計	一,五八八	一,五八八	一,五八八	一,五八八

【海 運—船舶—】

